

Oracle® WebCenter Sites

IBM WebSphere Application Server へのインストール

11g リリース 1 (11.1.1)

部品番号 : B69694-01

2012 年 4 月

Oracle® WebCenter Sites IBM WebSphere Application Server へのインストール, 11g リリース 1 (11.1.1)

部品番号 : B69694-01

原本名 : Oracle® WebCenter Sites Installing on IBM WebSphere Application Server, 11g Release 1 (11.1.1)

原本著者 : Melinda Rubenau

原本協力者 : Gaurang Mavadiya, Eric Gandt

Copyright © 2012 Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバースエンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントが、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供される場合は、次の Notice が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアまたはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアは、危険が伴うアプリケーション (人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む) への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、それを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性 (redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle および Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、他社の商標の可能性があり得ます。

Intel および Intel Xeon は Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices の商標または登録商標です。UNIX は、X/Open Company, Ltd のライセンスによる登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェアおよびドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても、一切の責任を負いかねます。

目次

| | |
|--|-----------|
| このガイドについて | 5 |
| 対象読者 | 5 |
| 関連ドキュメント | 5 |
| このガイド内の図 | 6 |
| 表記規則 | 6 |
| サード・パーティのライブラリ | 6 |
| 1 概要 | 7 |
| このガイドの構成 | 8 |
| Oracle WebCenter Sites をインストールする前に | 8 |
| インストールのクイック・リファレンス | 9 |
| このガイドで使用する頭字語と変数 | 12 |
| このガイドで使用するパスおよびディレクトリ | 12 |
| | |
| 第 1 部 データベース | |
| 2 データベースのセットアップ | 17 |
| | |
| 第 2 部 アプリケーション・サーバー | |
| 3 WebSphere Application Server のインストールと構成 | 21 |
| 起動および停止のコマンド | 22 |
| デプロイメント・マネージャ | 22 |
| ノード・エージェント | 22 |
| アプリケーション・サーバー | 23 |
| WebSphere Application Server のインストール | 24 |
| A. IBM Installation Manager のインストール | 24 |
| B. IBM IM を使用した WebSphere Application Server のインストール | 28 |

| | |
|--|----|
| C. WebSphere Application Server の更新..... | 40 |
| コマンドラインを使用した WAS インスタンスの作成 | 43 |
| WAS インスタンスの構成 | 46 |
| A. アプリケーション・サーバーの汎用 JVM 引数の構成 | 46 |
| B. Web コンテナの構成 | 48 |
| C. データベース通信のための WAS インスタンスの構成..... | 50 |
| D. CAS に対する WAS インスタンスの構成 | 64 |
| WebCenter Sites アプリケーションのデプロイ | 66 |
| WebCenter Sites アプリケーションの再起動 | 77 |

第 3 部 Web サーバー

| | |
|------------------------------------|-----------|
| 4 Web サーバーのセットアップ..... | 81 |
| IBM HTTP Server のインストール | 82 |
| Apache 2.2.x Web サーバーのインストール | 88 |
| サポートされている Web サーバーとの WAS の統合 | 88 |

第 4 部 Oracle WebCenter Sites

| | |
|---|-----------|
| 5 Oracle WebCenter Sites のインストールと構成..... | 99 |
| WebCenter Sites のインストール | 100 |
| インストールのオプション..... | 100 |
| インストール後の手順..... | 105 |
| A. ファイルの権限の設定 (Unix のみ) | 106 |
| B. XML パーサーのロード..... | 106 |
| C. ライブラリ・パス変数への WebCenter Sites バイナリ・ディレクトリ の追加 | 106 |
| D. インストールの検証 | 108 |
| E. Oracle Access Manager (OAM) と WebCenter Sites の統合 (オプション) | 111 |
| F. LDAP との統合 (オプション)..... | 112 |
| G. WebCenter Sites クラスタのセットアップ (オプション) | 112 |
| H. CAS クラスタのセットアップ (オプション)..... | 114 |
| I. CAS の再デプロイ (オプション)..... | 114 |
| J. 業務目的に合わせた WebCenter Sites のセットアップ..... | 114 |

このガイドについて

このガイドでは、IBM WebSphere Application Server 8 Network Deployment に Oracle WebCenter Sites をインストールし、選択したサポートされているデータベースに接続する手順について説明します。これには、単一メンバー環境および垂直クラスタ環境における WebCenter Sites のインストール手順も含まれます。

このガイドで説明しているアプリケーションは、旧 FatWire の製品です。命名規則は次のとおりです。

- Oracle WebCenter Sites は、以前は *FatWire Content Server* と呼ばれていたアプリケーションの現在の名前です。このガイドでは、Oracle WebCenter Sites を *WebCenter Sites* と呼ぶこともあります。
- Oracle WebCenter Sites: Web エクスペリエンス管理フレームワークは、以前は *FatWire Web Experience Management Framework* と呼ばれていた環境の現在の名前です。このガイドでは、Oracle WebCenter Sites: Web エクスペリエンス管理フレームワークを *Web エクスペリエンス管理フレームワーク* または *WEM フレームワーク* と呼ぶこともあります。

対象読者

このガイドは、インストール・エンジニアと、データベース、Web サーバーおよびアプリケーション・サーバーのインストールおよび構成の経験者を対象としています。

関連ドキュメント

詳細は、次のドキュメントを参照してください。

- 『Oracle WebCenter Sites: サポート・ソフトウェアの構成』
- 『Oracle WebCenter Sites: LDAP との統合』
- Oracle WebCenter Sites WEM フレームワーク管理者ガイド
- 『Oracle WebCenter Sites 管理者ガイド』
- 『Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド』

このガイド内の図

このガイドの多くの手順には、その手順を完了するために使用するダイアログ・ボックスおよび同様のウィンドウのスクリーン・キャプチャが挿入されています。スクリーン・キャプチャは、インストール・プロセスを理解しやすくするために記載しています。それらは、パラメータ値、選択するオプション、製品バージョン番号など特定の情報を示すことを目的としていません。

表記規則

このガイドでは、次のテキスト表記規則を使用します。

- **太字**は、ユーザーが選択するグラフィカル・ユーザー・インタフェース要素を示します。
- *斜体*は、ドキュメントのタイトル、強調、またはユーザーが特定の値を指定する変数を示します。
- 等幅の書体は、ファイル名、URL、サンプル・コード、または画面に表示されるテキストを示します。
- 等幅太字の書体は、コマンドを示します。

サード・パーティのライブラリ

Oracle WebCenter Sites およびそのアプリケーションには、サード・パーティのライブラリが含まれています。詳細は、*Oracle WebCenter Sites 11gR1: サードパーティのライセンス*を参照してください。

第 1 章

概要

この章では、WebCenter Sites のインストールの準備に役立つ情報を提供します。次の項があります。

- [このガイドの構成](#)
- [Oracle WebCenter Sites をインストールする前に](#)
- [インストールのクイック・リファレンス](#)
- [このガイドで使用する頭字語と変数](#)
- [このガイドで使用するパスおよびディレクトリ](#)

このガイドの構成

このガイドでは、単一メンバー環境および垂直クラスタ環境における WebCenter Sites のインストール手順について説明します。このガイドでは、WebCenter Sites のサポートに必要な IBM WebSphere Application Server 8 Network Deployment (このガイドでは WebSphere Application Server および WAS と呼びます) のインストールと構成についても説明します。これには、1つ以上の WAS インスタンスの構成、バックエンド・データベースの作成および WAS と IBM HTTP Server と Apache Web サーバーとの統合が含まれます。

このガイドの内容は、インストール手順を完了する順序ではなく、機能別に編成されています。たとえば、アプリケーション・デプロイメントなどの機能はアプリケーション・サーバーに関連しています。これは、後で WebCenter Sites をインストールするとき (第 IV 部) に実行されますが、第 II 部 (アプリケーション・サーバーについて説明している) で紹介します。WebCenter Sites のインストールの主な各コンポーネントはそれ自体の部で説明します。必要なインストール順序の要約は、この章の終わりに示します (9 ページの「インストールのクイック・リファレンス」を参照)。

Oracle WebCenter Sites をインストールする前に

- Oracle WebCenter Sites の動作保証マトリックスを参照し、現在サポートされているサードパーティ製品をインストールしていることを確認します。
- このガイドでは、サードパーティ製品の構成に関する選択された情報のみを提供しています。詳細および最新の e-fix、パッチ、およびサービス・パックの入手については、サード・パーティ製品のベンダーのドキュメントおよびリリース・ノートを参照してください。
- 提供されているインストーラを GUI またはサイレント・インストール・モードのいずれかで実行することで、WebCenter Sites をインストールおよびデプロイできます。GUI インストーラを実行すると、グラフィカル・インタフェースによりインストール・プロセスの手順が示され、必要に応じて情報を入力し、オプションを選択するように求められます。また、広範囲にわたるオンライン・ヘルプにもアクセスできます。サイレント・インストールの場合は、提供されているサンプル omii.ini ファイルの 1 つに、そのファイル内のコメントを参考にしてインストール設定を入力します。このファイルは、WebCenter Sites のインストールに使用されます。

- 使用環境内のすべてのシステムで、WebCenter Sites インストーラを実行します。システム・タイプには、コンテンツ管理 / 開発と配信の2つがあります。コンテンツ管理システムと開発システムは、同じモードで実行されますが、使用目的が異なります。

注意

- システム・タイプは、そのタイプを選択して「次へ」(GUI インストール)をクリックしたりサイレント・インストーラを開始した後は変更できません。
 - このインストール・プロセスでは、配信システムにユーザー・インタフェースはインストールされません。ただし、選択機能の管理を有効にするための限られたバージョンの WebCenter Sites の Admin インタフェースは例外です。
 - WebCenter Sites 環境でのシステムの名前は、このドキュメントで使用している名前とは異なる場合があります。通常、コンテンツ管理システムは「ステージング」とも呼ばれ、配信システムは「本番」とも呼ばれます。
- CLASSPATH および PATH 環境変数から Java Runtime Environment の古いバージョンを削除します。

インストールのクイック・リファレンス

WebCenter Sites をサポートする Java EE コンポーネントをインストールおよび構成した後、WebCenter Sites を使用する予定の各開発システム、コンテンツ管理システムおよび配信システムで、WebCenter Sites インストーラを実行します。WebCenter Sites のインストール中に、サンプル・サイトおよびサンプル・コンテンツをインストールすることもできます。

次の手順は、WebCenter Sites およびそのサポーティング・ソフトウェアのインストールおよび構成の概要です。この手順を手元に置いて、インストール手順および詳細な手順を示す章に対するクイック・リファレンスとしてください。

開発、コンテンツ管理、配信の各システムに対して次の手順を完了します。

I. データベースのセットアップ

データベース管理システムをインストールし、WebCenter Sites 用のデータベースを作成し、そのデータベースを構成することで、選択したサポートされているデータベースをセットアップします。手順については、『Oracle WebCenter Sites サポート・ソフトウェアの構成』を参照してください。

II. アプリケーション・サーバーのセットアップ

第3章「WebSphere Application Server のインストールと構成」に記載され、次にまとめた手順に従って、WebSphere Application Server をインストールおよび構成します。

1. 24 ページの「WebSphere Application Server のインストール」の手順に従って、WebSphere Application Server ソフトウェアをインストールし、インストールを最新バージョンに更新します。

2. 43 ページの「コマンドラインを使用した WAS インスタンスの作成」の手順に従って、WebCenter Sites をインストールする WAS インスタンスを作成します。

WebCenter Sites クラスタを作成する場合は、クラスタの各メンバーに対して固有の WAS インスタンスを作成します。
3. 次の手順に従って、WAS インスタンスを構成します。
 - a. 46 ページの「アプリケーション・サーバーの汎用 JVM 引数の構成」
 - b. 48 ページの「Web コンテナの構成」
 - c. 50 ページの「データベース通信のための WAS インスタンスの構成」。この手順では、次のようにすることが必要です。
 - 1) J2C 認証を作成します。手順については、50 ページの「J2C 認証の作成」を参照してください。
 - 2) JDBC プロバイダを作成します。手順については、52 ページの「JDBC プロバイダの作成」を参照してください。
 - 3) JDBC データ・ソースを作成します。手順については、57 ページの「JDBC データ・ソースの作成」を参照してください。

WebCenter Sites クラスタを作成する場合は、クラスタの各メンバーに対して手順 2 と 3 を実行します。クラスタ・メンバーは同じ J2C 認証を共有できます。

III. (オプション) Web サーバーのセットアップ

WAS を IBM HTTP Server または Apache Web サーバーと統合する予定である場合は、第4章「Web サーバーのセットアップ」の手順に従います。

IV. WebCenter Sites のインストールと構成

1. インストーラを実行する前に、次のことを確認します。
 - WebCenter Sites のインストール先となるディレクトリを作成済であること。このディレクトリ名およびパスに空白を入れることはできません。また、アプリケーション・サーバーはこのディレクトリへの読取りおよび書込みを行える必要があります。
 - クラスタ・インストールの場合は、すべてのクラスタ・メンバーが読取りおよび書込みできる共有ファイル・システム・ディレクトリを作成済であること。このディレクトリ名およびパスに空白を含めることはできません。次のことに注意してください。
 - 配信システムの場合は、共有ファイル・システム・ディレクトリのデフォルトの場所は、WebCenter Sites がインストールされているディレクトリを含むディレクトリです。
 - コンテンツ管理および開発のシステムの場合は、共有ファイル・システム・ディレクトリのデフォルトの場所は、WebCenter Sites がインストールされているディレクトリ内です。
 - 使用システムが WebCenter Sites インストーラ GUI を表示可能であること。インストーラはテキスト・モードでは機能しません。
2. GUI インストーラを実行するか、サイレント・インストールを実行して、WebCenter Sites をインストールします。詳細は、第5章「Oracle WebCenter Sites のインストールと構成」を参照してください。

インストールの途中で、WebCenter Sites アプリケーションをデプロイし、WebCenter Sites のインストールに必要な残りの手順を完了する必要があります。手順については、66 ページの「WebCenter Sites アプリケーションのデプロイ」を参照してください。

3. 次の手順を実行して、WebCenter Sites のインストールを完了します。
 - a. Unix 上に WebCenter Sites をインストールした場合は、106 ページの「ファイルの権限の設定 (Unix のみ)」の手順に従って WebCenter Sites バイナリの権限を設定します。
 - b. WebCenter Sites には、Microsoft XML Parser の変更されたバージョン (WEB-INF/lib ディレクトリにある MSXML.jar) が含まれています。そのパーサーの異なるバージョンが WebCenter Sites CLASSPATH 環境変数で参照されている場合は、WebCenter Sites で使用されるバージョンを参照するようにそのパスを変更する必要があります。そのようにしないと XML を解析するときに WebCenter Sites が失敗します。詳細は、106 ページの「XML パーサーのロード」を参照してください。
 - c. 106 ページの「ライブラリ・パス変数への WebCenter Sites バイナリ・ディレクトリの追加」の説明に従って、WebCenter Sites バイナリ・ディレクトリをライブラリ・パス変数に追加します。
 - d. Oracle WebCenter Sites に総括管理者としてログインして WebCenter Sites の Admin および Contributor インタフェースにアクセスすることで WebCenter Sites のインストールを確認します。手順については、108 ページの「インストールの検証」を参照してください。
 - e. CAS を Oracle Access Manager (OAM) に置き換える場合は、『Oracle WebCenter Sites サポート・ソフトウェアの構成』の手順に従ってください。
 - f. LDAP の統合を実行する場合は、112 ページの「LDAP との統合 (オプション)」の手順に従います。
 - g. クラスタ化システムを作成する場合は、112 ページの「WebCenter Sites クラスタのセットアップ (オプション)」の手順に従います。
 - h. CAS をクラスタ化する場合は、『Oracle WebCenter Sites サポート・ソフトウェアの構成』の手順に従ってください。
 - i. CAS を再デプロイする必要がある場合は、『Oracle WebCenter Sites サポート・ソフトウェアの構成』の手順に従ってください。
 - j. すべてのインストールが完了し、検証したら、業務目的に合わせて WebCenter Sites を設定します。手順については、『Oracle WebCenter Sites 管理者ガイド』および『Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド』を参照してください。

このガイドで使用する頭字語と変数

表 1: 頭字語と変数

| 名前 | 説明 |
|-------------------|--|
| WAS | WebSphere Application Server |
| DM | デプロイメント・マネージャ |
| cs | WebCenter Sites |
| <DM_host> | デプロイメント・マネージャ・ホストのホスト名または IP アドレス |
| <DM_console_port> | デプロイメント・マネージャ・コンソールが接続をリスニングしているポート番号 |
| <DM_profile> | デプロイメント・マネージャ・プロファイルの名前 |
| <DM_SOAP_port> | デプロイメント・マネージャの Simple Object Access Protocol ポート番号 |
| <WAS_host> | WAS を実行しているマシンのホスト名 |
| <server_name> | WAS サーバーの名前 |
| <appserv_profile> | アプリケーション・サーバー・プロファイルの名前 |
| <appserv_cell> | アプリケーション・サーバー・セルの名前 |
| <appserv_node> | アプリケーション・サーバー・ノードの名前 |

このガイドで使用するパスおよびディレクトリ

表 2: パスとディレクトリ

| 名前 | 説明 |
|------------------|--|
| <WAS_home> | WAS がインストールされているディレクトリのパス。このパスはディレクトリの名前を含みます。 |
| <cs_install_dir> | WebCenter Sites がインストールされているディレクトリのパス。このパスはディレクトリの名前を含みます。 |

表 2: パスとディレクトリ (続き)

| 名前 | 説明 |
|-----------------|---|
| <cs_shared_dir> | WebCenter Sites の共有ファイル・システム・ディレクトリのパス。このパスは共有ディレクトリの名前を含みます。 |
| <apache_home> | Apache Web サーバーがインストールされているディレクトリのパス。このパスはディレクトリの名前を含みます。 |
| <ibm_http_home> | IBM HTTP Server がインストールされているディレクトリのパス。このパスはディレクトリの名前を含みます。 |
| <plugin_root> | Web サーバーのプラグイン・ディレクトリのパス。このパスはディレクトリの名前を含みます。 |
| <iim_directory> | IBM Installation Manager のインストール・ファイルが解凍されたディレクトリのパス。 |

第 1 部

データベース

この部には、WebCenter Sites によって使用されるデータベースについてまとめた短い章が含まれています。データベースの作成および構成の手順については、『Oracle WebCenter Sites サポート・ソフトウェアの構成』を参照してください。

この部は次の章で構成されます。

- [第 2 章「データベースのセットアップ」](#)

第 2 章

データベースのセットアップ

WebCenter Sites は、WebCenter Sites 用に特別に構成したデータベースへのアクセスを必要とします。サポートされているデータベース (および他のサードパーティ・コンポーネント) のリストについては、*Oracle WebCenter Sites の動作保証マトリックス*を参照してください。

他の WebCenter Sites サポート・ソフトウェアをインストールする前に、次の手順を完了してください。

1. データベース管理システムをインストールします。
詳細は、製品ベンダーのドキュメントを参照してください。
2. WebCenter Sites 用のデータベースを作成および構成します。
詳細は、『*Oracle WebCenter Sites サポート・ソフトウェアの構成*』を参照してください。データベース構成は、異なるアプリケーション・サーバーにわたって同一であることに注意してください。選択したデータベースを作成および構成するために適切な章を参照してください。

第 2 部

アプリケーション・サーバー

この部には、WebCenter Sites をサポートするための WebSphere Application Server のインストールと構成に関する情報が含まれています。

この部は次の章で構成されます。

- [第 3 章 「WebSphere Application Server のインストールと構成」](#)

第 3 章

WebSphere Application Server のインストールと構成

この章では、WebCenter Sites 用の WebSphere Application Server のインストールおよび構成方法について説明します。

この章では、完全に網羅はしません。WebCenter Sites のインストールおよび実行に必要な WAS のインストールのみを取り上げます。詳細は、WAS のドキュメントを参照してください。

この章は、次の項で構成されています。

- [起動および停止のコマンド](#)
- [WebSphere Application Server のインストール](#)
- [コマンドラインを使用した WAS インスタンスの作成](#)
- [WAS インスタンスの構成](#)
- [WebCenter Sites アプリケーションのデプロイ](#)
- [WebCenter Sites アプリケーションの再起動](#)

起動および停止のコマンド

この項では、WAS コンポーネントを起動および停止するためのコマンドを紹介합니다。

デプロイメント・マネージャ

注意

デフォルトのデプロイメント・マネージャ・プロファイルの名前は Dmgr01 です。

起動するには：

- Windows の場合：
`<WAS_home>%bin%startManager.bat -profileName <DM_profile>`
- Unix の場合：
`<WAS_home>/bin/startManager.sh -profileName <DM_profile>`

停止するには：

- Windows の場合：
`<WAS_home>%bin%stopManager.bat -profileName <DM_profile>`
- Unix の場合：
`<WAS_home>/bin/stopManager.sh -profileName <DM_profile>`

ノード・エージェント

注意

作成される最初のアプリケーション・サーバー・プロファイルのデフォルト名は AppSrv01 です。

起動するには：

- Windows の場合：
`<WAS_home>%bin%startNode.bat -profileName <appserv_profile>`
- Unix の場合：
`<WAS_home>/bin/startNode.sh -profileName <appserv_profile>`

停止するには：

- Windows の場合：
`<WAS_home>%bin%stopNode.bat -profileName <appserv_profile>`
- Unix の場合：
`<WAS_home>/bin/stopNode.sh -profileName <appserv_profile>`

アプリケーション・サーバー

注意

デフォルトのサーバー名は server1 です。
作成される最初のアプリケーション・サーバー・プロファイルのデフォルト名は AppSrv01 です。

起動するには：

- Windows の場合：
`<WAS_home>%bin%startServer.bat <server_name> -profileName <appserv_profile>`
- Unix の場合：
`<WAS_home>/bin/startServer.sh <server_name> -profileName <appserv_profile>`

停止するには：

- Windows の場合：
`<WAS_home>%bin%stopServer.bat <server_name> -profileName <appserv_profile>`
- Unix の場合：
`<WAS_home>/bin/stopServer.sh <server_name> -profileName <appserv_profile>`

WebSphere Application Server のインストール

この項では、WebSphere Application Server バージョン 8 のインストール方法について説明します。次の手順があります。

- A. IBM Installation Manager のインストール
- B. IBM IM を使用した WebSphere Application Server のインストール
- C. WebSphere Application Server の更新

A. IBM Installation Manager のインストール

IBM Installation Manager をインストールするには：

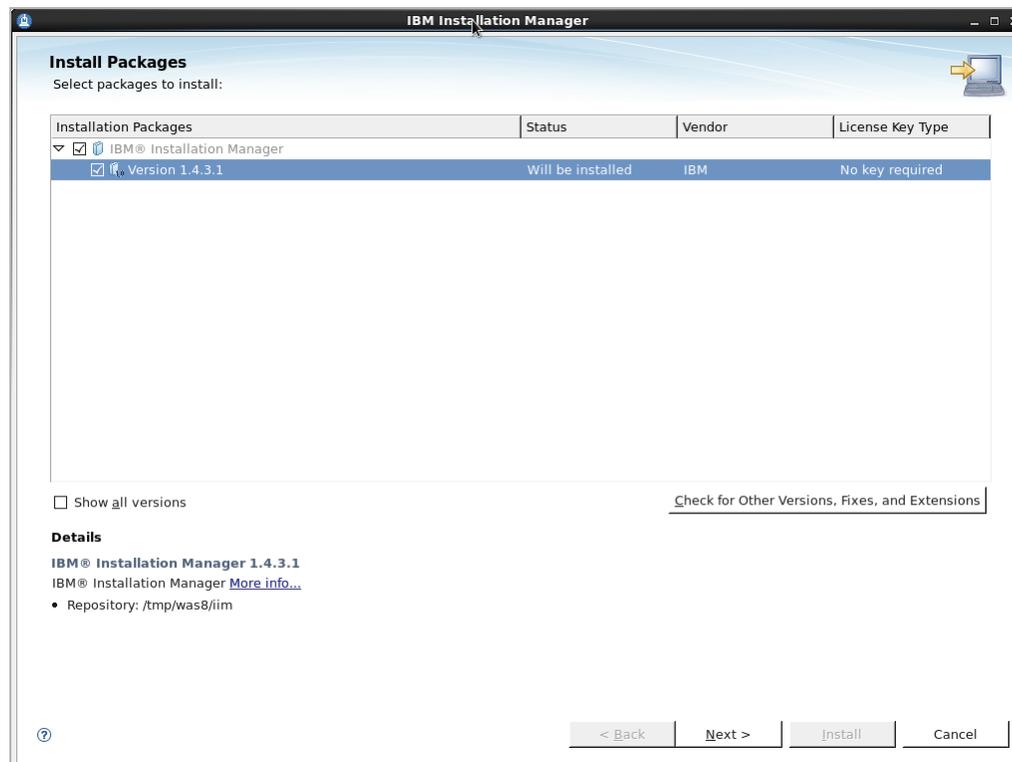
1. IBM Installation Manager をディレクトリに解凍し、次のコマンドを実行します。

```
cd <iim_directory> (dir リストにこのディレクトリを追加する必要があります)
```

```
./install
```

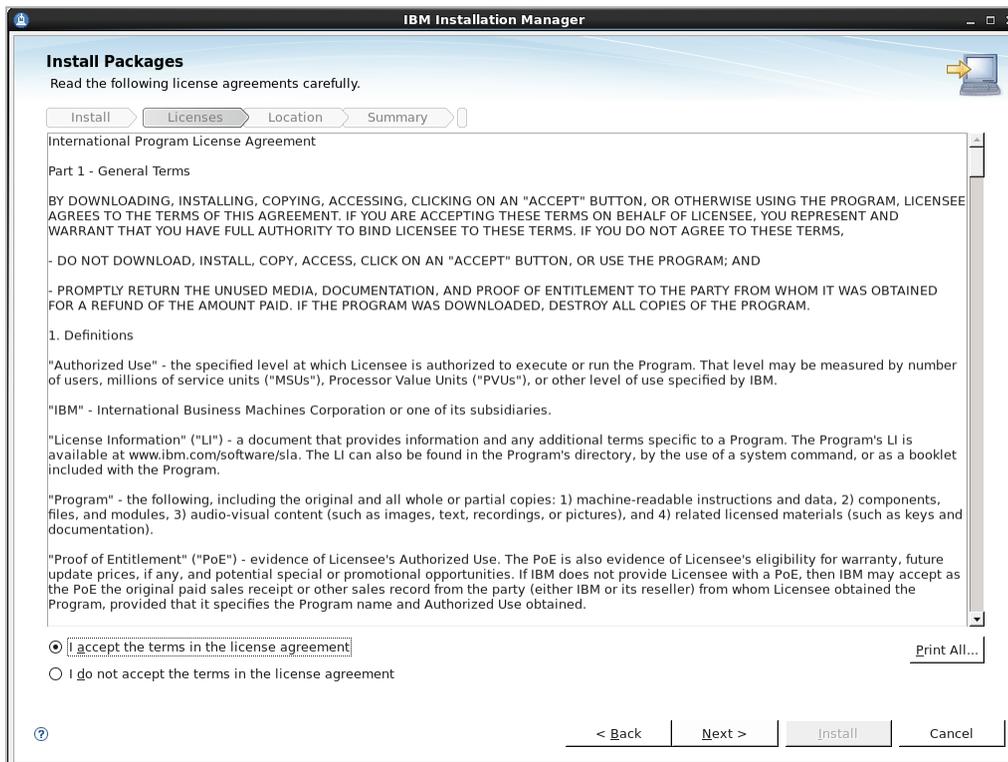
このコマンドは、IBM Installation Manager のインストーラを起動します。

2. 「Install Packages」画面でインストールする IBM IM のバージョンを選択します。

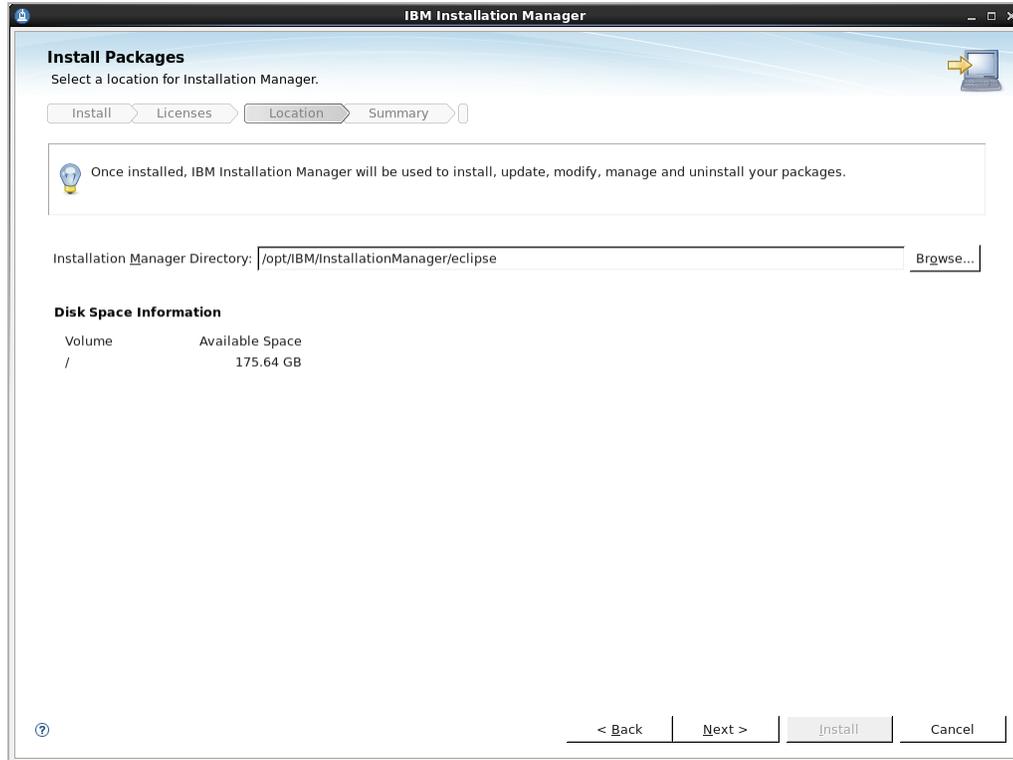


3. 「Next」をクリックします。

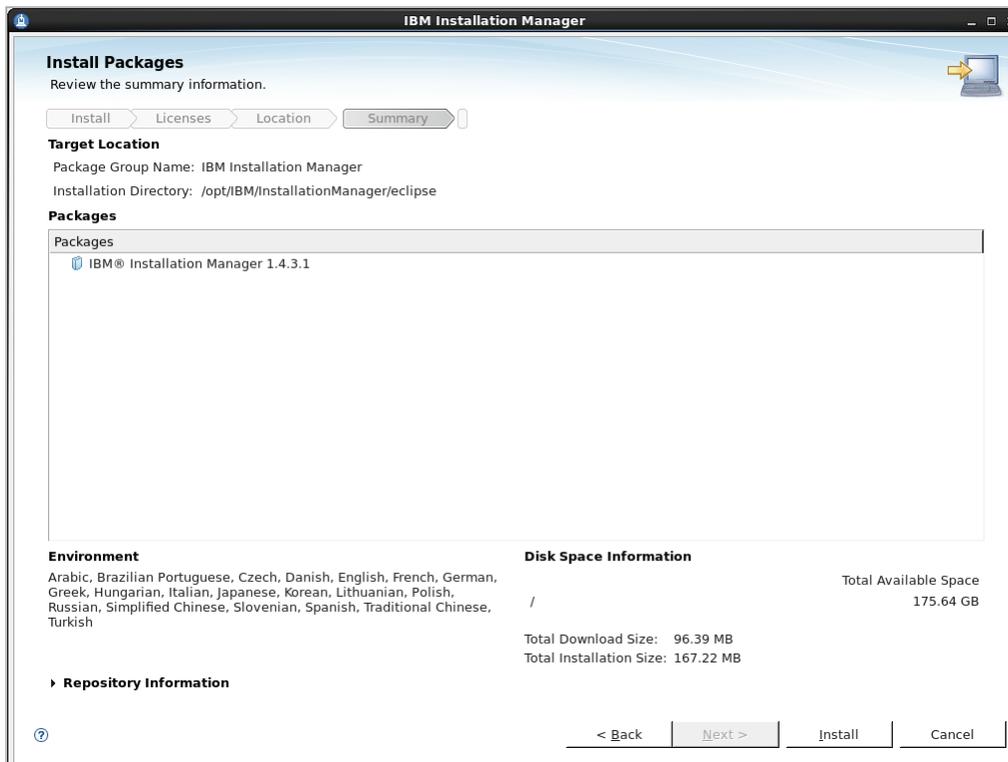
4. ライセンス契約を読んで同意し、「Next」をクリックします。



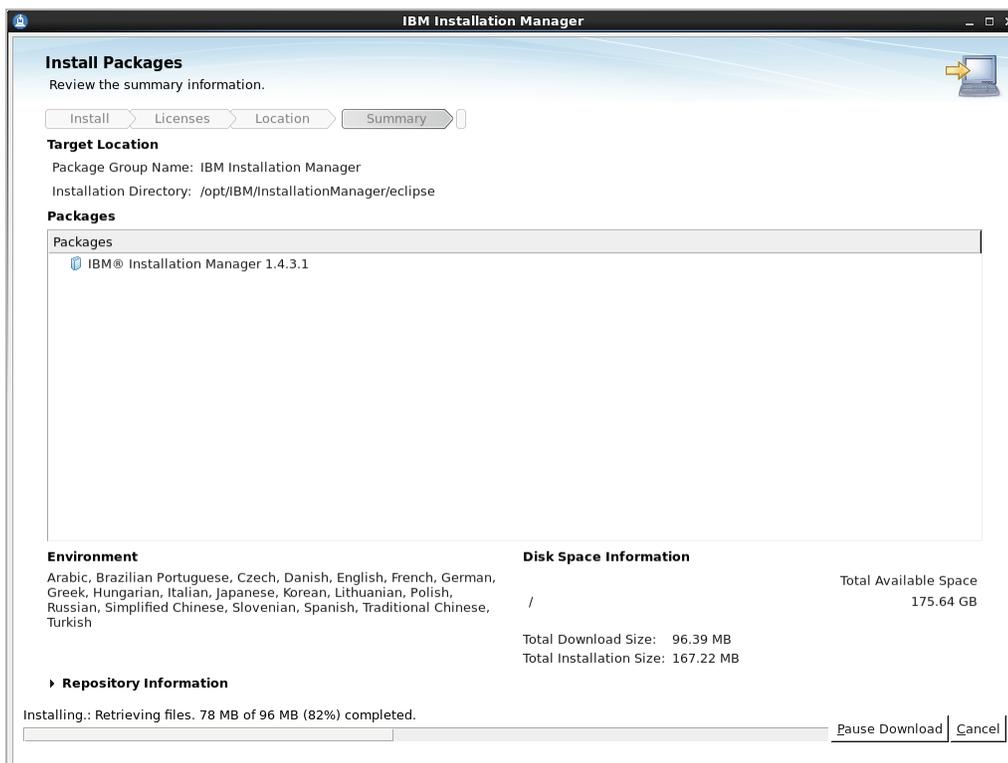
5. Installation Manager ディレクトリのパスを入力し、「Next」をクリックします。



6. 「Install」 をクリックしてインストール・プロセスを開始します。



インストーラにより、必要なインストール・ファイルが取得されます。



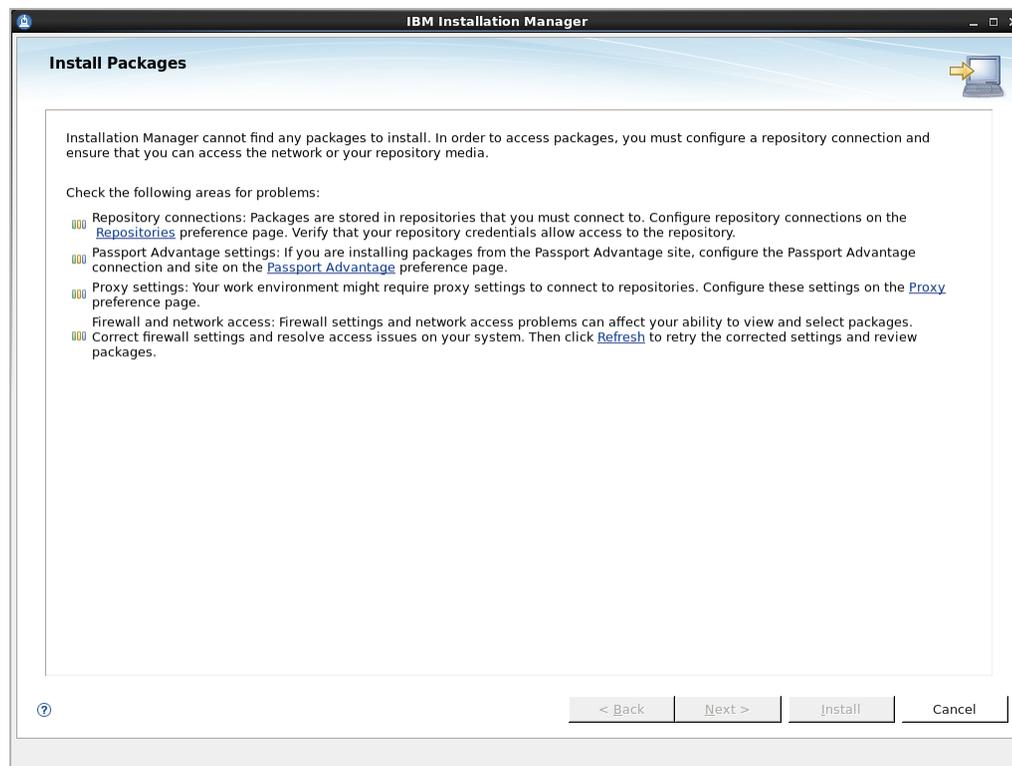
7. インストールが完了したら、Installation Manager を再起動します。次に、IBM Installation Manager を使用して WebSphere Application Server をインストールします。

B. IBM IM を使用した WebSphere Application Server のインストール

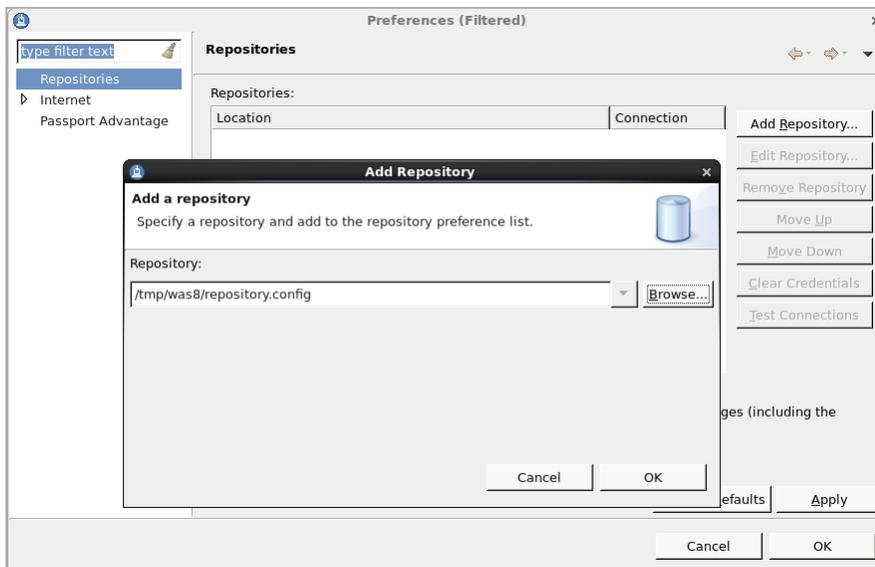
この項では、IBM IM を正常にインストールできたことを前提としています。

WebSphere Application Server をインストールするには：

1. IBM WAS インストール・ディレクトリを一時フォルダに解凍します。たとえば、次のようになります。
/tmp/was8
2. IBM IM ディレクトリに移動し、インストーラを起動します。インストーラが起動したら、「Install」をクリックします。
3. 「Repositories」リンクをクリックして、WebSphere Application Server をインストールするためのリポジトリを構成します。



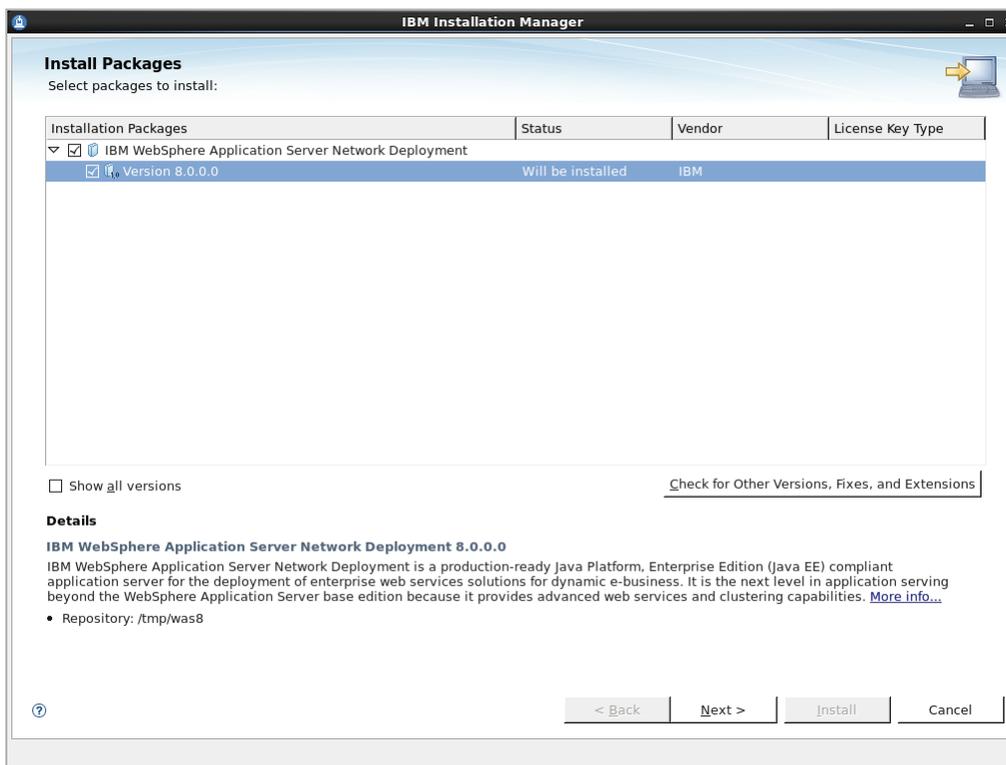
4. 「Add Repository...」をクリックし、WAS8 インストーラ・ファイルを抽出した一時ディレクトリ (/tmp/was8) を参照し、repositories.config ファイルを選択します。



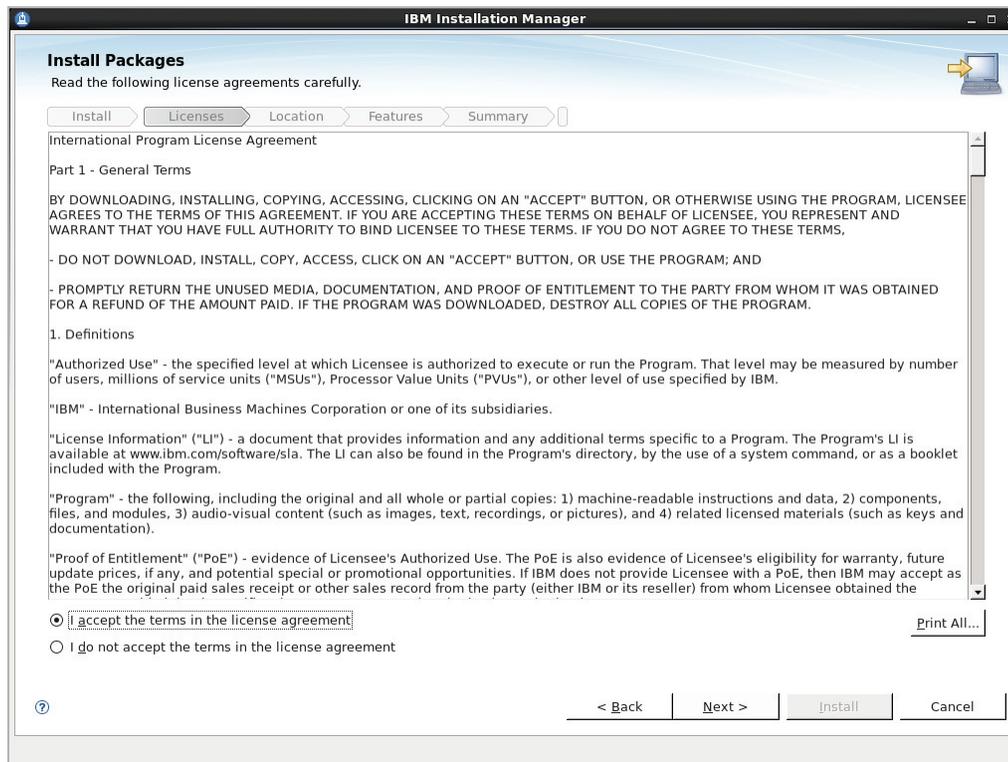
5. 「OK」をクリックします。

IBM IM により、リポジトリに基づいてインストールすべきバージョンが特定されます。

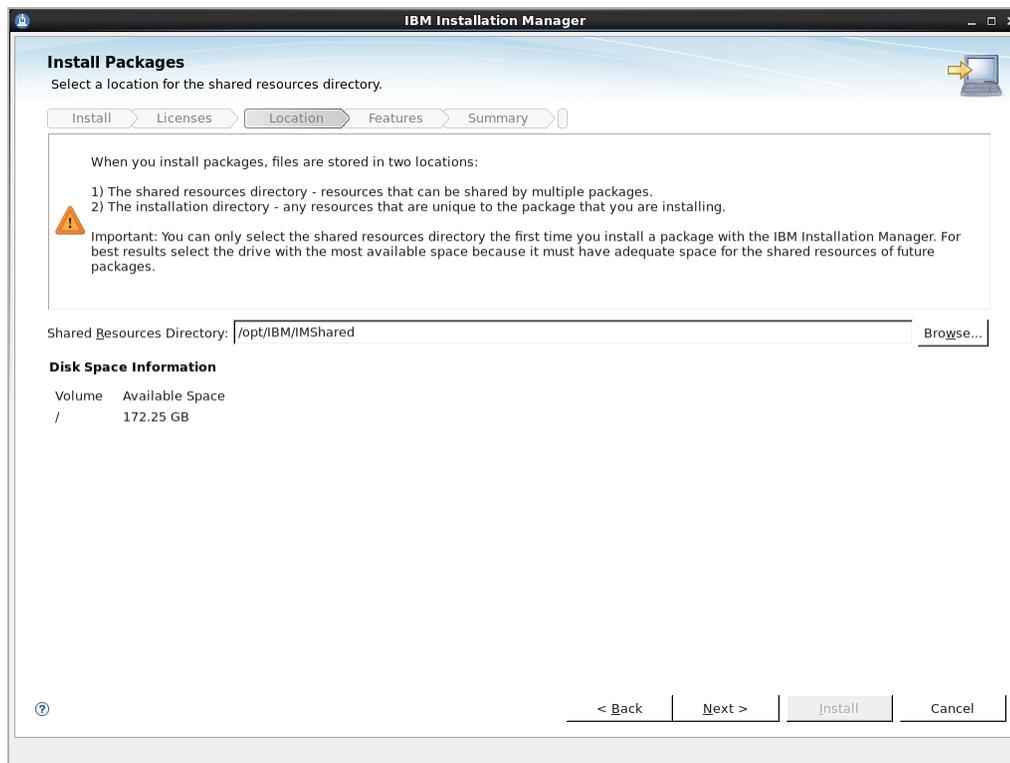
6. 適切なバージョンを選択して、「Next」をクリックします。



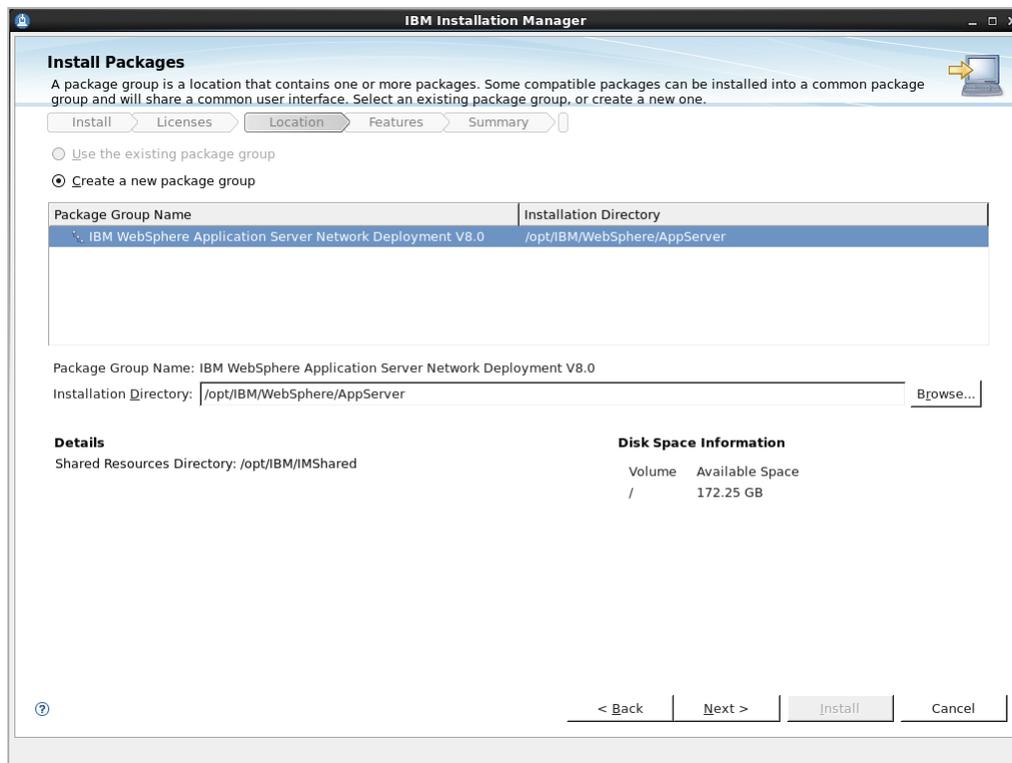
7. ライセンス契約を読んで同意します。「Next」をクリックします。



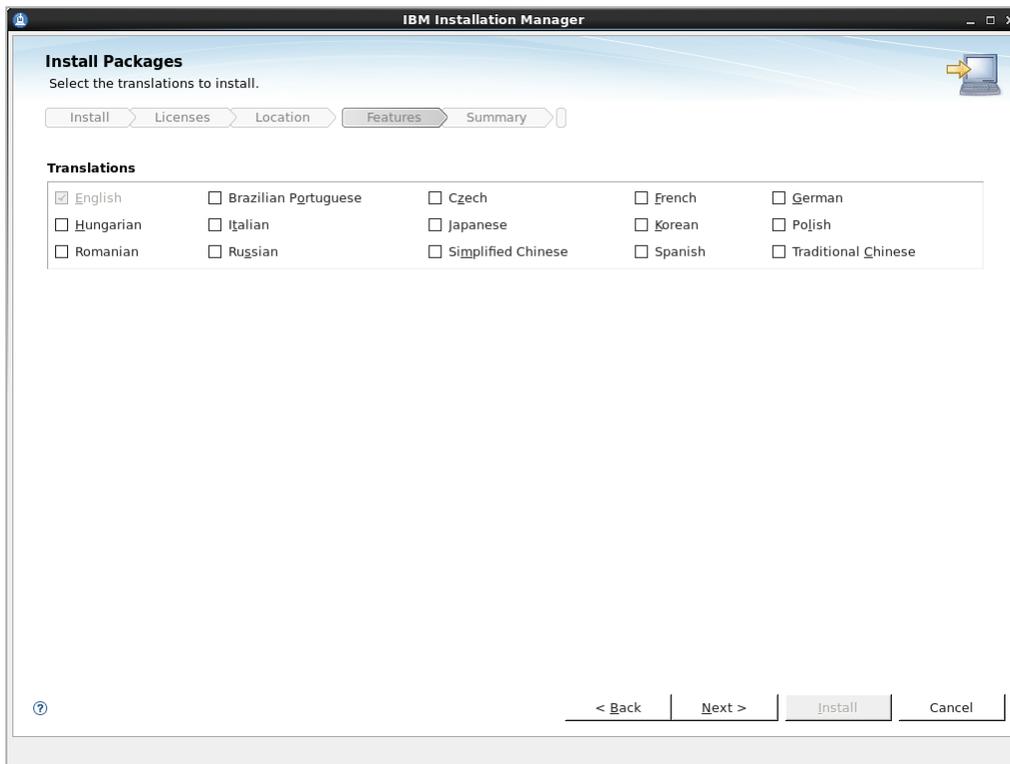
8. 「Shared Resources Directory」フィールドで、「Browse」をクリックして共有リソースのディレクトリを選択します。次に「Next」をクリックします。



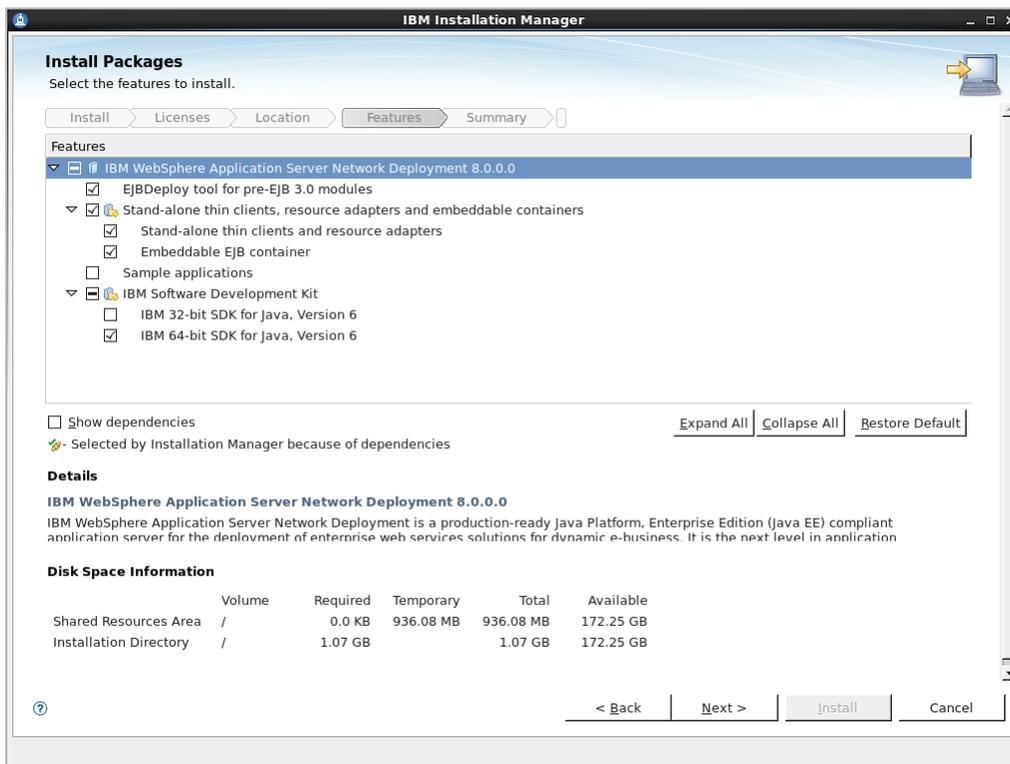
9. 「Installation Directory」フィールドで、「Browse」をクリックして WAS8 インストール・ディレクトリを選択します。次に「Next」をクリックします。



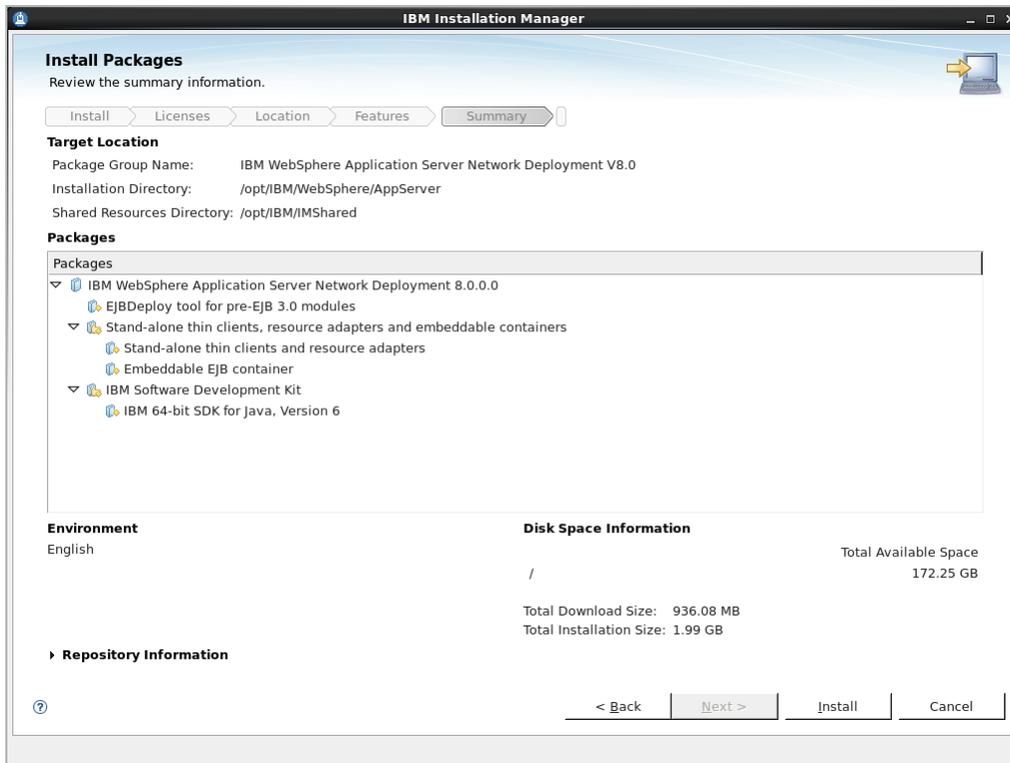
10. インストールする言語を選択し、「Next」をクリックします。



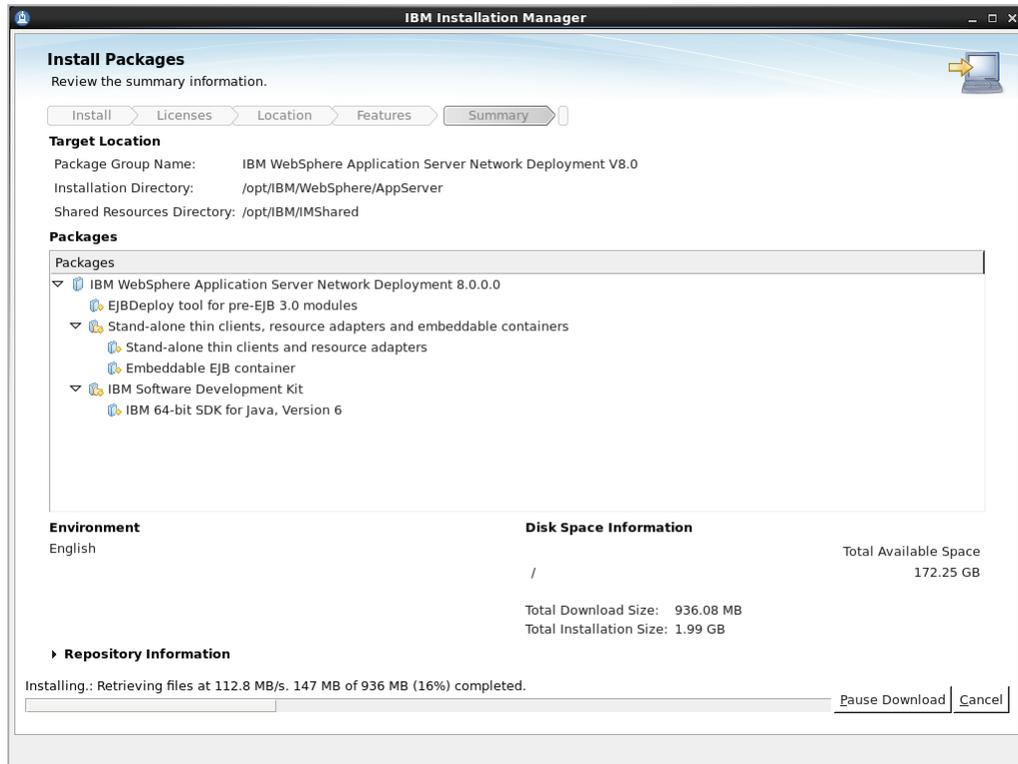
11. 該当するすべてのパッケージを選択し、「Next」をクリックします。



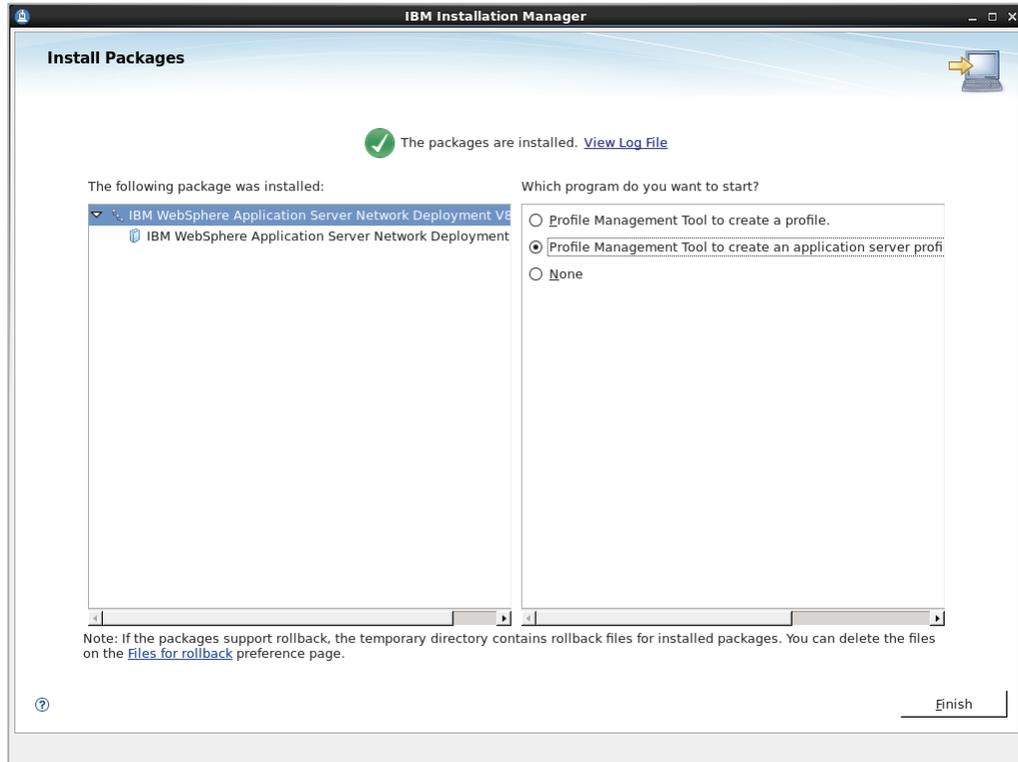
12. 「Next」 をクリックし、選択内容を確認してから、「Install」 をクリックします。



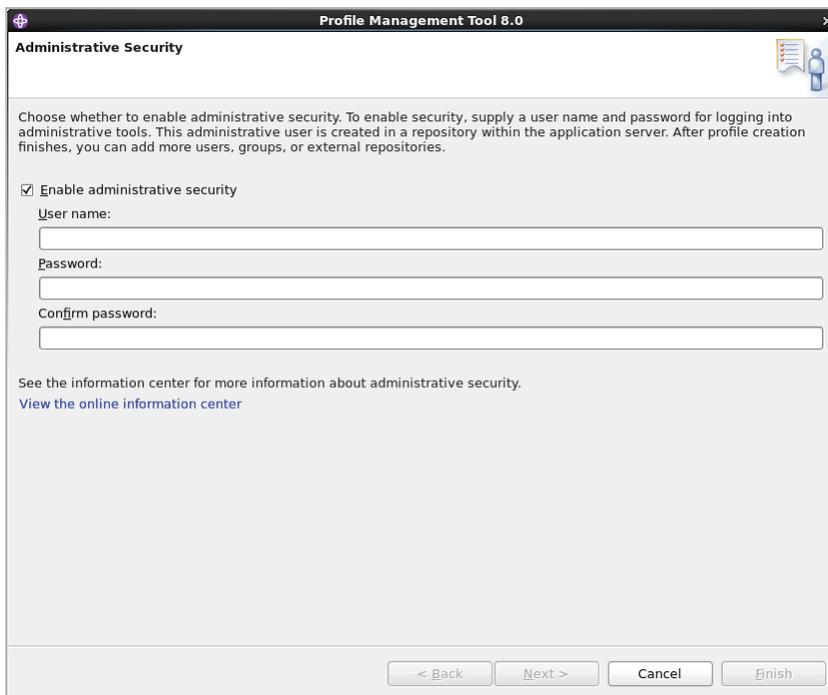
インストール・プロセスが開始します。



13. インストール・プロセスが正常に完了したら、プロファイル管理ツールを起動してプロファイルを作成するように求められます。「**Profile Management Tool to create an application server profile**」を選択し、「**Finish**」をクリックします。



14. デプロイメント・マネージャ・コンソールに対するセキュリティ・ユーザー名とパスワードを入力し、「Next」をクリックします。



Administrative Security

Choose whether to enable administrative security. To enable security, supply a user name and password for logging into administrative tools. This administrative user is created in a repository within the application server. After profile creation finishes, you can add more users, groups, or external repositories.

Enable administrative security

User name:

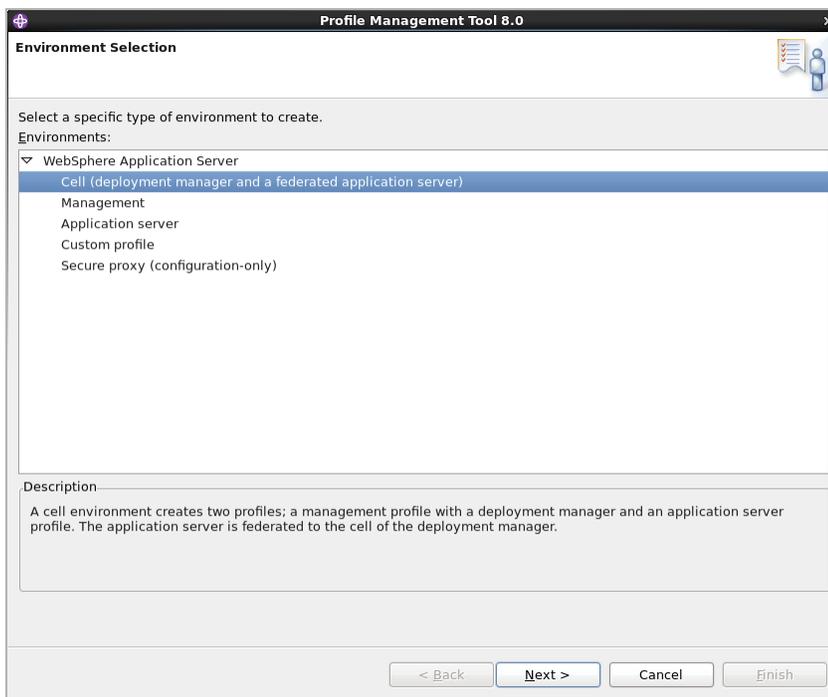
Password:

Confirm password:

See the information center for more information about administrative security.
[View the online information center](#)

< Back Next > Cancel Finish

15. 「Cell (deployment manager and a federated application server)」を選択します。セル環境により、2つのプロファイル(デプロイメント・マネージャ用とアプリケーション・サーバー用)が作成されます。「Next」をクリックします。



Environment Selection

Select a specific type of environment to create.

Environments:

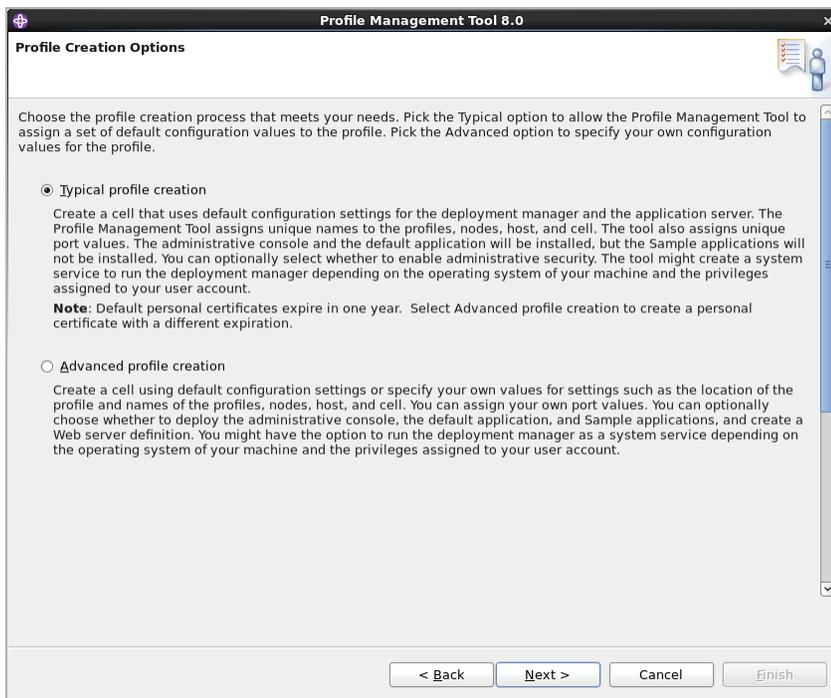
- WebSphere Application Server
 - Cell (deployment manager and a federated application server)**
 - Management
 - Application server
 - Custom profile
 - Secure proxy (configuration-only)

Description

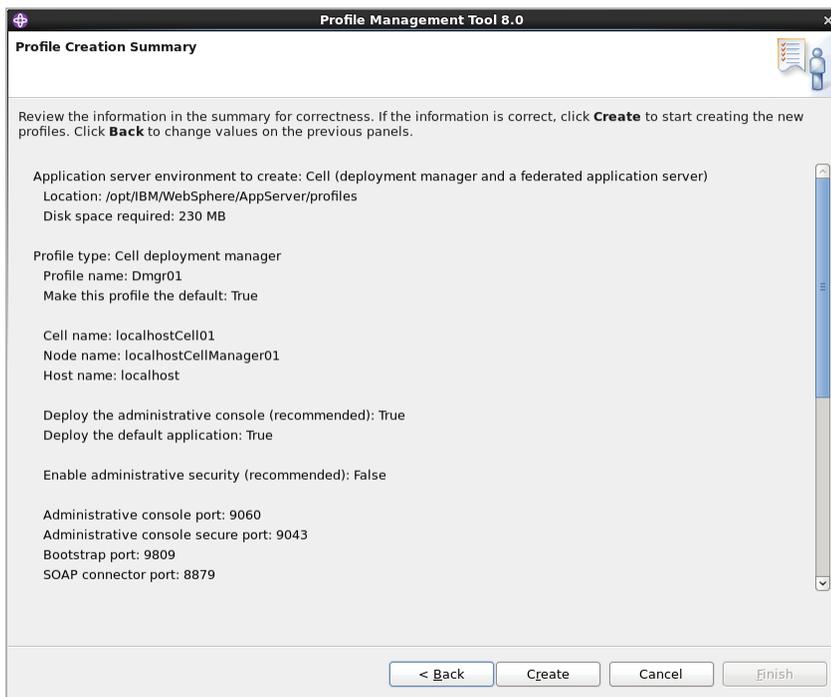
A cell environment creates two profiles; a management profile with a deployment manager and an application server profile. The application server is federated to the cell of the deployment manager.

< Back Next > Cancel Finish

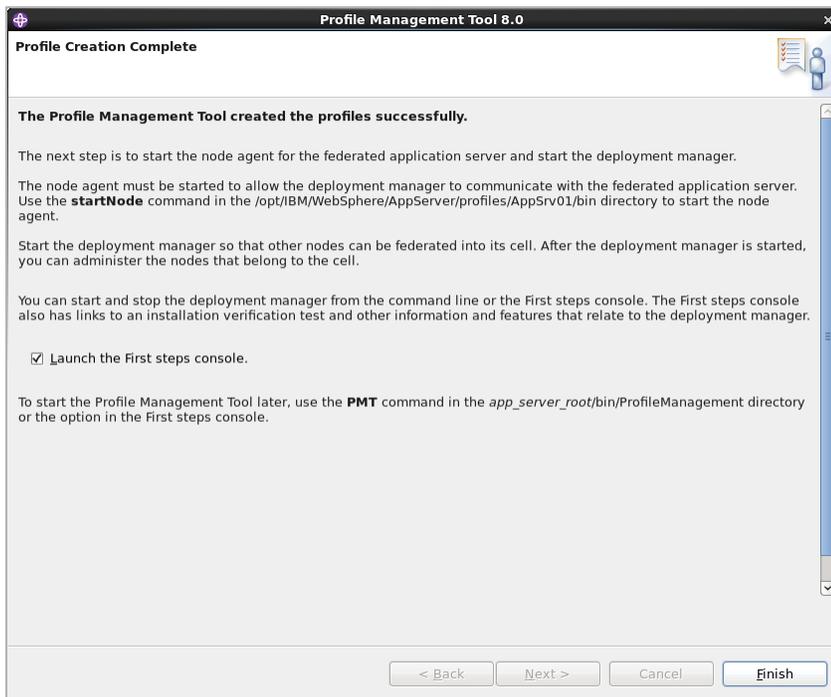
16. 「Profile Creation Options」画面で、「Typical profile creation」を選択し、「Next」をクリックします。



17. 「Profile Creation Summary」画面の情報を確認し、「Create」をクリックします。



18. プロファイルが正常に作成されたら、「Finish」をクリックします。



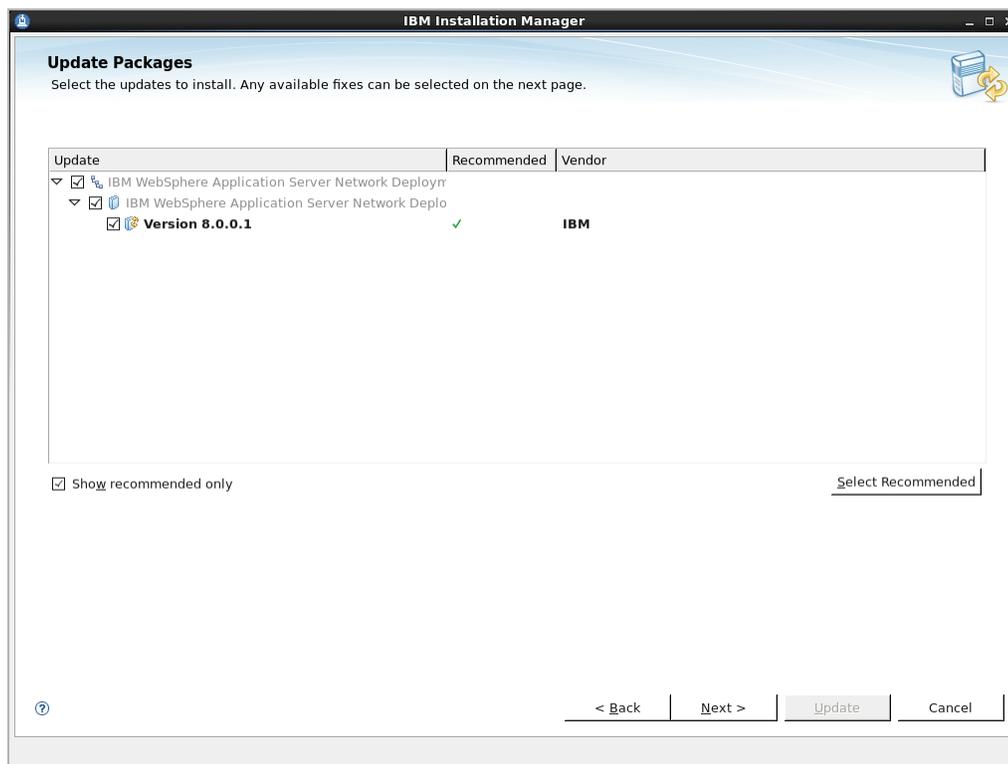
これで、WAS8 が正常にインストールされ、セル環境プロファイルが作成されています。

C. WebSphere Application Server の更新

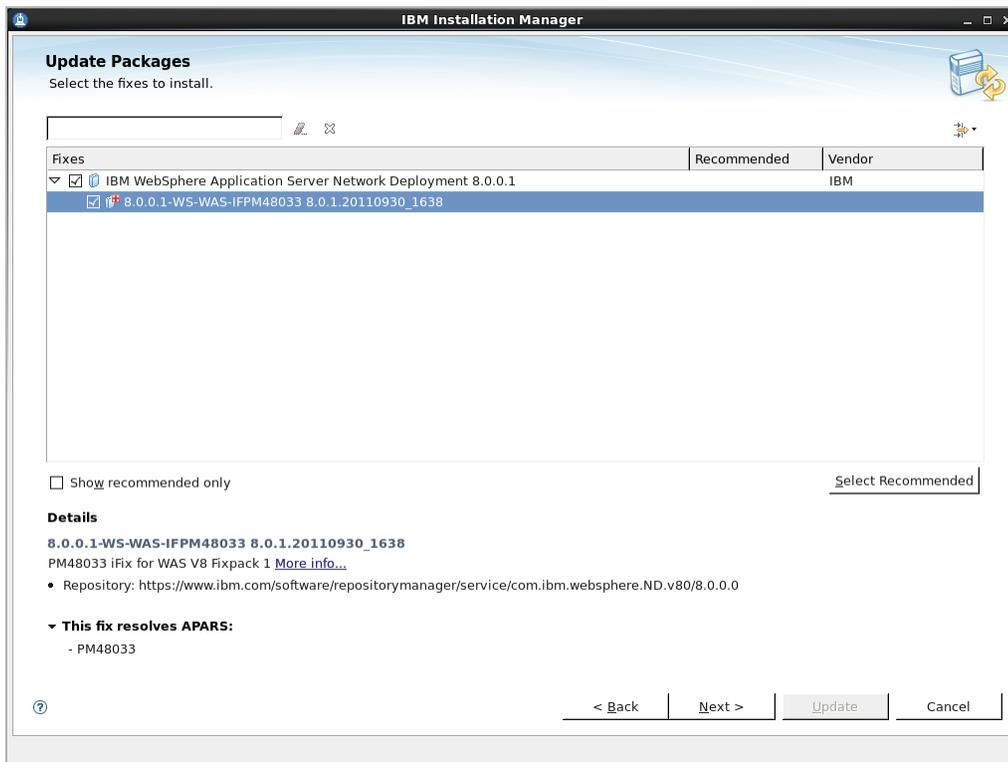
この項では、WAS8 が正常にインストールされ、セル環境プロファイルが作成されていることを前提としています。この項では、WAS8 を更新する手順について説明します。

WebSphere Application Server を更新するには：

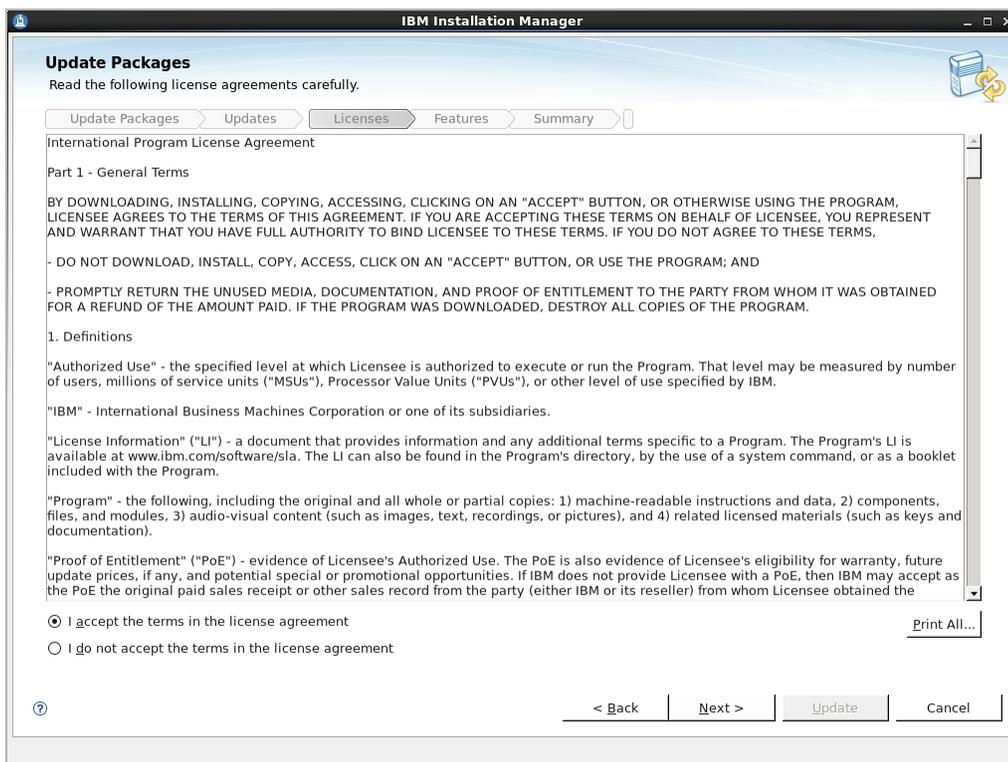
1. IBM IM ディレクトリに移動し、インストーラを起動します。インストーラが起動したら、「**Update**」をクリックします。サポートされている更新を選択し、「**Next**」をクリックします。



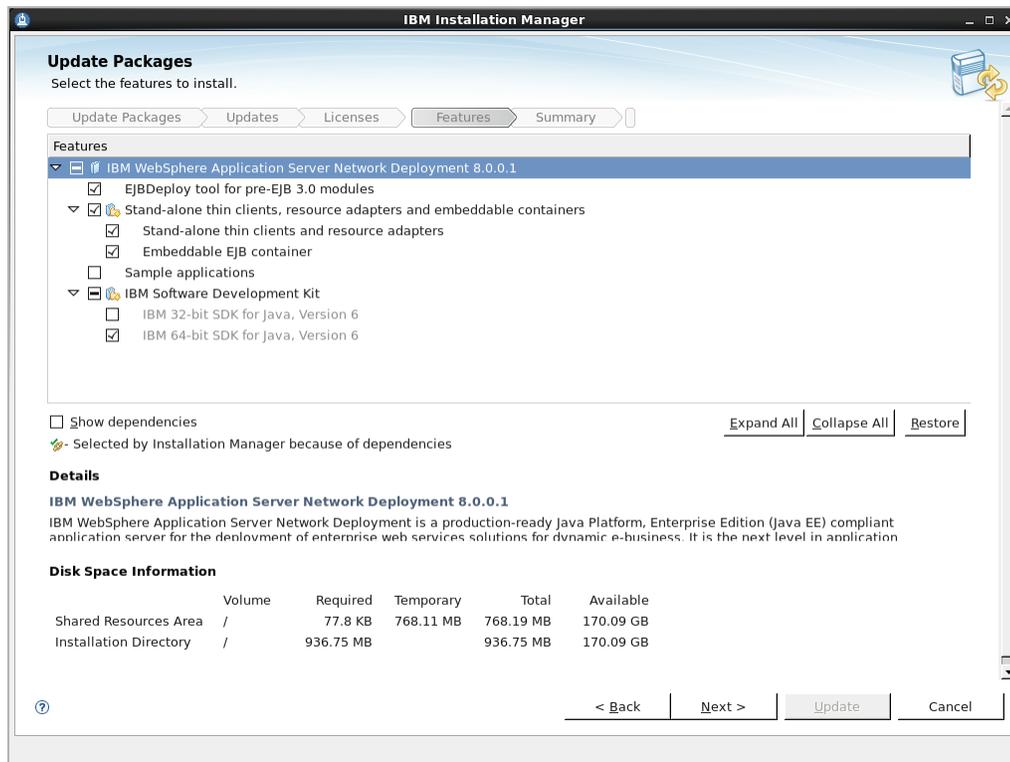
2. インストールする修正モジュールを選択し、「Next」をクリックします。



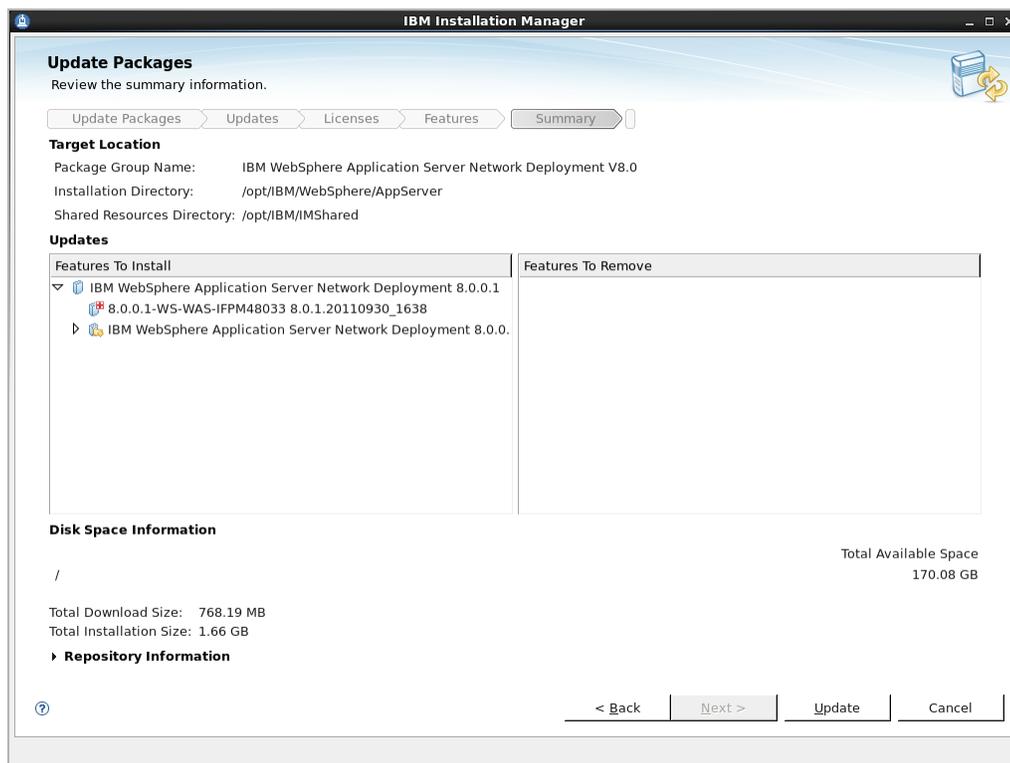
3. ライセンス契約を読んで同意し、「Next」をクリックします。



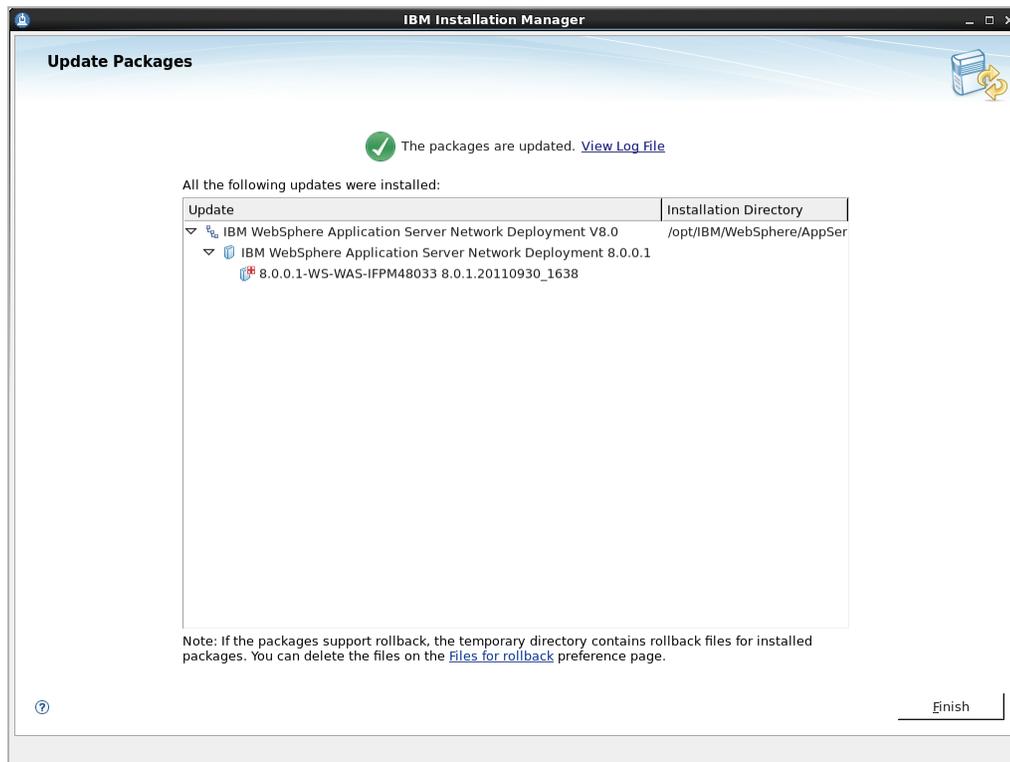
4. 更新する機能を選択し、「Next」をクリックします。



5. 「Update」をクリックして、更新プロセスを開始します。



6. 更新プロセスが正常に完了したら、「Finish」をクリックします。



コマンドラインを使用した WAS インスタンスの作成

この項では、コマンドラインを使用して WAS インスタンスを作成する方法について説明します。

注意

Windows では、この項で使用するコマンドライン・ツール名は、`.sh`ではなく、`.bat`で終わります。Windows システムでのコマンドの実行時には、必要な置換を行ってください。

コマンドラインを使用して WAS インスタンスを作成するには：

1. `<WAS_home>/bin` ディレクトリに移動します。
2. 次のコマンドを実行して、既存のプロファイルのリストを表示します。
`./manageprofiles.sh -listProfiles`

通常、このコマンドからは次のような応答が返されます。

```
[Dmgr01]
[AppSvr01]
```

この例では、2つの既存のプロファイルがあります。Dmgr01 という名前のデプロイメント・マネージャ・プロファイルと、AppSvr01 という名前のアプリケーション・サーバー・プロファイルです。

3. (オプション) 不要なプロファイルは削除します。次の手順を実行します。
 - a. 不要なサーバー・インスタンスを停止します (手順については、22 ページの「起動および停止のコマンド」を参照)。
 - b. 次のコマンドを実行して、不要なプロファイルをそれぞれ削除します。
`./manageprofiles.sh -delete -profileName <profile_name>`
 - c. 残ったプロファイル・ディレクトリ <WAS_home>/<profile_name> を削除します。
4. 次のコマンドを実行して、デプロイメント・マネージャ・プロファイルを作成します。

注意

このコマンドに対するデフォルトのパラメータ値は次のとおりです。

- <appserv_cell> は通常は <WAS_host>Cell01 です。
- <appserv_node> は通常は <WAS_host>managerNode01 です。
- <DM_profile> は通常は Dmgr01 です。
- <appserv_profile> は通常は AppServ01 です。

この手順で指定するパラメータ値を書き留めておきます。次の手順でアプリケーション・サーバー・プロファイルを作成する際に、その値を使用する必要があります。

```
./manageprofiles.sh -create ¥ -templatePath <WAS_home>/
profileTemplates/dmgr ¥ -nodeProfilePath /<WAS_home>/
profiles/<appserv_profile> ¥ -profileName <DM_profile> ¥
-cellName <appserv_cell> ¥ -nodeName <appserv_node> ¥
-isDefault -defaultPorts -validatePorts
```

5. 次のコマンドを実行して、アプリケーション・サーバー・プロファイルを作成します。

注意

このコマンドに対するデフォルトのパラメータ値は次のとおりです。

- <appserv_cell> は通常は <WAS_host>Cell01 です。
- <appserv_node> は通常は <WAS_host>managerNode01 です。
- <DM_profile> は通常は Dmgr01 です。
- <appserv_profile> は通常は AppServ01 です。

デフォルト値を使用しない場合は、手順4で指定したパラメータ値を使用してください。

```
./manageprofiles.sh -create ¥ -templatePath <WAS_home>/
profileTemplates/default ¥ -profileName <appserv_profile> ¥
```

```
-cellName <appserv_cell> ¥ -nodeName <appserv_node> ¥  
-isDefault
```

6. 作成したデプロイメント・マネージャ・プロファイルを使用して、デプロイメント・マネージャを起動します (手順については、22 ページの「起動および停止のコマンド」を参照)。
7. 新しいアプリケーション・サーバー・インスタンスを起動します (手順については、22 ページの「起動および停止のコマンド」を参照)。
8. 次のコマンドを実行して、WAS インスタンスをデプロイメント・マネージャとフェデレーションします。

注意

デフォルトのデプロイメント・マネージャの SOAP ポートは 8879 です。

```
./addNode.sh <DM_host> <DM_SOAP_port>
```

9. アプリケーション・サーバーを停止します (手順については、22 ページの「起動および停止のコマンド」を参照)。
10. ノード・エージェントを停止します (手順については、22 ページの「起動および停止のコマンド」を参照)。
11. デプロイメント・マネージャを停止します (手順については、22 ページの「起動および停止のコマンド」を参照)。
12. (オプション) WebCenter Sites クラスタを作成する場合は、クラスタの各メンバーに対してこの手順を繰り返します。

WAS インスタンスの構成

WebCenter Sites に対して作成した WAS インスタンス (43 ページの「コマンドラインを使用した WAS インスタンスの作成」を参照) を構成するには、この項の手順を実行します。この項には次の手順が含まれます。

- A. アプリケーション・サーバーの汎用 JVM 引数の構成
- B. Web コンテナの構成
- C. データベース通信のための WAS インスタンスの構成

A. アプリケーション・サーバーの汎用 JVM 引数の構成

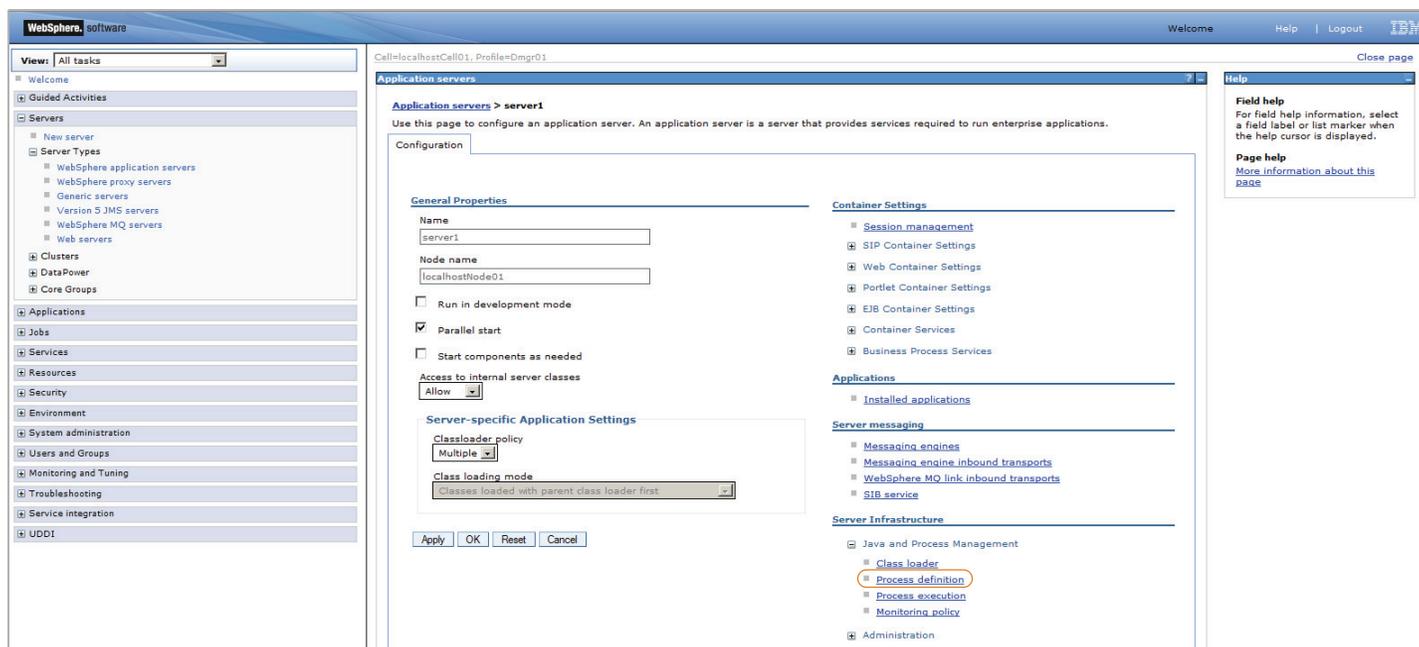
1. デプロイメント・マネージャ・コンソールにログインします。

注意

デプロイメント・マネージャ・コンソールのデフォルトのポートは 9060 です。

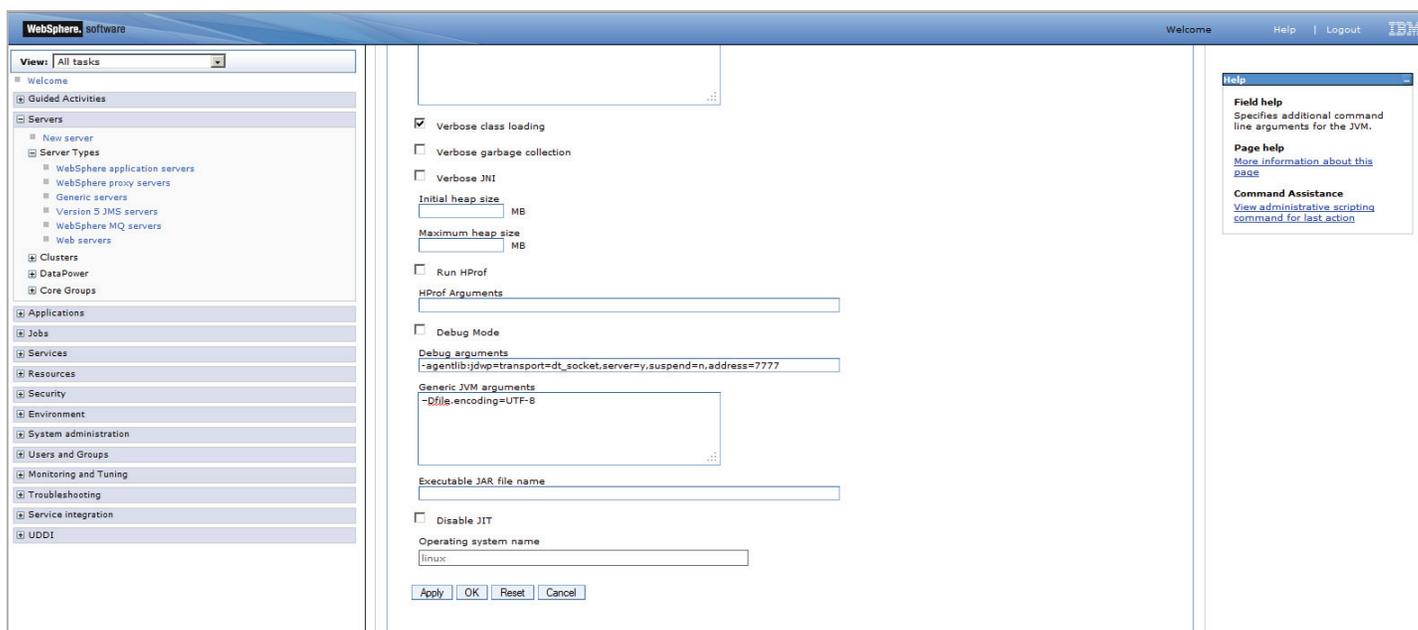
- a. ブラウザで次の URL にアクセスします。
`http://<DM_host>:<DM_console_port>/admin`
 - b. ユーザー名とパスワードを入力します。
 - c. 「Log in」をクリックします。
デプロイメント・マネージャ・コンソールがロードされます。
2. 左側のペインで、「Servers」 → 「Server Types」を開き、「WebSphere application servers」をクリックします。
構成されているサーバーのリストが表示されます。
 3. WebCenter Sites に対して作成したアプリケーション・サーバー・インスタンスを選択し (たとえば、server1 を選択)、 「Java and Process Management」 ノードを開きます。

4. 「Java and Process Management」ノードの下の「Process Definition」をクリックします。



5. 「Additional Properties」の下の「Java Virtual Machine」をクリックします。「Generic JVM arguments」フィールドに、次のように入力します。

```
-Dfile.encoding=UTF-8 -Djava.io.tmpdir=<AppSrv01>/servers/  
<server_name>/temp -Djava.net.preferIPv4Stack=true  
-Dnet.sf.ehcache.enableShutdownHook=true
```



6. 「OK」をクリックして変更を保存し、すべてのノードを同期します。

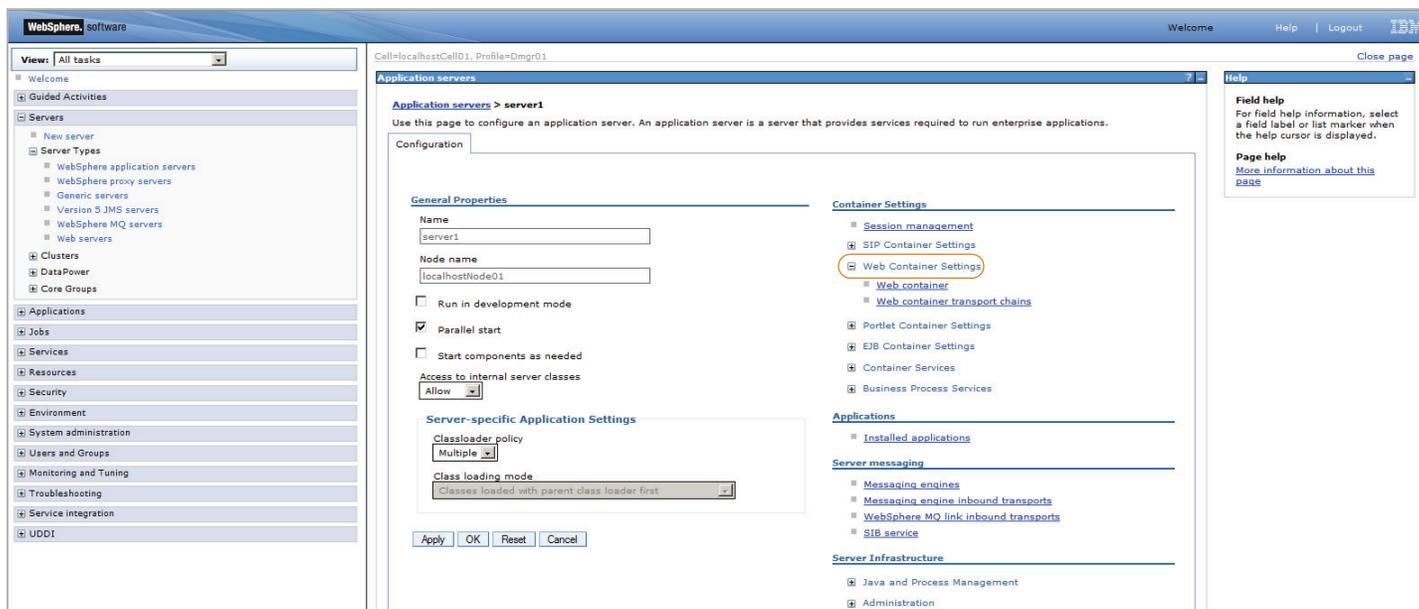
B. Web コンテナの構成

1. デプロイメント・マネージャ・コンソールにログインします。

注意

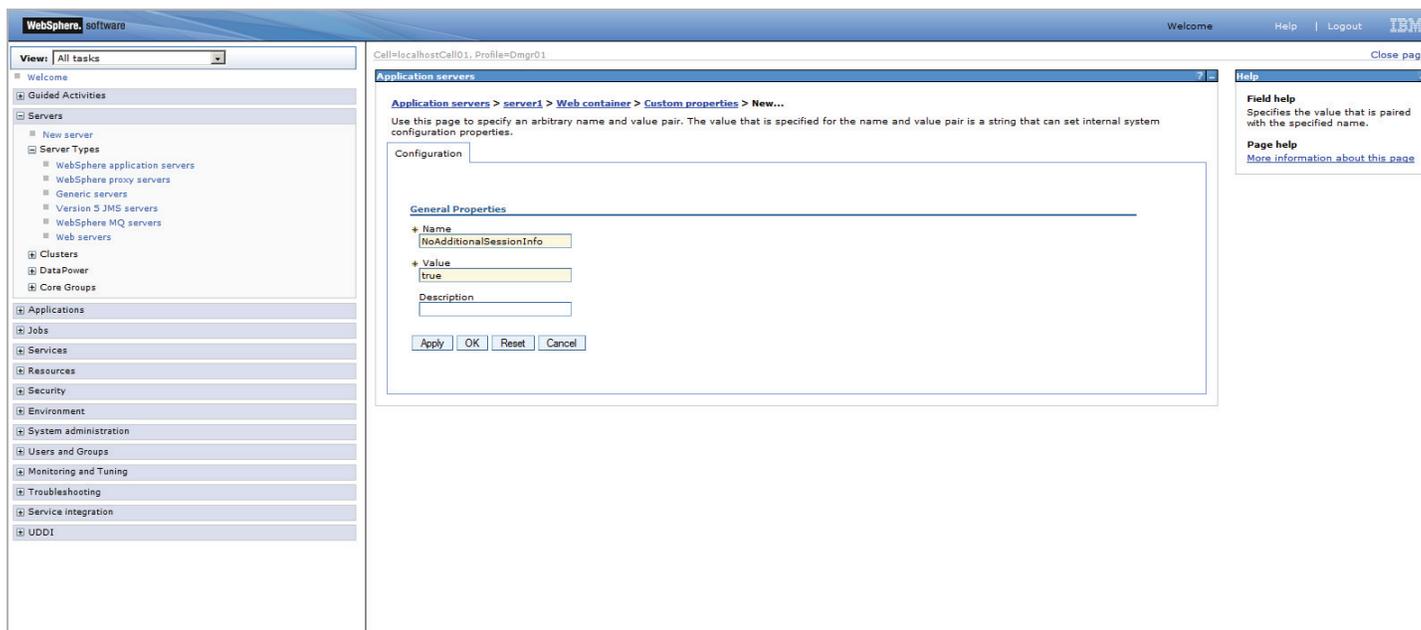
デプロイメント・マネージャ・コンソールのデフォルトのポートは 9060 です。

- a. ブラウザで次の URL にアクセスします。
`http://<DM_host>:<DM_console_port>/admin`
 - b. ユーザー名とパスワードを入力します。
 - c. 「Log in」 をクリックします。
デプロイメント・マネージャ・コンソールがロードされます。
2. 左側のペインで、「Servers」 → 「Server Types」 を開き、「Application Servers」 をクリックします。
構成されているサーバーのリストが表示されます。
 3. WebCenter Sites に対して作成したアプリケーション・サーバー・インスタンスを選択し(たとえば、server1 を選択)、「Web Container Settings」 ノードを開きます。

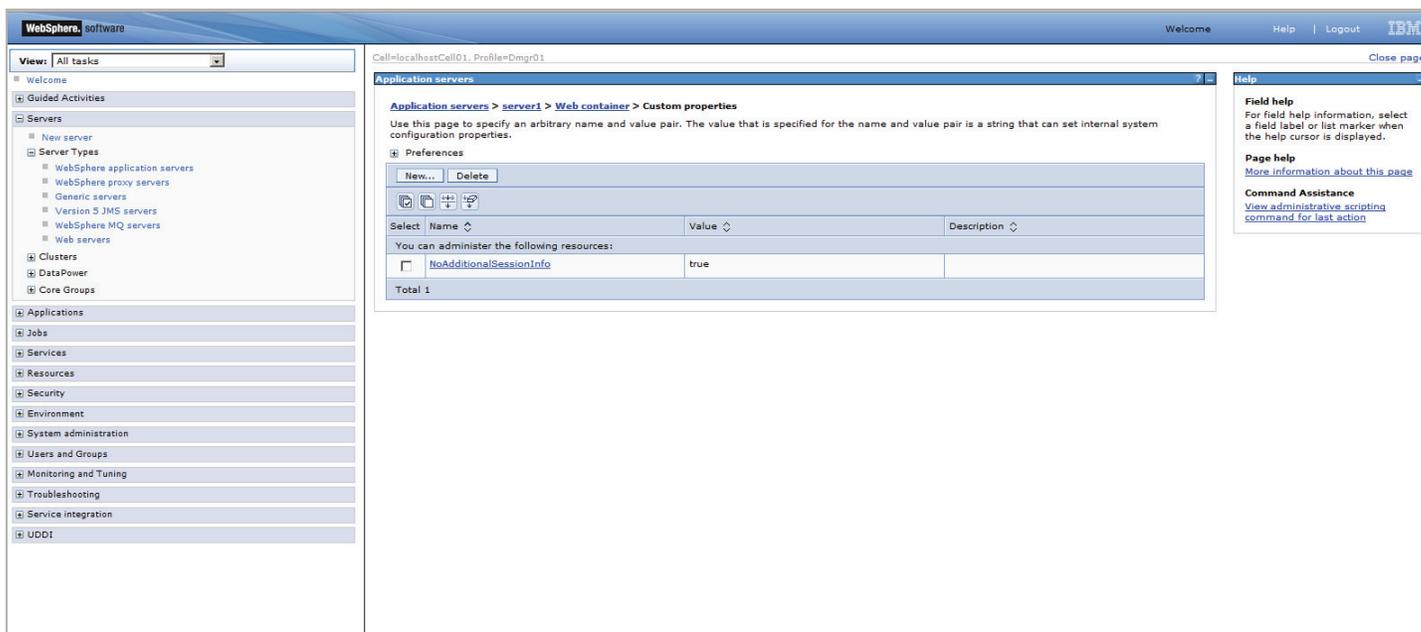


4. 「Web Container Settings」 ノードの下の「Web container」 をクリックします。

5. 「Web container」ノードの下の「Custom Properties」をクリックし、「New」をクリックします。
 - 「Name」フィールドに、NoAdditionalSessionInfo と入力します。
 - 「Value」フィールドに、true と入力します。



6. 「Save」をクリックします。変更内容がすべてのノードに同期されます。



C. データベース通信のための WAS インスタンスの構成

この項では、WebCenter Sites が使用するデータベースと通信するために、前の項で作成した WAS インスタンスを構成する方法について説明します。

この項には次の手順が含まれます。

手順 I. J2C 認証の作成

手順 II. JDBC プロバイダの作成

手順 III. JDBC データ・ソースの作成

注意

- この章の残りの手順を完了する前に、次の WAS コンポーネントを次の順序で起動します。WAS コンポーネントを起動および停止するためのコマンドのリストについては、[22 ページの「起動および停止のコマンド」](#)を参照してください。
 - デプロイメント・マネージャ
 - ノード・エージェント
 - アプリケーション・サーバー
- Oracle データベースを使用していて、2000 文字を超えるテキスト属性を必要としている場合、cc.bigtext を CLOB に設定することが必要になります。CLOB をサポートするには、Oracle データベース 9.2.0.6 (またはサポートされるそれ以降のバージョン) を使用します。また、Oracle 10g ドライバを使用します。(CLOB は、それより低いデータベース・バージョンおよび Oracle ドライバ 9x [thin、type 4] ではサポートされていません。)

WebCenter Sites のインストーラを実行するときに ([100 ページの「インストールのオプション」](#)で説明しているように) cc.bigtext を CLOB に設定します。

手順 I. J2C 認証の作成

J2C 認証には、WAS が WebCenter Sites データベースに接続するために使用するログイン情報が含まれます。

J2C 認証は、データベースに接続するように WAS インスタンスを設定するために必要な 3 つのコンポーネントの内の最初のコンポーネントです。

WebCenter Sites クラスタを作成している場合は、クラスタ・メンバーで同じ J2C 認証を共有できます。

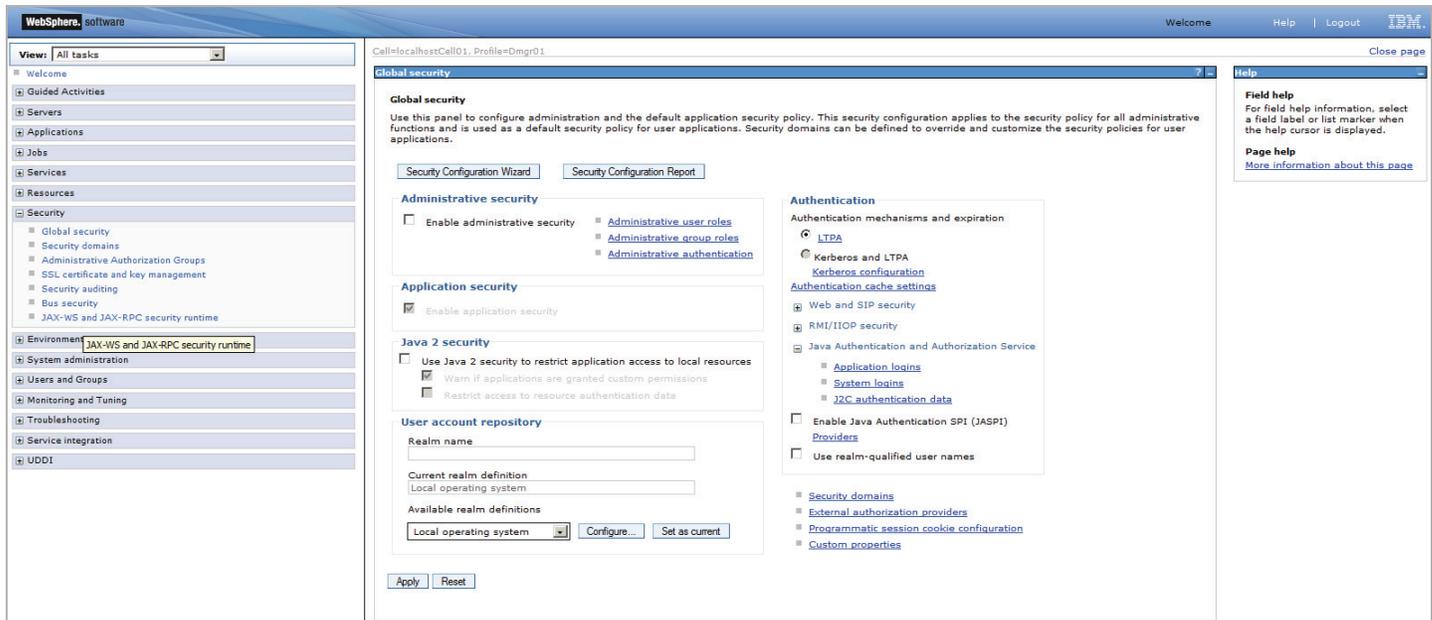
J2C 認証を作成するには：

1. デプロイメント・マネージャ・コンソールにログインします。

注意

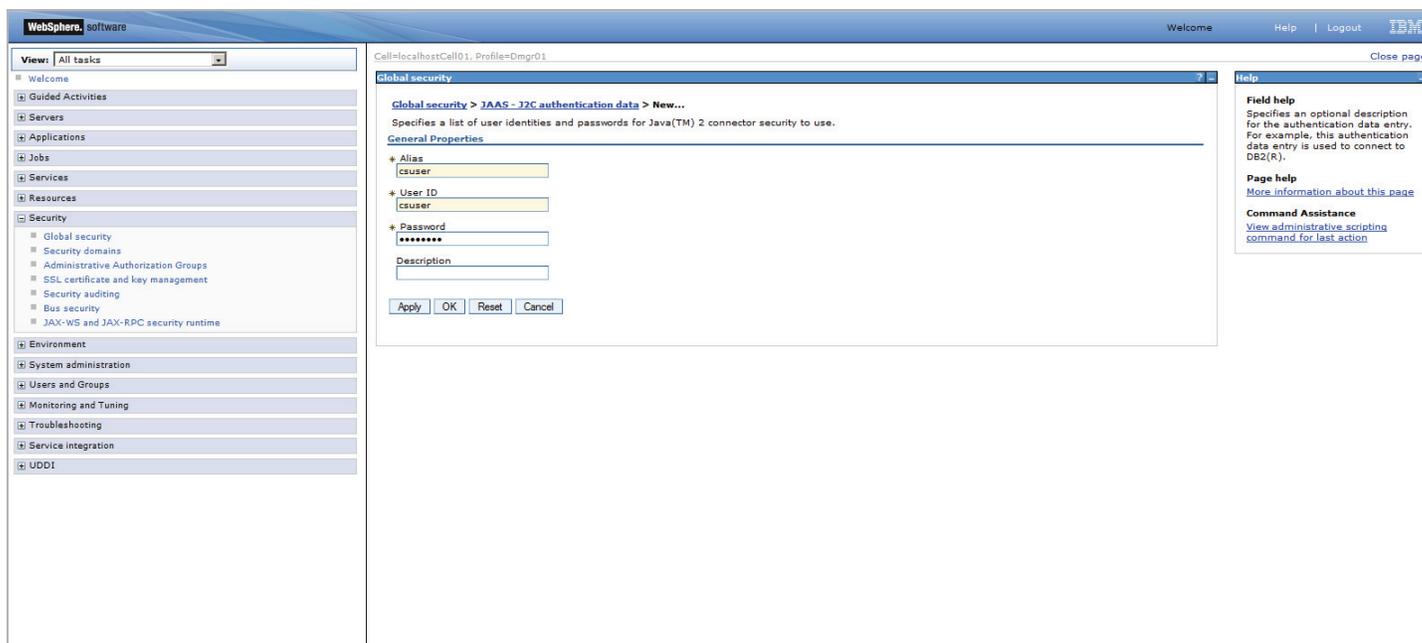
デプロイメント・マネージャ・コンソールのデフォルトのポートは 9060 です。

- a. ブラウザで次の URL にアクセスします。
`http://<DM_host>:<DM_console_port>/admin`
 - b. ユーザー名とパスワードを入力します。
 - c. 「Log in」をクリックします。
デプロイメント・マネージャ・コンソールがロードされます。
2. 左側のペインで、「Security」ノードを展開します。



3. 「Security」ノードの下で、「Secure administration, applications, and infrastructure」を選択します。
4. 右側のペインの「Authentication」領域で「Java Authentication and Authorization Service」ノードを開き、「J2C authentication data」をクリックします。
「JAAS - J2C authentication data」画面が表示されます。

5. 「JAAS - J2C authentication data」画面で「New」をクリックします。「General Properties」画面が表示されます。



6. 「General Properties」画面で、次の手順を実行します。
 - a. 「Alias」フィールドに、この J2C 認証に対する一意の別名を入力します。
 - b. 「User ID」と「Password」フィールドに、WAS が WebCenter Sites データベースに接続するために使用するデータベース・ユーザー・アカウントの資格証明を入力します。(確認のため、パスワードを再入力します。)
 - c. 終了したら、「OK」をクリックします。作成した J2C 認証が「JAAS - J2C authentication data」画面のリストに表示されます。
7. 「Messages」ボックスで「Save」をクリックします。
8. 「Save」画面で、次の手順を実行します。
 - a. 「Synchronize changes with nodes」チェック・ボックスを選択します。
 - b. 「Save」をクリックします。
9. 「Synchronize changes with nodes」画面で、「OK」をクリックします。
10. アプリケーション・サーバーを再起動して、変更内容を有効にします。起動および停止コマンドのリストについては、22 ページの「起動および停止のコマンド」を参照してください。

手順 II. JDBC プロバイダの作成

JDBC プロバイダは、ベンダー固有の JDBC ドライバ実装を使用するすべてのデータ・ソースをカプセル化します。

JDBC プロバイダは、データベースに接続するように WAS インスタンスを設定するために必要な 3 つのコンポーネントの内の 2 つ目のコンポーネントです。

WebCenter Sites クラスタを作成する場合は、クラスタの各メンバーに対して JDBC プロバイダを作成する必要があります。

JDBC プロバイダを作成するには：

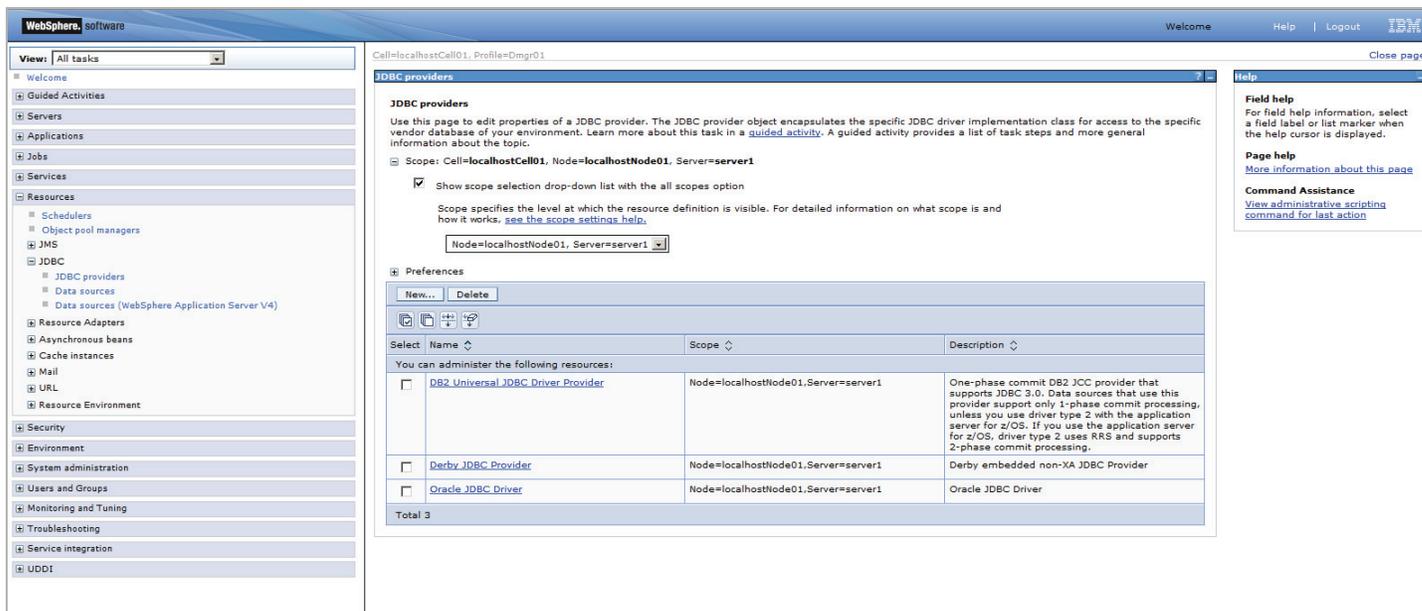
1. DB2 または Oracle データベースを使用している場合は、次の JAR ファイルを <WAS_home>/universalDriver/lib ディレクトリに置きます。
 - DB2 を使用している場合：
 - db2jcc.jar
 - db2jcc_license_cu.jar
 - MS SQL Server を使用している場合：
 - sqljdbc4.jar
 - Oracle を使用している場合：
 - ojdbc6.jar
2. デプロイメント・マネージャ・コンソールにログインします。

注意

デプロイメント・マネージャ・コンソールのデフォルトのポートは 9060 です。

- a. ブラウザで次の URL にアクセスします。
`http://<DM_host>:<DM_console_port>/admin`
 - b. ユーザー名とパスワードを入力します。
 - c. 「Log in」をクリックします。
デプロイメント・マネージャ・コンソールがロードされます。
3. 左側のペインで、「Resources」ノードを展開します。

4. 「Resources」ノードの下に「JDBC」ノードを開き、「JDBC Providers」をクリックします。「JDBC providers」画面が表示されます。



5. 「JDBC providers」画面の「Scope」領域で、ドロップダウン・リストから「Node=<appserv_node>, Server=<server_name>」を選択し、「New」をクリックします。

注意

作成される最初のアプリケーション・サーバー・ノードのデフォルト名は <WAS_host>Node01 です。

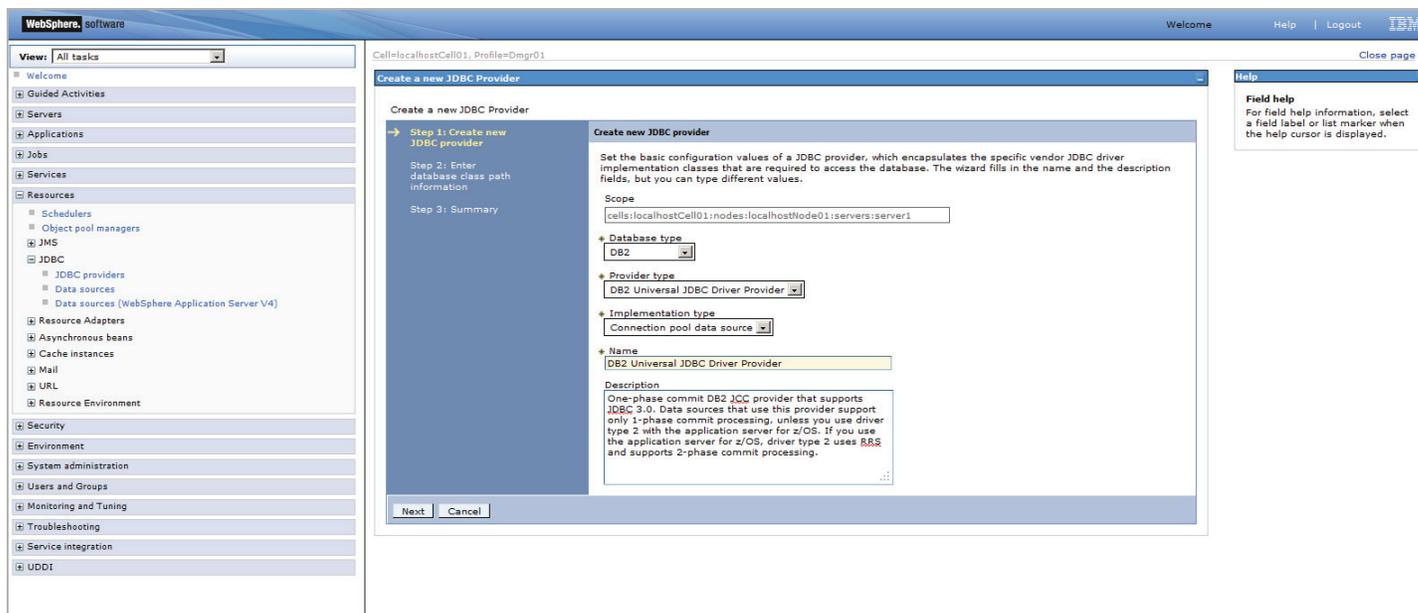
デフォルトのサーバー名は server1 です。

6. 「Create a new JDBC provider」画面で、次の手順を実行します。
- 「Database type」ドロップダウン・リストで、WebCenter Sites が使用するデータベースを選択します。
 - 「Provider type」ドロップダウン・リストで、次の表に示すように、手順 a で選択したデータベースに対応するプロバイダを選択します。

| データベース・タイプ | 対応するプロバイダ・タイプ |
|------------|------------------------------------|
| DB2 | DB2 Universal JDBC Driver Provider |
| Oracle | Oracle JDBC Driver |
| SQL Server | Microsoft SQL Server JDBC Driver |

- 「Implementation type」ドロップダウン・リストで、「Connection pool data source」を選択します。

- d. 「Name」 フィールドに、この JDBC ドライバの一意の名前を入力します。
- e. 「Next」 をクリックします。



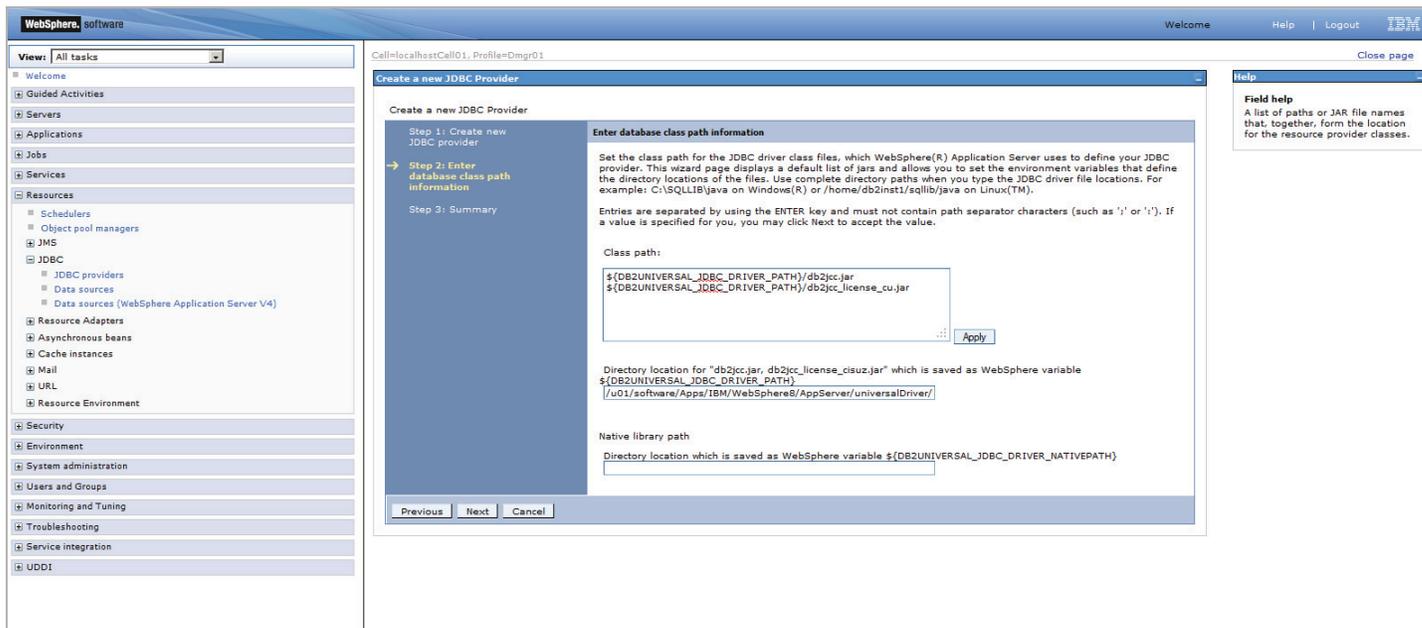
7. 「Enter database class path information」画面で、次のいずれかを実行します。

- 手順6で「DB2」または「Oracle」を選択した場合は、手順1でコピーしたデータベース固有のJARファイルが置かれている場所を入力します。これは、次のとおりです。

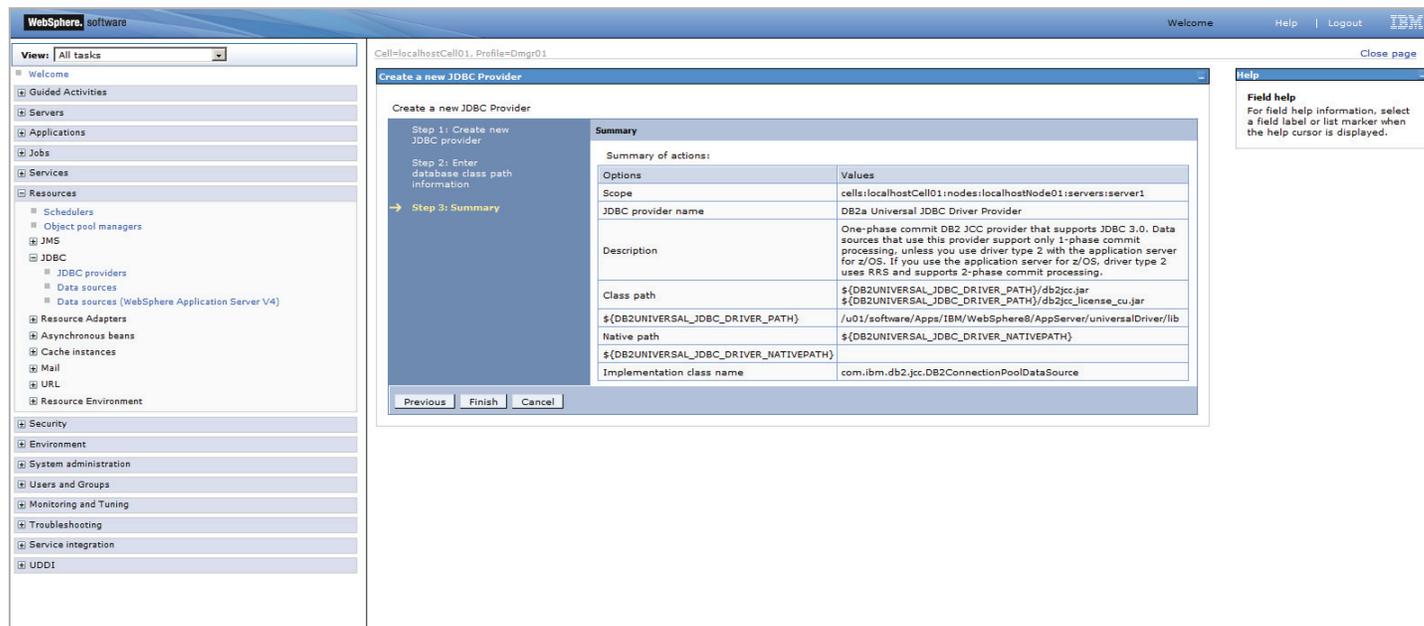
<WAS_home>/universalDriver/lib

終了したら、「Next」をクリックします。

- 手順6で「SQL Server」を選択した場合は、「Next」をクリックします。



8. 「Summary」画面で選択した設定を確認し、「Finish」をクリックします。



9. 「Messages」ボックスで「Review」をクリックします。
10. 「Save」画面で、次の手順を実行します。
 - a. 「Synchronize changes with nodes」チェック・ボックスを選択します。
 - b. 「Save」をクリックします。

11. 「Synchronize changes with nodes」画面で、「OK」をクリックします。
「JDBC providers」画面が再び表示されます。新しい JDBC プロバイダが、右側のペインのプロバイダのリストに表示されます。
12. 手順 6 で「DB2」を選択した場合は、次の手順を実行します。

注意

手順 6 で「Oracle」または「SQL Server」を選択した場合は、次の手順はスキップし、次の項に進んでください。

- a. 右側のペインの JDBC プロバイダのリストで、この項の前の手順で作成した JDBC プロバイダを選択します。
- b. 「DB2 Universal JDBC driver provider」画面の「Class path」フィールドで、次の手順を実行します。
 - 1) db2jcc_license_cisuz.jar ファイルのパスを削除します。
 - 2) db2jcc_license_cu.jar ファイルに対する変数名を次のように変更します。
変更前: \${UNIVERSAL_JDBC_DRIVER_PATH}
変更後: \${DB2UNIVERSAL_JDBC_DRIVER_PATH}
- c. 「OK」をクリックします。
- d. 「Messages」ボックスで「Review」をクリックします。
- e. 「Save」画面で、次の手順を実行します。
 - 1) 「Synchronize changes with nodes」チェック・ボックスを選択します。
 - 2) 「Save」をクリックします。
- f. 「Synchronize changes with nodes」画面で、「OK」をクリックします。

手順 III. JDBC データ・ソースの作成

J2C 認証と JDBC プロバイダを作成したら、次はデータ・ソースを作成します。

データ・ソースは、データベースに接続するように WAS インスタンスを設定するために必要な最後のコンポーネントです。

WebCenter Sites クラスタを作成する場合は、各クラスタ・メンバーのデータ・ソースが次のものを使用する必要があります。

- 手順 I. J2C 認証の作成で作成した J2C 認証

- そのクラスタ・メンバーのスコープに対して作成した JDBC プロバイダ

注意

この手順を開始する前に、次のことを確認してください。

1. [手順 I. J2C 認証の作成](#)の手順に従って J2C 認証を作成したこと
2. [手順 II. JDBC プロバイダの作成](#)の手順に従って JDBC プロバイダを作成したこと

JDBC データ・ソースを作成するには：

1. デプロイメント・マネージャ・コンソールにログインします。

注意

デプロイメント・マネージャ・コンソールのデフォルトのポートは 9060 です。

- a. ブラウザで次の URL にアクセスします。
`http://<DM_host>:<DM_console_port>/admin`
 - b. ユーザー名とパスワードを入力します。
 - c. 「**Log in**」をクリックします。
デプロイメント・マネージャ・コンソールがロードされます。
2. 左側のペインで、「**Resources**」ノードを展開します。
 3. 「**Resources**」ノードの下の「**JDBC**」ノードを開き、「**Data sources**」をクリックします。「**Data sources**」画面が表示されます。
 4. 「**Data sources**」画面の「**Scope**」領域で、ドロップダウン・リストから「**Node=<appserv_node>, Server=<server_name>**」を選択し、「**New**」をクリックします。

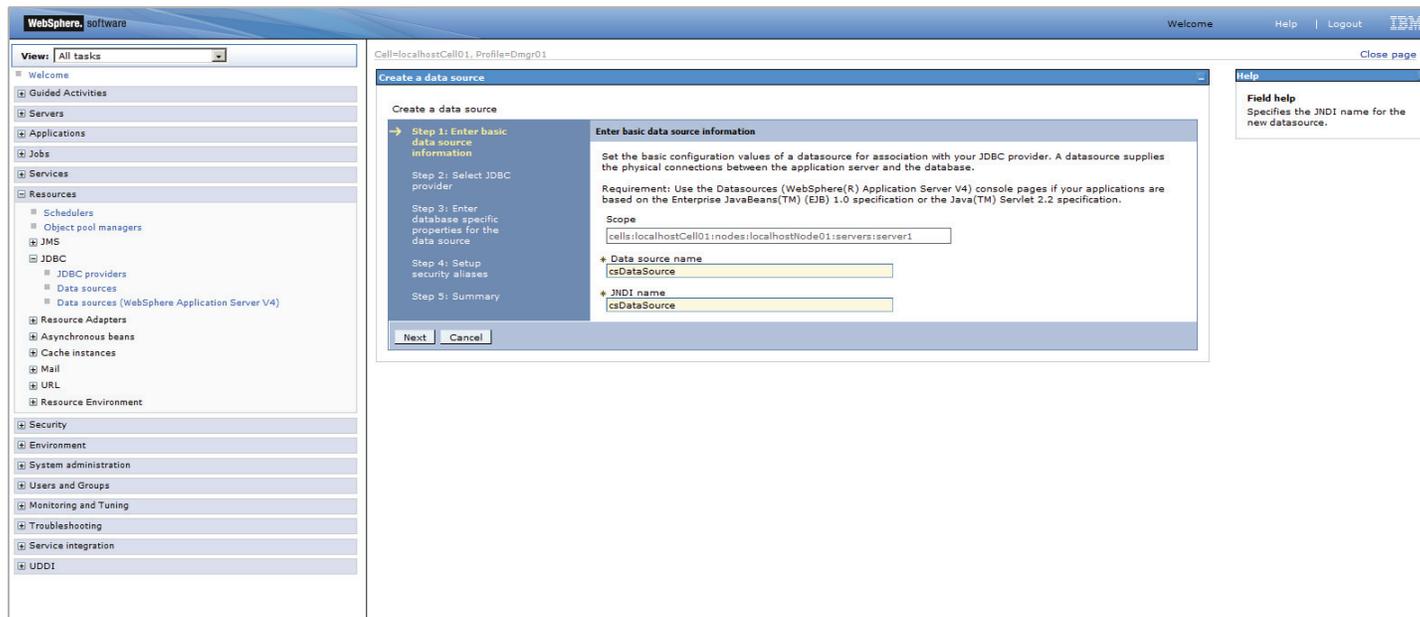
注意

作成される最初のアプリケーション・サーバー・ノードのデフォルト名は <WAS_host>Node01 です。

デフォルトのサーバー名は server1 です。

5. 「**Enter basic data source information**」画面で、次の手順を実行します。
 - a. 「**Data source name**」フィールドに、このデータ・ソースに対する一意の名前を入力します。
 - b. 「**JNDI name**」フィールドに、このデータ・ソースに対する JNDI 名を入力します。

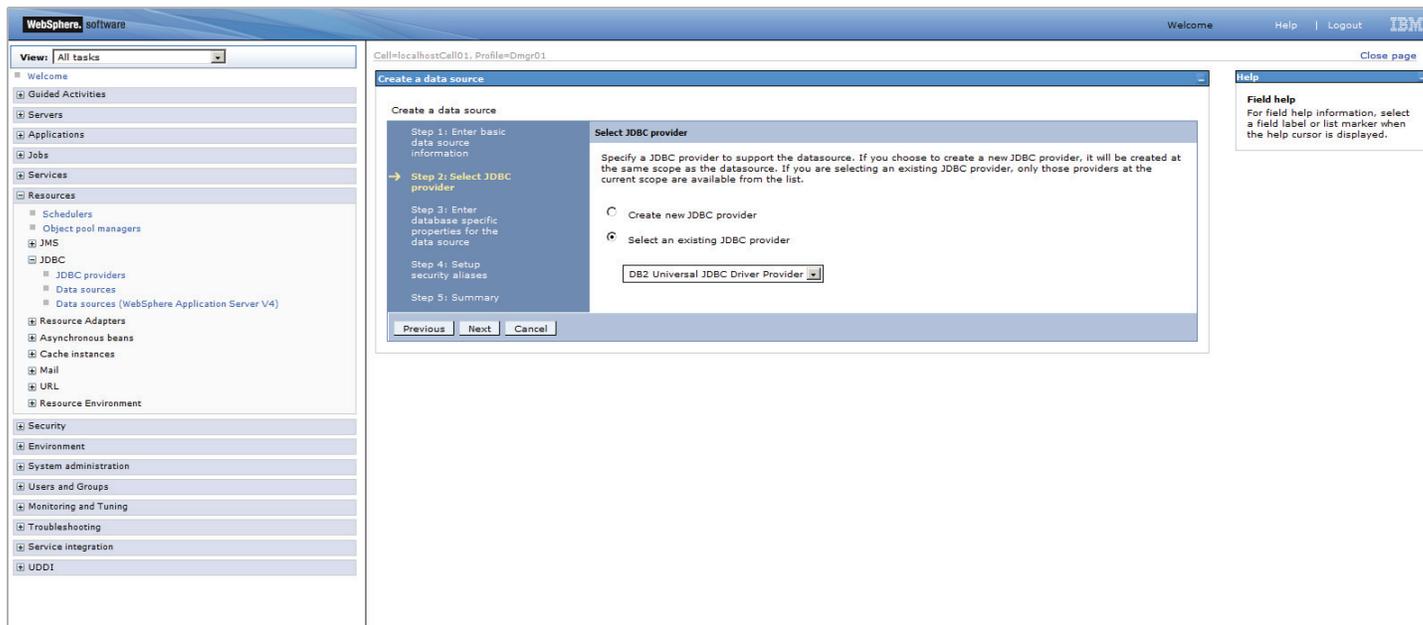
c. 「Next」をクリックします。



d. 「Select an existing JDBC provider」を選択します。

e. ドロップダウン・リストで、手順 II. JDBC プロバイダの作成で作成した JDBC プロバイダを選択します。

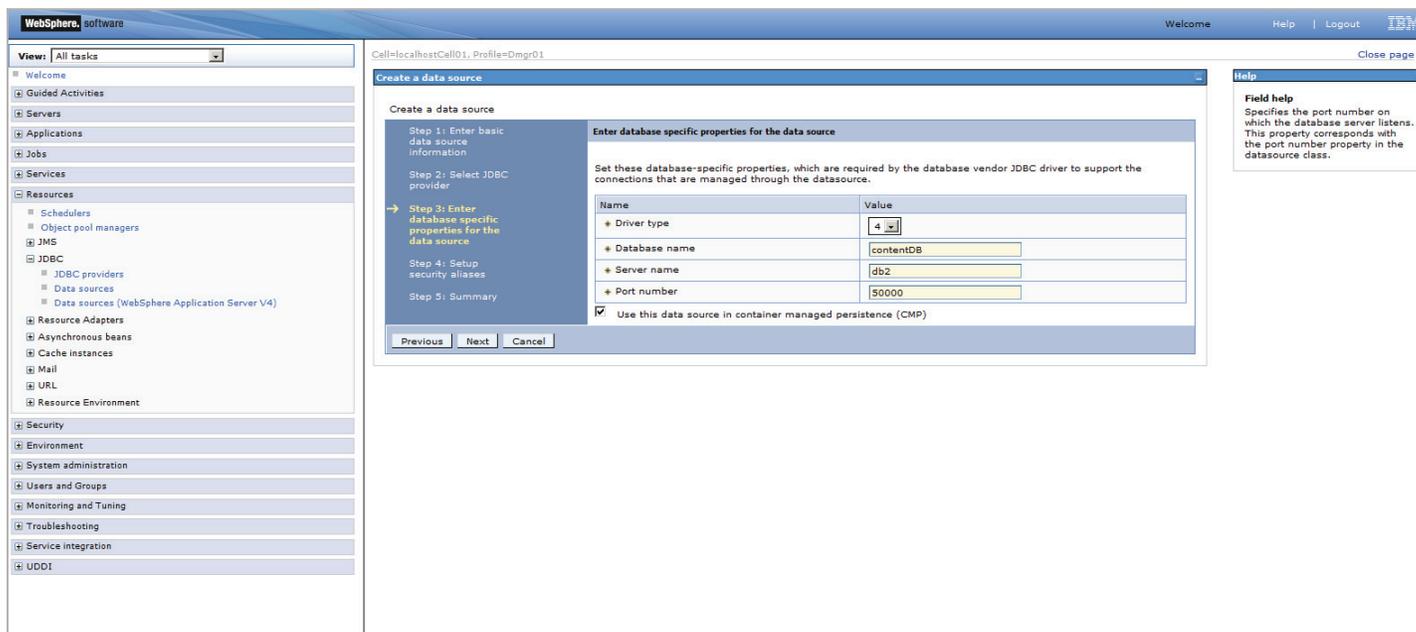
f. 「Next」をクリックします。



6. 「Enter database-specific properties for the data source」画面で、次のいずれかを実行します。

- 手順 e で DB2 JDBC プロバイダを選択した場合は、次の手順を実行します。

- 1) 「Database name」フィールドに、WebCenter Sites が使用するデータベースの名前を入力します。
- 2) 「Driver type」ドロップダウン・リストで、「4」を選択します。
- 3) 「Server name」フィールドに、WebCenter Sites データベースを実行するマシンのホスト名または IP アドレスを入力します。
- 4) 「Port number」フィールドに、WebCenter Sites データベースが接続をリスニングしているポート番号を入力します。
- 5) 「Use this data source in container managed persistence (CMP)」チェック・ボックスを選択します。
- 6) 「Next」をクリックします。



- 手順 e で Oracle JDBC プロバイダを選択した場合は、次の手順を実行します。

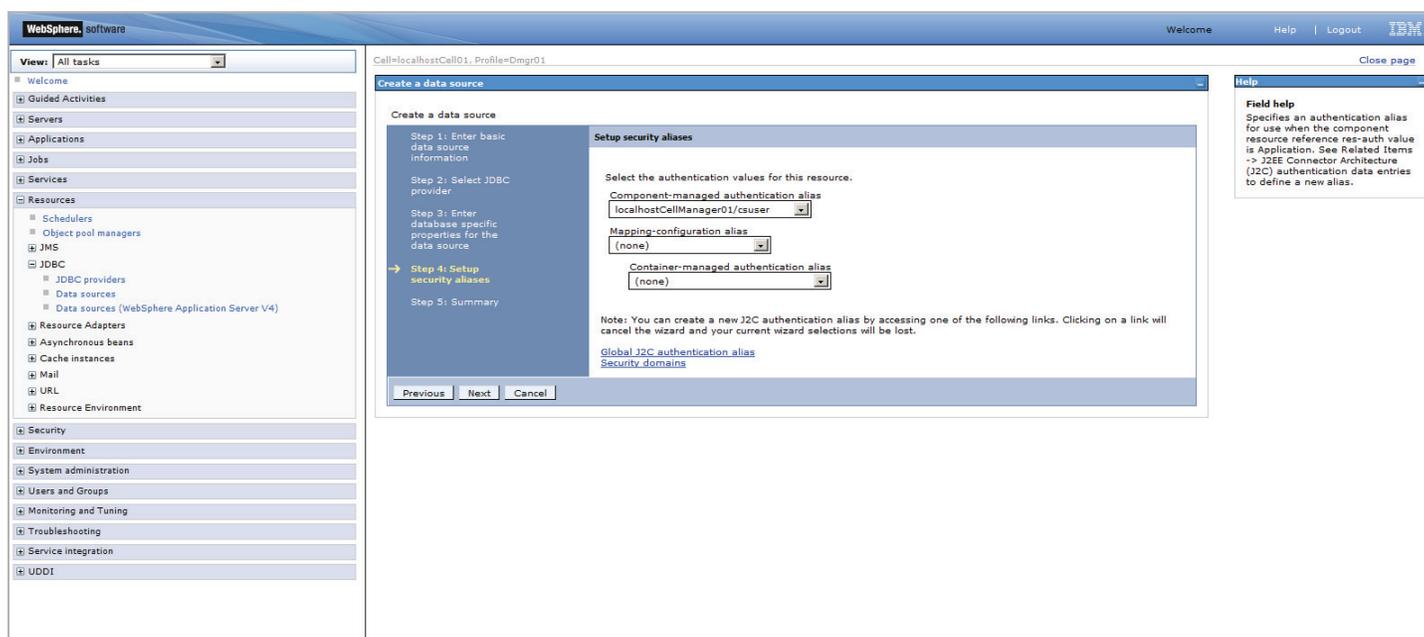
- 1) 「URL」フィールドに、WebCenter Sites が使用するデータベースの URL を入力します。URL は次のフォーマットで入力する必要があります。

```
jdbc:oracle:thin:@//<db_host>:<db_port>/<db_name>
```

ここで、

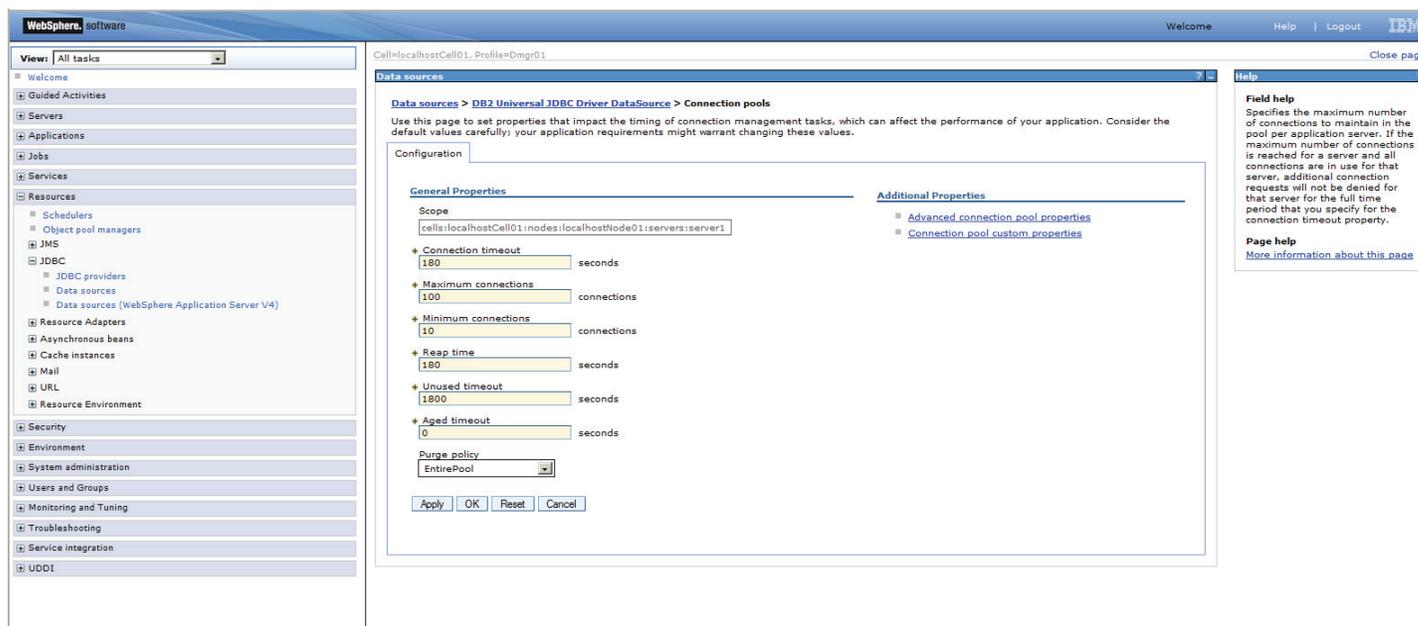
- <db_host> は、WebCenter Sites データベースを実行するマシンのホスト名または IP アドレスです。
 - <db_port> は、WebCenter Sites データベースが接続をリスニングするポート番号です。
 - <db_name> は、WebCenter Sites データベースの名前です。
- 2) 「Data store helper class name」ドロップダウン・リストで、「Oracle11g data store helper」を選択します。
 - 3) 「Use this data source in container managed persistence (CMP)」チェック・ボックスを選択します。

- 4) 「Next」 をクリックします。
- 手順 e で SQL Server プロバイダを選択した場合は、次の手順を実行します。
 - 1) 「Database name」 フィールドに、WebCenter Sites が使用するデータベースの名前を入力します。
 - 2) 「Server name」 フィールドに、WebCenter Sites データベースを実行するマシンのホスト名または IP アドレスを入力します。
 - 3) 「Port number」 フィールドに、WebCenter Sites データベースが接続をリスニングしているポート番号を入力します。
 - 4) 「Use this data source in container managed persistence (CMP)」 チェック・ボックスを選択します。
 - 5) 「Next」 をクリックします。
7. 「Component-managed authentication alias」 ドロップダウン・リストで、手順 I. J2C 認証の作成で作成した J2C 認証を選択し、「Next」 をクリックします。



8. 「Summary」 画面で選択した設定を確認し、「Finish」 をクリックします。
9. 「Messages」 ボックスで「Review」 をクリックします。
10. 「Save」 画面で、次の手順を実行します。
 - a. 「Synchronize changes with nodes」 チェック・ボックスを選択します。
 - b. 「Save」 をクリックします。
11. 「Synchronize changes with nodes」 画面で、「OK」 をクリックします。作成したデータ・ソースを示した状態で、「Data sources」 画面が再び表示されます。
12. データ・ソースのリストで、作成したデータ・ソースを選択します。

13. 「Data sources」画面の「Additional Properties」領域で、「**Connection pool properties**」をクリックします。
14. 「Connection pools」画面で、次の手順を実行します。
 - a. 「**Maximum connections**」フィールドに、100 (または構成に適した値) を入力します。
 - b. 「**Minimum connections**」フィールドに、10 (または構成に適した値) を入力します。
 - c. 「**OK**」をクリックします。



15. 「Messages」ボックスで「**Review**」をクリックします。
16. 「Save」画面で、次の手順を実行します。
 - a. 「**Synchronize changes with nodes**」チェック・ボックスを選択します。
 - b. 「**Save**」をクリックします。
17. 「Synchronize changes with nodes」画面で、「**OK**」をクリックします。
18. DB2 を実行している環境の場合：
 - a. データ・ソースのリストで、作成したデータ・ソースを選択します。
 - b. 「Data sources」画面の「Additional Properties」領域で、「**Custom properties**」をクリックします。

- c. 「Custom properties」画面で、「resultSetHoldability」をクリックします。

The screenshot shows the WebSphere Administration Console interface. The left-hand navigation pane is expanded to 'Resources' > 'JDBC' > 'Data sources (WebSphere Application Server V4)' > 'Data sources'. The main content area displays the configuration for 'resultSetHoldability' under 'Data sources > DB2 Universal JDBC Driver DataSource > Custom properties'. The 'Value' field is set to '1'. The 'Description' field contains the text: 'Determine whether ResultSets are closed or kept open when committing a transaction. The possible values are: 1 (HOLD_CURSORS_OVER_COMMIT), 2 (CLOSE_CURSORS_AT_COMMIT)'. The 'Type' dropdown is set to 'java.lang.Integer'. Buttons for 'Apply', 'OK', 'Reset', and 'Cancel' are visible at the bottom.

- d. 「Value」フィールドに1と入力し、「OK」をクリックします。

The screenshot shows the 'Messages' table in the WebSphere Administration Console. The table has columns for 'Name', 'Value', and 'Description'. The 'resultSetHoldability' row is highlighted, showing a value of '1'. Other rows include 'traceFileAppend', 'traceDirectory', 'fullyMaterializeLobData', 'currentPackageSet', 'readOnly', 'deferPrepares', and 'currentSchema'. A 'Help' sidebar is visible on the right.

| Name | Value | Description |
|--|-------|--|
| <input type="checkbox"/> traceFileAppend | false | Specifies whether to append to or overwrite the file that is specified by the traceFile property. The default is false, which means that the file that is specified by the traceFile property is overwritten. |
| <input type="checkbox"/> traceDirectory | | Specifies the directory where the trace file will be created. |
| <input type="checkbox"/> fullyMaterializeLobData | true | This setting controls whether or not LOB locators are used to fetch LOB data. If enabled, LOB data is not streamed, but is fully materialized with locators when the user requests a stream on the LOB column. The default value is true. |
| <input type="checkbox"/> resultSetHoldability | 1 | Determine whether ResultSets are closed or kept open when committing a transaction. The possible values are: 1 (HOLD_CURSORS_OVER_COMMIT), 2 (CLOSE_CURSORS_AT_COMMIT). |
| <input type="checkbox"/> currentPackageSet | | This property is used in conjunction with the DB2Binder - collection option which is given when the JDBC/CLI packageset is bound during installation by the DBA. |
| <input type="checkbox"/> readOnly | false | This property creates a read only connection. By default this value is false. |
| <input type="checkbox"/> deferPrepares | true | This property provides a performance directive that affects the internal semantics of the input data type conversion capability of the driver. By default the Universal driver defers 'internal prepare requests'. In this case, the driver works without the benefit of described parameter or result set meta data until execute time. So undescribed input data is sent 'as is' to the server without any data type cross-conversion of the inputs. |
| <input type="checkbox"/> currentSchema | | Identifies the default schema name used to qualify unqualified database object references where applicable in dynamically prepared SQL. |

- e. 「Messages」ボックスで「Review」をクリックします。

- f. 「Save」画面で、次の手順を実行します。

- 1) 「Synchronize changes with nodes」チェック・ボックスを選択します。

- 2) 「Save」をクリックします。

19. 「Synchronize changes with nodes」画面で、「OK」をクリックします。

20. 「Custom properties」画面に移動して次のプロパティを作成し、各プロパティの値を **1** に設定します。
 - allowNextOnExhaustResultSet = 1
 - allowNullResultSetForExecuteQuery = 1
21. WebCenter Sites クラスタを作成する場合は、クラスタの各メンバーに対してこの手順の [手順 4 - 17](#) を繰り返します。

D. CAS に対する WAS インスタンスの構成

この項では、CAS Web アプリケーションに必要な CLASSPATH 構成について説明します。

CAS に対して WAS インスタンスを構成するには：

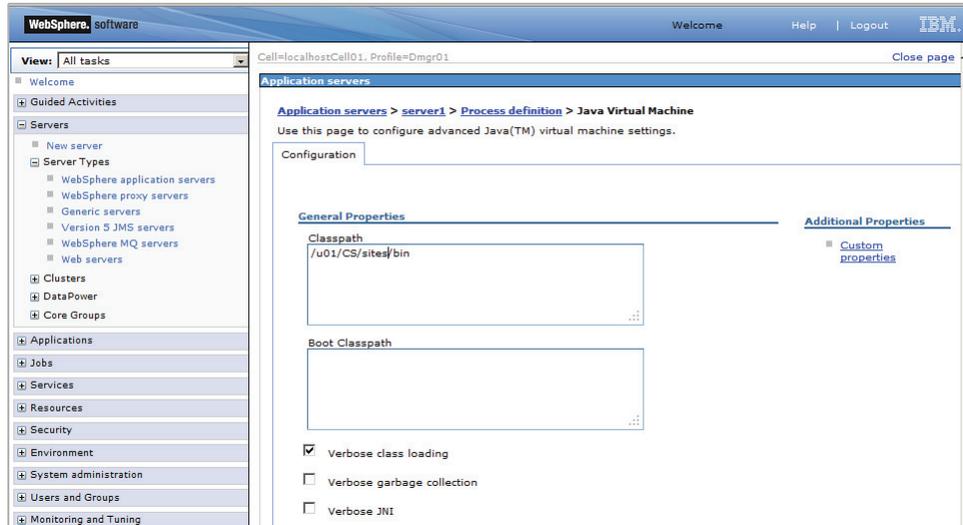
1. デプロイメント・マネージャ・コンソールにログインします。

注意

デプロイメント・マネージャ・コンソールのデフォルトのポートは 9060 です。クラスパスおよびライブラリ・パスが適切に設定されていない場合、CAS Web アプリケーションは起動せず、WebCenter Sites の Admin インタフェースの「管理」タブの「システム・ツール」ノードは機能が制限されます。

- a. ブラウザで次の URL にアクセスします。
`http://<DM_host>:<DM_console_port>/admin`
- b. ユーザー名とパスワードを入力します。
- c. 「Log in」をクリックします。
デプロイメント・マネージャ・コンソールがロードされます。
2. 左側のペインで、「Servers」 → 「Server Types」を開き、「Application Servers」をクリックします。
構成されているサーバーのリストが表示されます。
3. WebCenter Sites に対して作成したアプリケーション・サーバー・インスタンスをクリックします (たとえば、**server1** を選択します)。

4. 「**Java and Process Management**」を開き、「**Process definition**」をクリックします。「**Additional Properties**」の下の「**Java Virtual Machine**」をクリックします。「**Classpath**」テキスト領域に、WebCenter Sites のインストール・ディレクトリの場所を入力します。



WebCenter Sites アプリケーションのデプロイ

WebCenter Sites のインストールの途中で、WebCenter Sites アプリケーションをデプロイする必要があります。この項では、デプロイメント・マネージャ・コンソールを使用して、WAS 上に WebCenter Sites アプリケーションをデプロイする方法について説明します。

WebCenter Sites クラスタを作成する場合は、クラスタの各メンバーに対して個別に WebCenter Sites アプリケーションをインストールしてデプロイする必要があります。クラスタ内の各 WebCenter Sites アプリケーションの名前は一意である必要があります。

注意

この手順を開始する前に、次のことを確認してください。

1. 43 ページの「コマンドラインを使用した WAS インスタンスの作成」の手順に従って、WebCenter Sites アプリケーションを実行する WAS インスタンスを作成済であること
2. 50 ページの「データベース通信のための WAS インスタンスの構成」の手順に従って、データベース通信用の WAS インスタンスを設定済であること
3. 第5章「Oracle WebCenter Sites のインストールと構成」の説明に従って、WebCenter Sites のインストール・プロセスの最初のステージが完了済であること
4. `priority=1` が、`WEB-INF/classes/commons-logging.properties` ファイルの最初のプロパティであること

WebCenter Sites アプリケーションをデプロイするには：

1. デプロイメント・マネージャ・コンソールにログインします。

注意

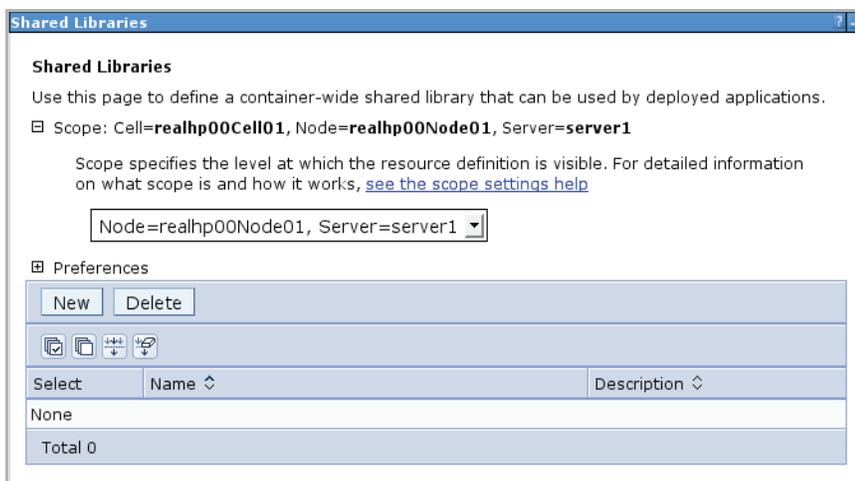
デプロイメント・マネージャ・コンソールのデフォルトのポートは 9060 です。

- a. ブラウザで次の URL にアクセスします。
`http://<DM_host>:<DM_console_port>/admin`
- b. ユーザー名とパスワードを入力します。
- c. 「Log in」をクリックします。
デプロイメント・マネージャ (DM) コンソールがロードされます。

2. 左側のペインで、「**Environment**」ノードを展開します。

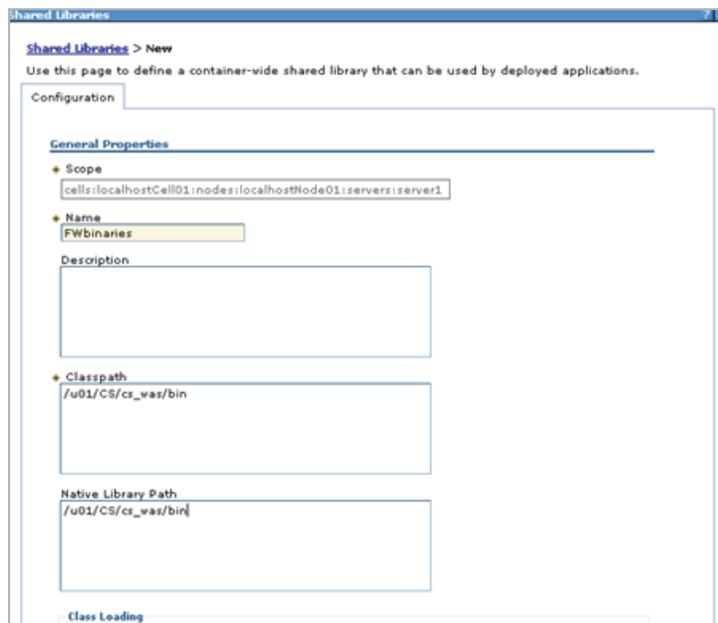


3. 「**Environment**」ノードの下の「**Shared Libraries**」をクリックします。
4. 「**Shared Libraries**」画面で、ドロップダウン・リストから適切なスコープ (通常は **server1**) を選択します。



5. 「**New**」をクリックして、構成フォームに次のように入力します。
 - a. 「**Name**」フィールドに、**FWbinaries** と入力します。
 - b. 「**Classpath**」フィールドに、パス **<cs_install_dir>/bin** を入力します。
 - c. 「**Native Library Path**」フィールドに、パス **<cs_install_dir>/bin** を入力します。

- d. 終了したら、「OK」をクリックします。



変更内容を示した状態で、「Shared Libraries」画面が再び表示されます。

6. 「Messages」ボックスで「Save」をクリックします。
7. 左側のペインで、「Applications」ノードを展開します。



8. 「Applications」ノードの下の「Install New Application」をクリックします。
9. 「Preparing for the application installation」画面で、次の手順を実行します。
 - a. 「Show me all installation options and parameters」を選択します。

- b. 「Remote file system」を選択し、「Browse」をクリックします。

Preparing for the application installation

Specify the EAR, WAR, JAR, or SAR module to upload and install.

Path to the new application

Local file system

Full path

Remote file system

Full path

Context root Used only for standalone Web modules (.war files) and SIP modules (.sar files)

How do you want to install the application?

Prompt me only when additional information is required.

Show me all installation options and parameters.

10. 「Browse Remote Filesystems」画面で、次の手順を実行します。
- WebCenter Sites アプリケーションをデプロイしているアプリケーション・サーバー・ノードを選択します。
 - `<cs_install_dir>/ominstallinfo/app` ディレクトリを参照します。
 - `ContentServer.ear` ファイルを選択します。
 - 「OK」をクリックします。
選択した WebCenter Sites アプリケーション・ファイルのパスを示した状態で、「Preparing for the application installation」画面が再び表示されます。
 - 「Next」をクリックします。
11. 「Choose to generate mappings and bindings」画面で、「Next」をクリックします。
12. 「Application Security Warnings」画面で、「Continue」をクリックします。

13. 「Select installation options」画面で、「Precompile JavaServer Pages files」を選択し、「Next」をクリックします。

→ Step 1: Select installation options

Step 2: Map modules to servers

Step 3: Provide JSP reloading options for Web modules

Step 4: Map shared libraries

Step 5: Map virtual hosts for Web modules

Step 6: Map context roots for Web modules

Step 7: Summary

Select installation options

Specify the various options that are available to prepare and install your application.

- Precompile JavaServer Pages files
- Directory to install application:
- Distribute application
- Use Binary Configuration
- Deploy enterprise beans
- Application name:
- Create MBeans for resources
- Enable class reloading
- Reload interval in seconds:
- Deploy Web services
- Validate Input off/warn/fail:
- Process embedded configuration

File Permission

- Allow all files to be read but not written to
- Allow executables to execute
- Allow HTML and image files to be read by everyone

Application Build ID:

- Allow dispatching includes to remote resources
- Allow servicing includes from remote resources

14. 「Map modules to servers」画面で、次の手順を実行します。
 - a. **cs.war** モジュールのチェック・ボックスを選択します。
 - b. 「**Server**」列で適切なサーバーを選択します。
 - c. 「**Apply**」をクリックします。

Map modules to servers

Specify targets such as application servers or clusters of application servers where you want to install the modules that are contained in your application. Modules can be installed on the same application server or dispersed among several application servers. Also, specify the Web servers as targets that serve as routers for requests to this application. The plug-in configuration file (plugin-cfg.xml) for each Web server is generated, based on the applications that are routed through.

Clusters and Servers:

| Select | Module | URI | Server |
|-------------------------------------|--------|------------------------|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> | cs.war | cs.war,WEB-INF/web.xml | WebSphere:cell=realhp00Cell01,node=realhp00Node01,server=server1 |

15. 「Provide options to compile JSPs」画面で、「**JDK Source Level**」フィールドの値を 16 に変更し、「**Next**」をクリックします。

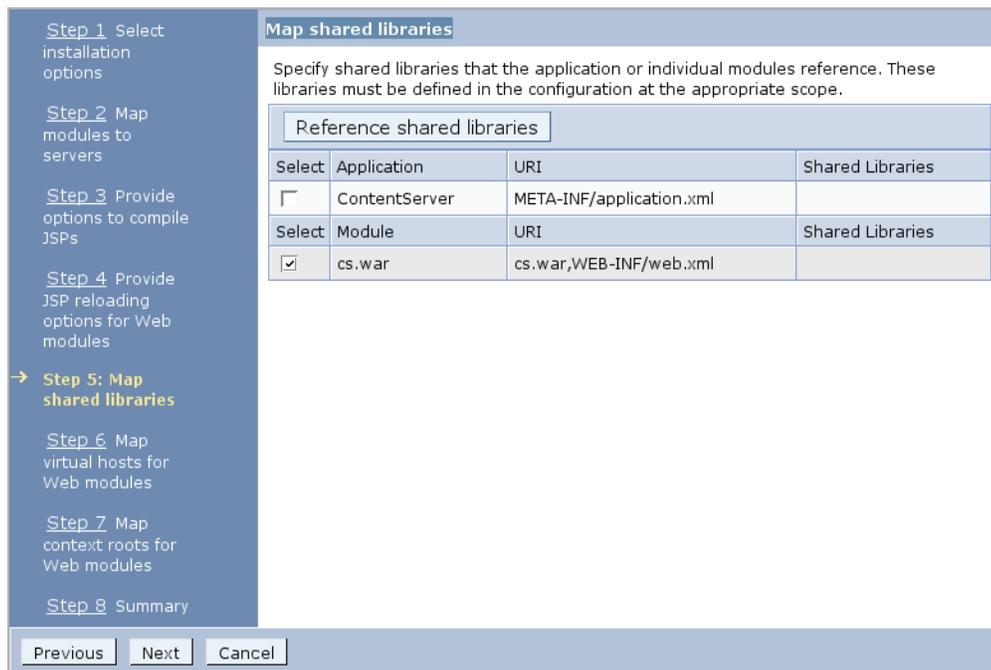
Provide options to compile JSPs

Specify the options for JSP precompiler.

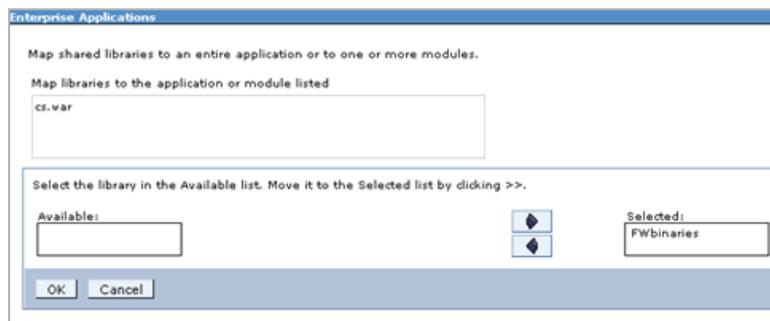
Apply Multiple Mappings

| Select | Web module | URI | JSP Class Path | Use Full Package Names | JDK Source Level | Disable JSP Runtime Compilation |
|--------------------------|------------|------------------------|----------------|-------------------------------------|------------------|---------------------------------|
| <input type="checkbox"/> | cs.war | cs.war,WEB-INF/web.xml | | <input checked="" type="checkbox"/> | 16 | <input type="checkbox"/> |

16. 「Provide JSP reloading options for Web modules」画面で、「Next」をクリックします。
17. 「Map shared libraries」画面で、次の手順を実行します。
 - a. **cs.war** モジュールのチェック・ボックスを選択します。
 - b. 「Reference shared libraries」をクリックします。



18. 「Enterprise Applications」画面で、次の手順を実行します。
 - a. 「Available」フィールドで、手順5で作成したFWbinaries パス変数を選択し、「Add」(>>) ボタンをクリックします。
 - b. 「OK」をクリックします。



変更内容を示した状態で、「Map shared libraries」画面が再び表示されます。「Next」をクリックします。

19. 「Map virtual hosts for Web modules」画面で、「Next」をクリックします。

20. 「Map context roots for Web modules」画面で、「Next」をクリックします。

注意

この画面に表示されているコンテキスト・ルートを変更しないでください。変更すると、WebCenter Sites インストールが機能しなくなります。

21. 「Summary」画面で選択したオプションを確認し、「Finish」をクリックします。

| <p>Step 1 Select installation options</p> <p>Step 2 Map modules to servers</p> <p>Step 3 Provide options to compile JSPs</p> <p>Step 4 Provide JSP reloading options for Web modules</p> <p>Step 5 Map shared libraries</p> <p>Step 6 Map virtual hosts for Web modules</p> <p>Step 7 Map context roots for Web modules</p> <p>→ Step 8: Summary</p> | <p>Summary</p> <p>Summary of installation options</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Options</th> <th>Values</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Precompile JavaServer Pages files</td> <td>Yes</td> </tr> <tr> <td>Directory to install application</td> <td></td> </tr> <tr> <td>Distribute application</td> <td>Yes</td> </tr> <tr> <td>Use Binary Configuration</td> <td>No</td> </tr> <tr> <td>Deploy enterprise beans</td> <td>No</td> </tr> <tr> <td>Application name</td> <td>ContentServer</td> </tr> <tr> <td>Create MBeans for resources</td> <td>Yes</td> </tr> <tr> <td>Enable class reloading</td> <td>No</td> </tr> <tr> <td>Reload interval in seconds</td> <td></td> </tr> <tr> <td>Deploy Web services</td> <td>No</td> </tr> <tr> <td>Validate Input off/warn/fail</td> <td>warn</td> </tr> <tr> <td>Process embedded configuration</td> <td>No</td> </tr> <tr> <td>File Permission</td> <td>.*\,dll=755#.*\,so=755#.*\,a=755#.*\,sl=755</td> </tr> <tr> <td>Application Build ID</td> <td>Unknown</td> </tr> <tr> <td>Allow dispatching includes to remote resources</td> <td>No</td> </tr> <tr> <td>Allow servicing includes from remote resources</td> <td>No</td> </tr> <tr> <td>Cell/Node/Server</td> <td>Click: here</td> </tr> </tbody> </table> | Options | Values | Precompile JavaServer Pages files | Yes | Directory to install application | | Distribute application | Yes | Use Binary Configuration | No | Deploy enterprise beans | No | Application name | ContentServer | Create MBeans for resources | Yes | Enable class reloading | No | Reload interval in seconds | | Deploy Web services | No | Validate Input off/warn/fail | warn | Process embedded configuration | No | File Permission | .*\,dll=755#.*\,so=755#.*\,a=755#.*\,sl=755 | Application Build ID | Unknown | Allow dispatching includes to remote resources | No | Allow servicing includes from remote resources | No | Cell/Node/Server | Click: here |
|---|---|---------|--------|-----------------------------------|-----|----------------------------------|--|------------------------|-----|--------------------------|----|-------------------------|----|------------------|---------------|-----------------------------|-----|------------------------|----|----------------------------|--|---------------------|----|------------------------------|------|--------------------------------|----|-----------------|---|----------------------|---------|--|----|--|----|------------------|-----------------------------|
| Options | Values | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Precompile JavaServer Pages files | Yes | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Directory to install application | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Distribute application | Yes | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Use Binary Configuration | No | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Deploy enterprise beans | No | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Application name | ContentServer | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Create MBeans for resources | Yes | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Enable class reloading | No | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Reload interval in seconds | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Deploy Web services | No | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Validate Input off/warn/fail | warn | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Process embedded configuration | No | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| File Permission | .*\,dll=755#.*\,so=755#.*\,a=755#.*\,sl=755 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Application Build ID | Unknown | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Allow dispatching includes to remote resources | No | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Allow servicing includes from remote resources | No | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Cell/Node/Server | Click: here | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

Previous Finish Cancel

22. 「Installing...」画面で、すべてのステージが正常に完了するまで待ちます。メッセージ「Application ContentServer has installed successfully」が表示されたら、「Save」をクリックします。

Installing...

If there are enterprise beans in the application, the EJB deployment process can take several minutes. Please do not save the configuration until the process completes.

Check the SystemOut.log on the Deployment Manager or server where the application is deployed for specific information about the EJB deployment process as it occurs.

ADMA5016: Installation of ContentServer started.

ADMA5067: Resource validation for application ContentServer completed successfully.

ADMA5058: Application and module versions are validated with versions of deployment targets.

ADMA5009: An application archive is extracted at /u01/software/Apps/WebSphere/6.1/AppServer/profiles/Dmgr01/wstemp/wstemp/app_11073a1f083/extract

ADMA5003: The JavaServer Pages (JSP) files in the Web archive (WAR) files cs.war compiled successfully.

ADMA5005: The application ContentServer is configured in the WebSphere Application Server repository.

ADMA5053: The library references for the installed optional package are created.

ADMA5005: The application ContentServer is configured in the WebSphere Application Server repository.

ADMA5001: The application binaries are saved in /u01/software/Apps/WebSphere/6.1/AppServer/profiles/Dmgr01/wstemp/0/workspace/cells/realp00Cell01/Applications/ContentServer.ear/ContentServer.ear

ADMA5005: The application ContentServer is configured in the WebSphere Application Server repository.

SECJ0400: Successfully updated the application ContentServer with the appContextIDForSecurity information.

ADMA5011: The cleanup of the temp directory for application ContentServer is complete.

ADMA5013: Application ContentServer installed successfully.

Application ContentServer installed successfully.

To start the application, first save changes to the master configuration.

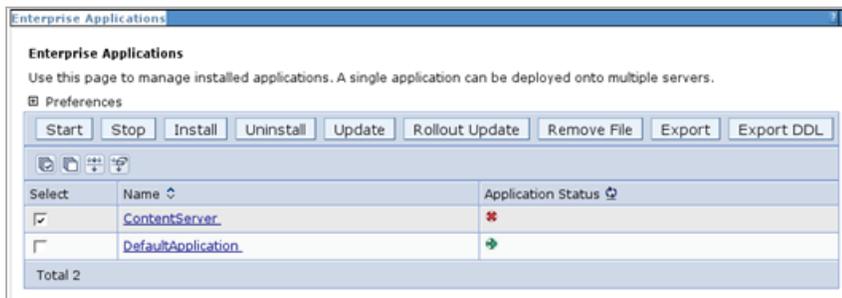
Changes have been made to your local configuration. You can:

- [Save](#) directly to the master configuration.
- [Review](#) changes before saving or discarding.

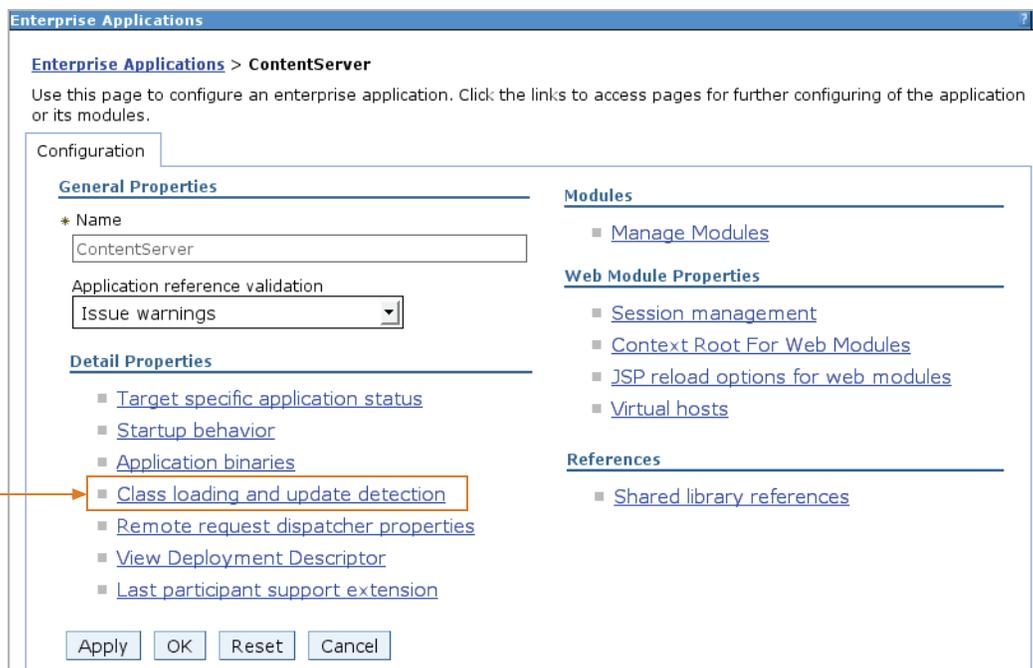
To work with installed applications, click the "Manage Applications" button.

[Manage Applications](#)

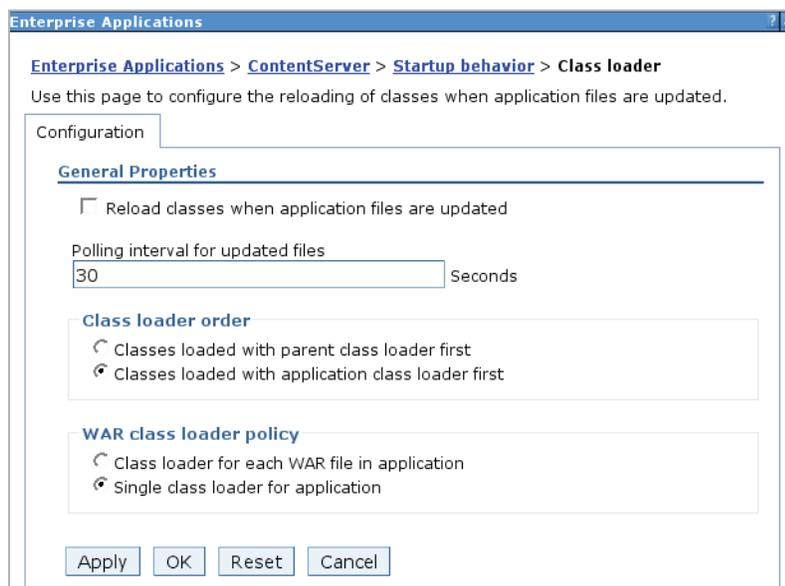
23. 「Enterprise Applications」画面で、「ContentServer」アプリケーションをクリックします。



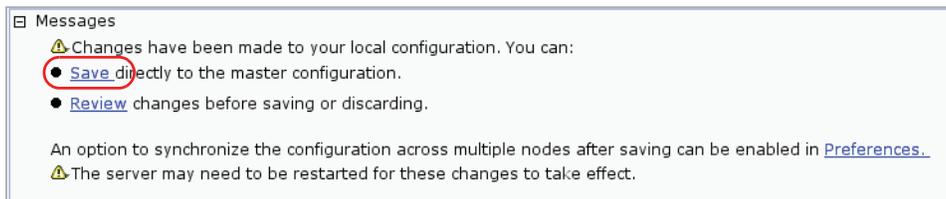
24. 次に表示される画面で、「Class loading and update detection」をクリックします。



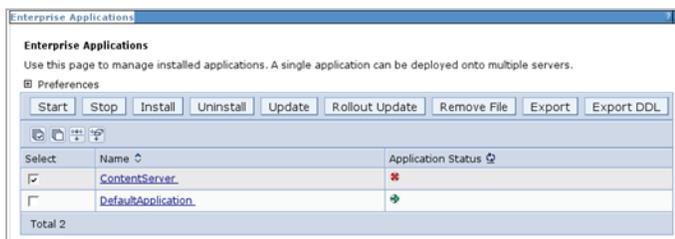
25. 表示される画面で、次の手順を実行します。
- 「Polling interval for updated files」フィールドに、30 と入力します。
 - 「Class loader order」セクションで、「Classes loaded with application class loader first」を選択します。
 - 「WAR class loader policy」セクションで、「Single class loader for application」を選択します。
 - 「OK」をクリックします。



26. 「Messages」ボックスで「Save」をクリックします。



27. 「Enterprise Applications」画面で、「ContentServer」アプリケーションの横のチェック・ボックスを選択し、「Start」をクリックします。



28. WebCenter Sites アプリケーションのデプロイと同様に、CAS アプリケーションをデプロイする場合は、この手順の [手順 8 - 27](#) を実行します (WebCenter Sites アプリケーション用の値を CAS アプリケーション用の値に置き換えます)。
29. WebCenter Sites クラスタを作成する場合は、クラスタの他の各メンバーに対してこの手順の [手順 3 - 27](#) を繰り返します。CAS のクラスタ化の詳細は、『Oracle WebCenter Sites サポート・ソフトウェアの構成』を参照してください。

WebCenter Sites アプリケーションの再起動

WebCenter Sites アプリケーションのデプロイ後に WebCenter Sites のプロパティ・ファイルに変更を加えた場合は (たとえば、WebCenter Sites をクラスター・メンバーとして構成するために)、変更内容を有効にするには、WebCenter Sites アプリケーションを再起動する必要があります。この項では、デプロイメント・マネージャ・コンソールを使用して WebCenter Sites アプリケーションを再起動する方法について説明します。

WebCenter Sites アプリケーションを再起動するには：

1. デプロイメント・マネージャ・コンソールにログインします。

注意

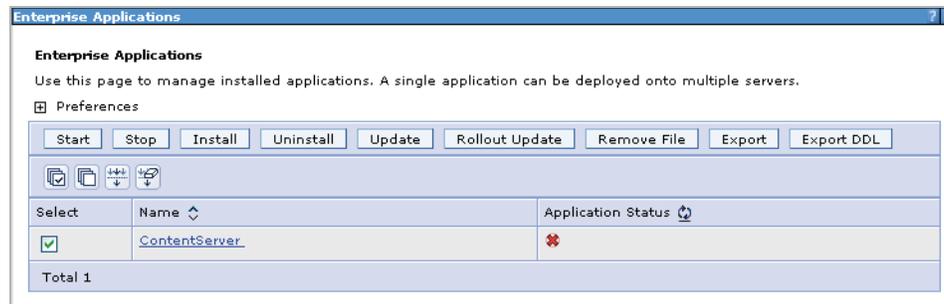
デプロイメント・マネージャ・コンソールのデフォルトのポートは 9060 です。

- a. ブラウザで次の URL にアクセスします。
`http://<DM_host>:<DM_console_port>/admin`
 - b. ユーザー名とパスワードを入力します。
 - c. 「Log in」をクリックします。
デプロイメント・マネージャ・コンソールがロードされます。
2. 左側のペインで、「Applications」ノードを展開します。



3. 「Applications」ノードの下の「Enterprise Applications」をクリックします。

4. 「Enterprise Applications」画面で、再起動する WebCenter Sites アプリケーションの横のチェック・ボックスを選択します。



5. 「Stop」をクリックしてから「OK」をクリックします。
6. 「Start」をクリックしてから「OK」をクリックします。

第 3 部

Web サーバー

この部では、サポートされている Web サーバーのインストールおよび構成方法について説明します。また、WAS Web サーバー・プラグインを使用して、WAS をサポートされている Web サーバーに統合する方法についても説明します。

この部は次の章で構成されます。

- [第 4 章 「Web サーバーのセットアップ」](#)

第 4 章

Web サーバーのセットアップ

この章では、IBM HTTP Server をインストールする方法、および WebSphere Web サーバー・プラグインを使用して、IBM HTTP Server または Apache 2.0.x Web サーバーのローカルまたはリモート・インストールに WAS を統合する方法について説明します。

この章は、次の項で構成されています。

- [IBM HTTP Server のインストール](#)
- [Apache 2.2.x Web サーバーのインストール](#)
- [サポートされている Web サーバーとの WAS の統合](#)

IBM HTTP Server のインストール

この項では、WAS に統合するために IBM HTTP Server をインストールする方法について説明します。

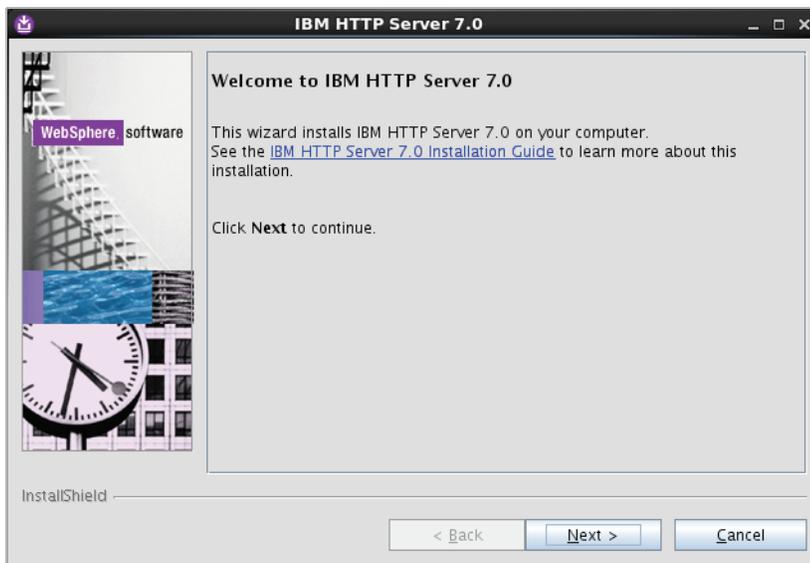
IBM HTTP Server をインストールするには：

1. IBM HTTP Server をインストールするディレクトリを作成します。インストーラがこのディレクトリに対して読取りおよび書込みできることを確認します。

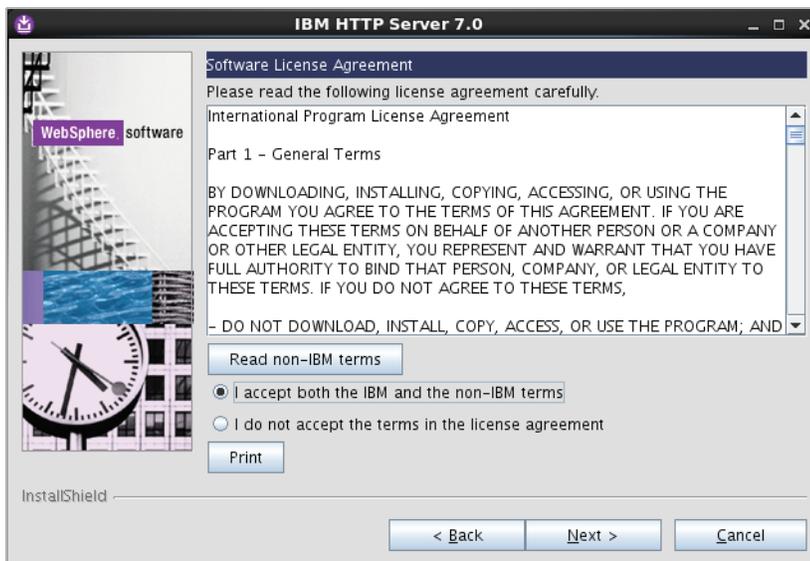
注意

このガイドでは、IBM HTTP Server をインストールするディレクトリを <ibm_http_home> と呼びます。

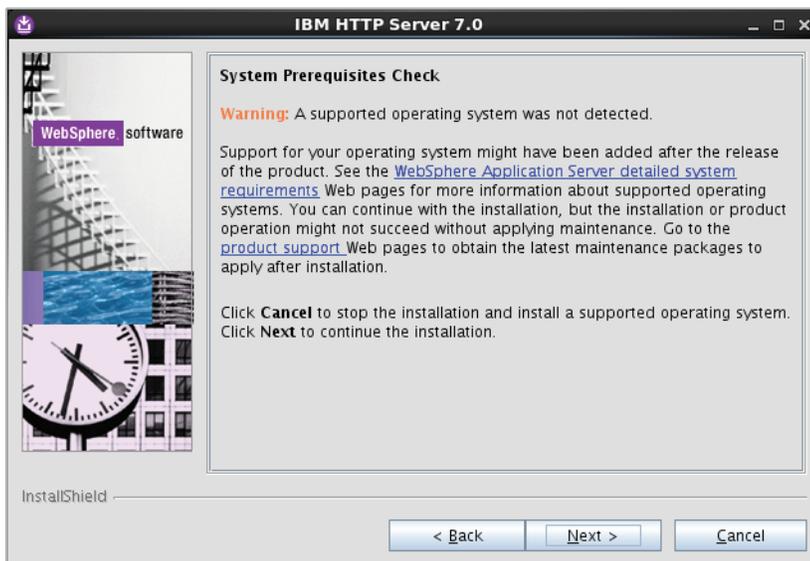
2. IBM HTTP Server のインストーラ・アーカイブを一時ディレクトリに解凍します。
3. IBM HTTP Server インストーラを実行します。
 - Windows の場合：**install.exe**
 - Unix の場合：**install.sh**
4. 「Welcome」画面で「Next」をクリックします。



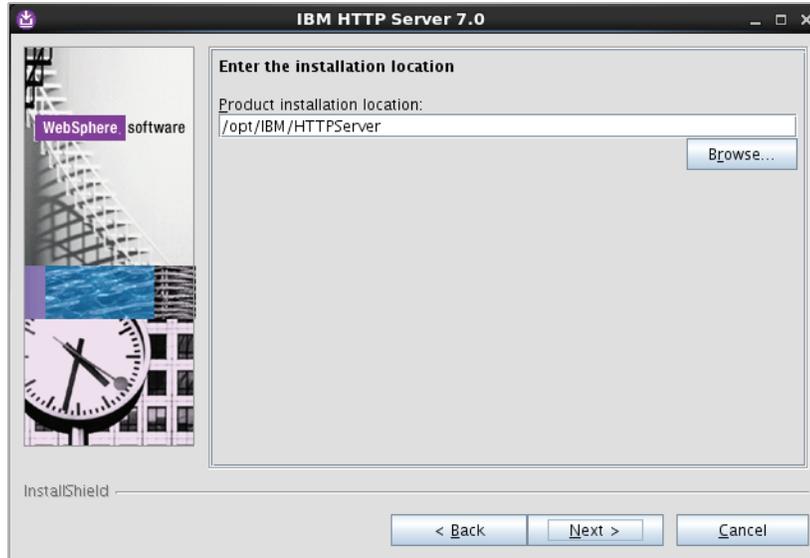
5. 「Software License Agreement」画面で、「I accept both the IBM and the non-IBM terms」を選択し、「Next」をクリックします。



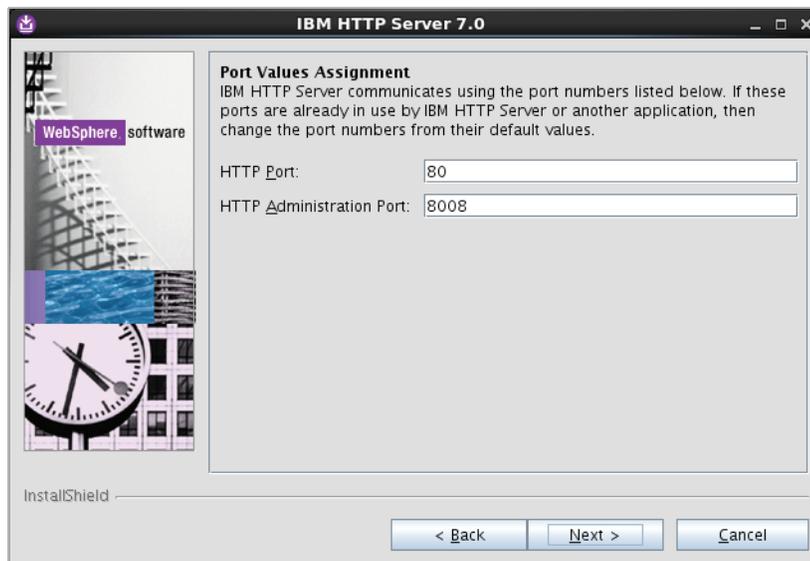
6. 「System prerequisites check」画面で、次のいずれかを実行します。
- システム前提条件チェックが成功した場合は、「Next」をクリックします。
 - システム前提条件チェックが失敗した場合は、インストールを中止し、インストーラによって指摘された問題を修正してから、インストールを再開します。



7. 「Enter the install location」画面で、手順1で作成した <ibm_http_home> ディレクトリのパスを入力し、「Next」をクリックします。



8. 「Port Values Assignment」画面で、次のいずれかを実行します。
- デフォルトのポート番号を使用する場合は、「Next」をクリックします。
 - 独自のポート番号を指定する場合は、適切なフィールドに入力し、「Next」をクリックします。

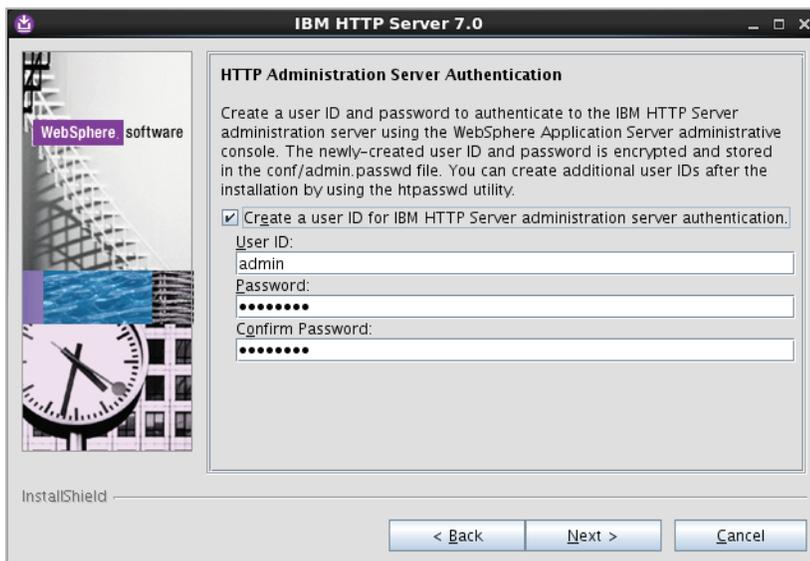


9. Windows にインストールしている場合は、「Windows Service Definition」画面で次のいずれかを実行します。

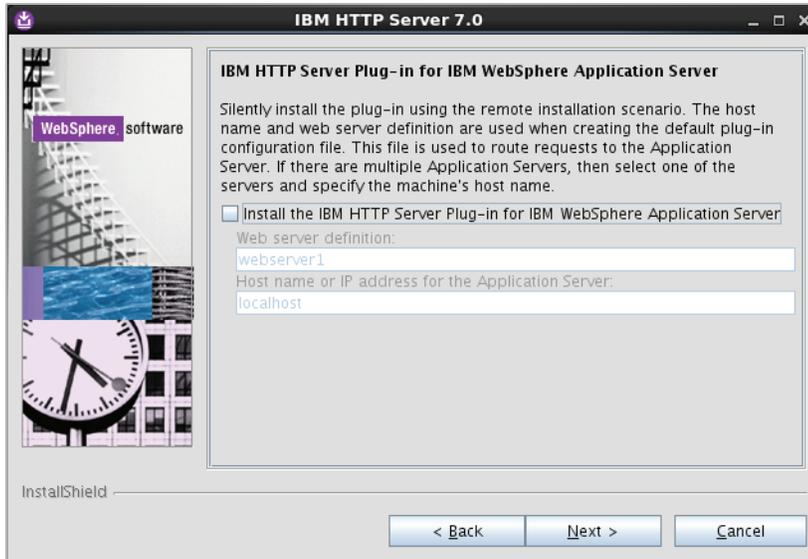
注意

Unix にインストールしている場合は、この手順はスキップします。

- a. 「Run the IBM HTTP Server as a Windows Service」および「Run IBM HTTP Administration as a Windows Service」チェック・ボックスを選択します。
 - b. IBM HTTP Windows サービスを特定のユーザー・アカウントとして実行する場合は、「Log on as a specified user account」チェック・ボックスを選択し、適切なフィールドに希望のユーザー名とパスワードを入力します。
 - c. 「Next」をクリックします。
10. 「HTTP Administration Server Authentication」画面で、次の手順を実行します。
- a. 「Create a user ID for IBM HTTP administration server authentication」チェック・ボックスを選択します。このユーザー・アカウントを使用して、IBM HTTP Administration Server にログインします。
 - b. 「User ID」と「Password」フィールドに、希望する資格証明を入力します。(確認のため、パスワードを再入力します。)
 - c. 「Next」をクリックします。



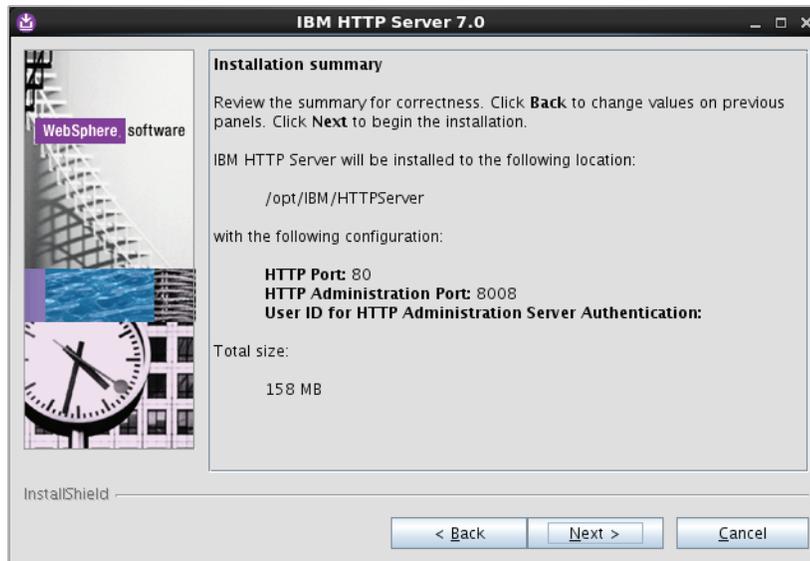
11. 「IBM HTTP Server Plug-in for WebSphere Application Server」画面で、「Install the IBM HTTP Server Plug-in for WebSphere Application Server」チェック・ボックスの選択を解除し、「Next」をクリックします。



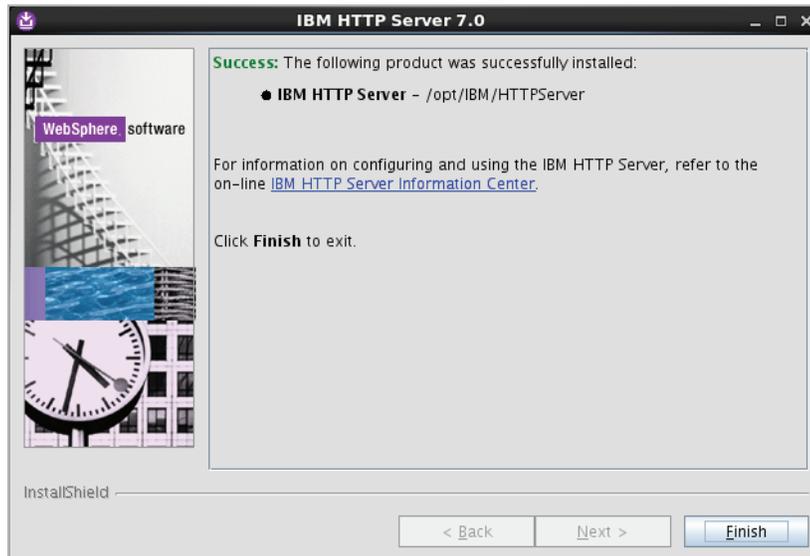
注意

「Install the IBM HTTP Server Plug-in for WebSphere Application Server」チェック・ボックスを選択したままにすると、プラグインはデフォルトの WAS アプリケーション・サーバー・プロファイルに対してのみインストールされます。必要なすべての WAS インスタンス上でプラグインをセットアップするには、88 ページの「サポートされている Web サーバーとの WAS の統合」の説明に従って、別のプラグイン・インストーラを使用する必要があります。

12. 「Installation Summary」画面で選択した設定を確認し、「Next」をクリックします。



13. インストールが正常に完了したら、「Finish」をクリックします。



Apache 2.2.x Web サーバーのインストール

このガイドでは、Apache 2.2.x Web サーバーのセットアップ手順 (WAS との統合に必要な手順以外の) については説明しません。Apache 2.2.x Web サーバーのセットアップ方法については、次のいずれかのドキュメントを参照してください。

- Apache Web サーバーを Linux または Solaris にインストールする場合の手順については、『Oracle WebCenter Sites サポート・ソフトウェアの構成』を参照してください。
- Linux または Solaris 以外のオペレーティング・システムを使用している場合は、Apache のドキュメントを参照してください。

サポートされている Web サーバーとの WAS の統合

この項では、WAS Web サーバー・プラグインを使用して、IBM HTTP Server または Apache 2.2.x Web サーバーと WAS を統合する方法について説明します。

注意

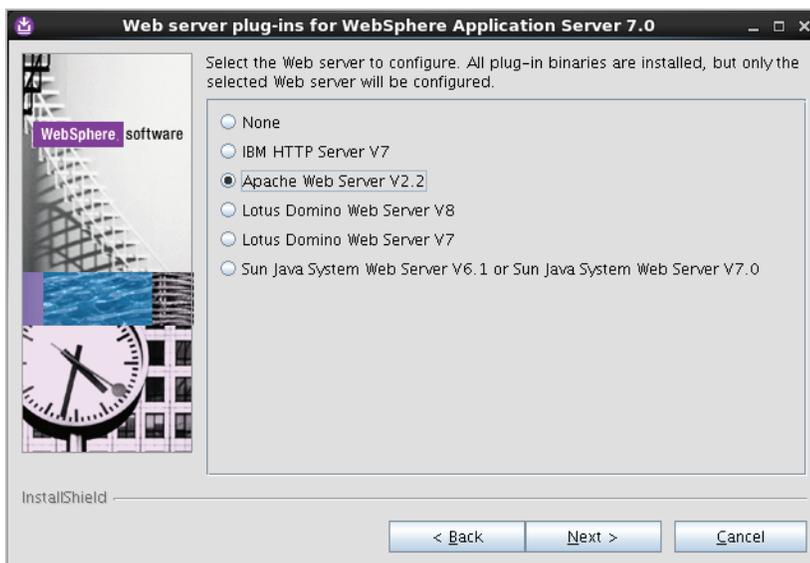
この手順を開始する前に、次のことを確認します。

- 選択した Web サーバーをインストールおよび構成したこと
- Web サーバーが実行されていないこと

WAS Web サーバー・プラグインをセットアップするには：

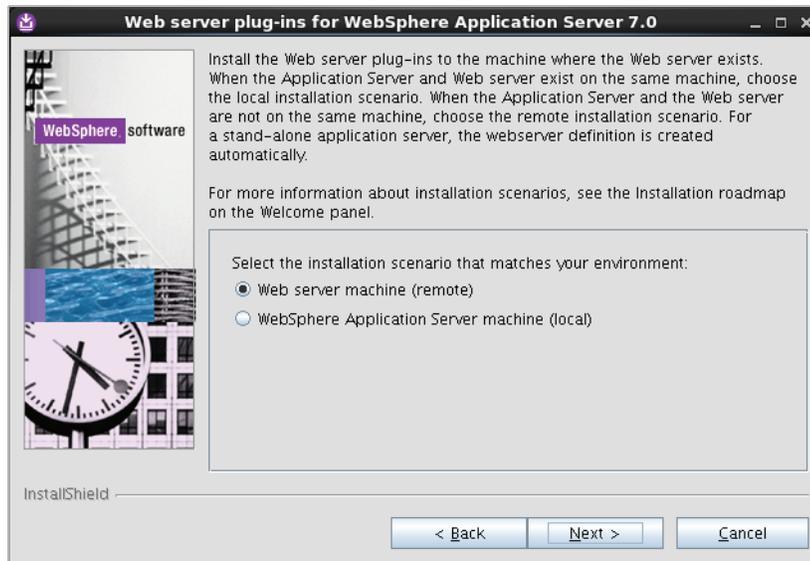
1. Web サーバーがインストールされているマシン上で、WebSphere Supplements アーカイブを一時ディレクトリに解凍します。
2. WAS Web サーバー・プラグイン・インストーラを実行します。
 - Windows の場合：
`<temp_dir>%plugin%install.exe`
 - Unix の場合：
`<temp_dir>/plugin/install.sh`
3. 「Welcome」画面で「Next」をクリックします。
4. 「Software License Agreement」画面で、「I accept both the IBM and the non-IBM terms」を選択し、「Next」をクリックします。

5. 「System prerequisites check」画面で、次のいずれかを実行します。
 - システム前提条件チェックが成功した場合は、「Next」をクリックします。
 - システム前提条件チェックが失敗した場合は、インストールを中止し、インストーラによって指摘された問題を修正してから、インストールを再開します。
6. 「Select the web server to configure」画面で、使用している Web サーバー（「IBM HTTP Server V7」または「Apache Web Server V2.2」）を選択し、「Next」をクリックします。

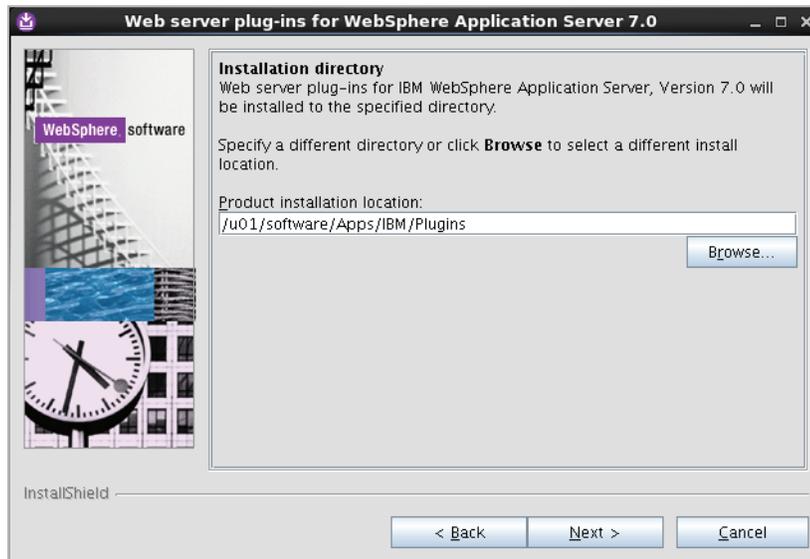


7. 「Scenario selection」画面で、次のいずれかを実行します。
 - Web サーバーが WAS と同じマシンにインストールされている場合は、「WebSphere Application Server machine (local)」を選択して「Next」をクリックします。

- Web サーバーが別のマシンにインストールされている場合は、「**Web server machine (remote)**」を選択して「**Next**」をクリックします。



8. 「Installation directory」画面で、Web サーバーの <plugin_root> ディレクトリを参照して「**Next**」をクリックします。



9. 手順7で「**WebSphere Application Server machine (local)**」を選択した場合は、<WAS_home> ディレクトリを参照して「**Next**」をクリックします。

注意

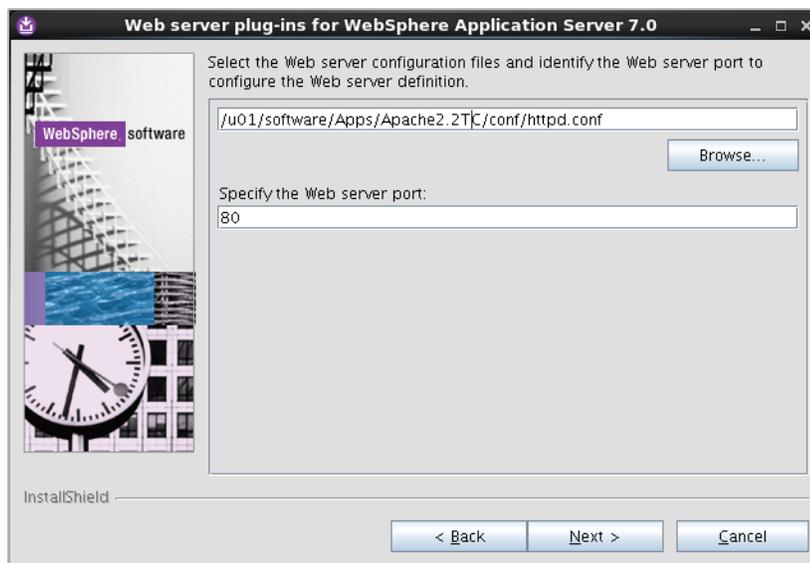
手順7で「**Web server machine (remote)**」を選択した場合は、この手順をスキップします。

10. 手順7で「**WebSphere Application Server machine (local)**」を選択した場合は、Web サーバーに統合する WAS インスタンスのプロファイル名を選択し、「**Next**」をクリックします。

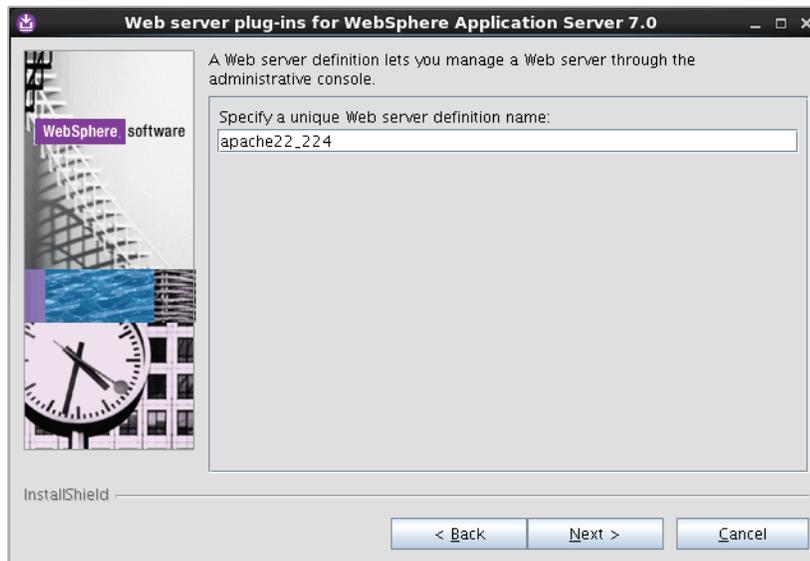
注意

手順7で「**Web server machine (remote)**」を選択した場合は、この手順をスキップします。

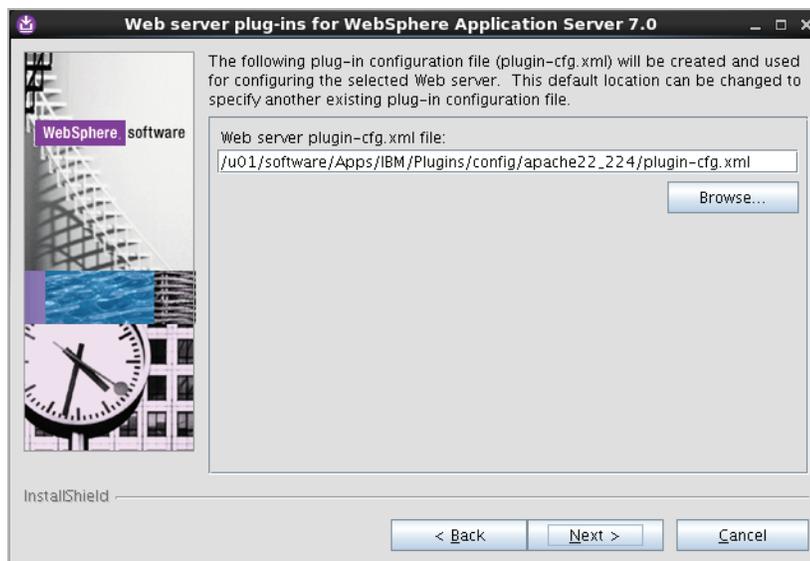
11. 「Web server configuration file and port」画面で、次のいずれかを実行します。
- Web サーバーの構成ファイルを参照します。
 - IBM HTTP Server を使用している場合は、ファイルの場所と名前は次のとおりです。
`<ibm_http_home>/conf/httpd.conf`
 - Apache Web サーバーを使用している場合は、ファイルの場所と名前は次のとおりです。
`<apache_home>/conf/httpd.conf`
 - Web サーバーが接続をリスニングしているポートを指定します。
 - 「**Next**」をクリックします。



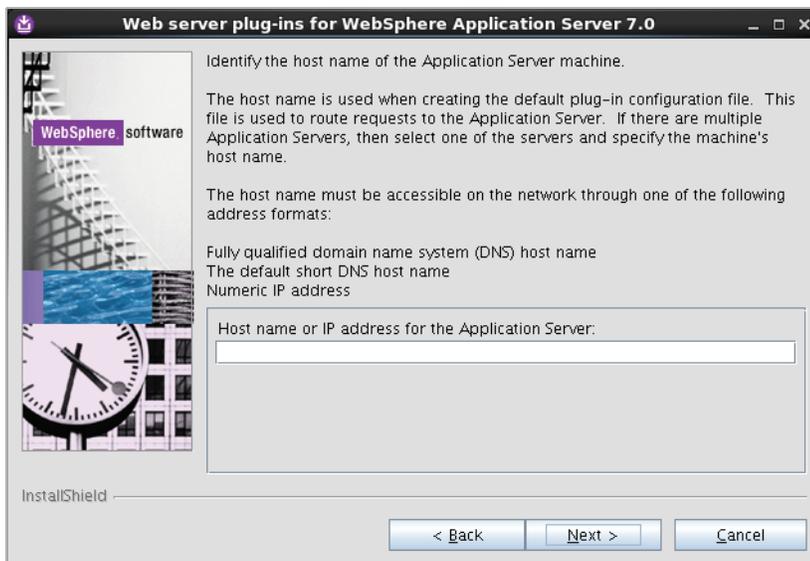
12. 「Web server definition」画面で、この Web サーバー定義に対する一意の名前を入力します。(Web サーバー定義には、これまでの手順で入力した Web サーバーの構成データが保存されます。) 終了したら、「Next」をクリックします。



13. 「Web server plug-in configuration」画面で、「Next」をクリックします。



- 手順7で「**Web server machine (remote)**」を選択した場合は、WAS がインストールされているマシンの完全修飾ホスト名または IP アドレスを入力し、「**Next**」をクリックします。



注意

手順7で「**WebSphere Application Server machine (local)**」を選択した場合は、この手順をスキップします。

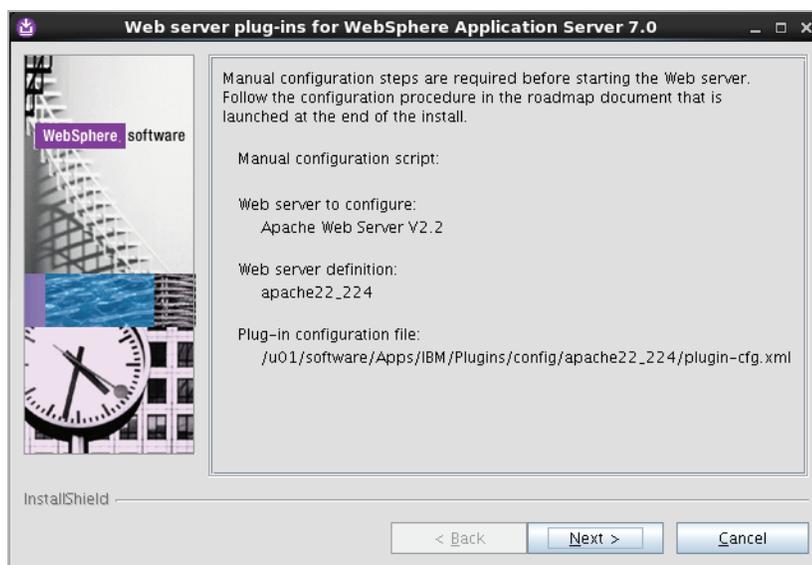
- 「Web server plug-in installation information」画面で、「**Next**」をクリックします。
- 「Web server plug-in installation summary」画面で、「**Next**」をクリックします。

17. 手順7で「**Web server machine (remote)**」を選択した場合は、「Manual configuration steps」画面で次の手順を実行します。

注意

手順7で「**WebSphere Application Server machine (local)**」を選択した場合は、この手順をスキップします。

- a. インストールが正常に完了したら、手動構成スクリプトのパスを書き留めます。このパスは、手順19でスクリプトを見つけるために必要となります。(手順19では、このパスを <plugin_root> と呼びます。)
- b. 「Next」をクリックします。



18. 「Installation completion status」画面で、「**Finish**」をクリックします。

19. 手順 7 で「**Web server machine (remote)**」を選択した場合は、Web サーバー・マシン上の `<plugin_root>/bin` ディレクトリから WAS マシン上の `<WAS_home>/bin` ディレクトリに手動構成スクリプトをコピーします。

注意

この手順を実行する前に、次の点に注意してください。

- 手順 7 で「**WebSphere Application Server machine (local)**」を選択した場合は、この手順をスキップします。
- 手動構成スクリプトの名前は次のとおりです。
 - Windows の場合：
`configure<web_server_definition_name>.bat`
 - Unix の場合：`configure<web_server_definition_name>.sh``<web_server_definition_name>` は、手順 12 で Web サーバー定義に割り当てた名前です。
- Web サーバーと WAS マシンが同じオペレーティング・システム上で動作していない場合は、Web サーバー・マシン上の `<plugin_root>/bin/crossPlatformScripts` ディレクトリにある手動構成スクリプトをかわりに使用する必要があります。

20. 手動構成スクリプトを実行します。

- Windows の場合：`configure<web_server_definition_name>.bat`
- Unix の場合：`configure<web_server_definition_name>.sh`

第 4 部

Oracle WebCenter Sites

この部では、WebCenter Sites のインストール方法を説明します。次の章があります。

- 第 5 章「[Oracle WebCenter Sites のインストールと構成](#)」

第 5 章

Oracle WebCenter Sites のインストールと構成

この章では、WebCenter Sites を WebSphere Application Server にインストールする方法について説明します。

この章は、次の項で構成されています。

- [WebCenter Sites のインストール](#)
- [インストール後の手順](#)

WebCenter Sites のインストール

注意

WebCenter Sites インストーラには、CAS のインストールも含まれていません。デフォルトでは、CAS はプライマリ・サーバーにのみインストールされます。

9 ページの「インストールのクイック・リファレンス」の手順 I-IV.1 を完了してから、提供されているインストーラを使用して WebCenter Sites をインストールします。インストール・プロセスは、2 つのステージで構成されています。

- 最初のステージでは、インストーラによって必要な構成情報が収集され、ファイル構造がインストールされ、デプロイメント用に WebCenter Sites アプリケーションが作成されます。最初のステージの終わりに、WebCenter Sites アプリケーションをデプロイするように求めるインストール・アクションウィンドウがインストーラによって表示されます。サイレント・インストールでは、これらの手順はコマンドラインに表示されます。これらの手順には、WebCenter Sites アプリケーションのデプロイが含まれています。

最初のステージが失敗した場合、インストーラで前に戻って構成オプション (データベース・タイプを除く) を変更し、インストールを再試行できます。

注意

インストール中に指定したデータベースのタイプを変更する必要がある場合は、インストールされた WebCenter Sites ファイル構造を削除してから、インストールをやり直す必要があります。

- 2 番目のステージでは、WebCenter Sites が機能するために必要な表とデータがインストーラによってデータベースに移入されます。2 番目のステージが失敗した場合、データベース表を削除し、WebCenter Sites アプリケーションをアンデプロイし、WebCenter Sites ファイル構造を削除してから、WebCenter Sites を再インストールする必要があります。

インストールのオプション

この項では、WebCenter Sites の 2 種類のインストール方法について説明します。

- GUI インストーラの実行

GUI インストーラを実行すると、グラフィカル・インタフェースによりインストール・プロセスの手順が示され、必要に応じて情報を入力し、オプションを選択するように求められます。また、広範囲にわたるオンライン・ヘルプにもアクセスできます。

- サイレント・インストール

サイレント・インストールの場合は、提供されているサンプル `omii.ini` ファイルの 1 つに、そのファイル内のコメントを参考にしてインストール設定を入力します。ファイル内の設定は、WebCenter Sites のインストールおよびデプロイに使用されます。

GUI インストーラの実行

GUI インストーラを使用して WebCenter Sites をインストールするには：

1. 9 ページの「インストールのクイック・リファレンス」の手順 I-IV.1 を完了済であることを確認します。
2. WebCenter Sites インストーラ・アーカイブを一時ディレクトリに抽出します。
3. インストーラ・ファイルを含む一時ディレクトリに移動します。
4. インストーラ・スクリプトを実行します。
 - Windows の場合：`csInstall.bat`
 - Unix の場合：`csInstall.sh`

インストーラでは、画面ごとにオンライン・ヘルプが提供されています。各画面に表示されているオプションの詳しい説明はオンライン・ヘルプをお読みください。インストール・プロセス中に問題が発生した場合は、オンライン・ヘルプを参照して、考えられる原因と解決策を検討してください。

5. CAS デプロイメント情報の入力画面で、次の 1 つを実行します。
 - ファイアウォールを使用しているネットワークの場合は、フィールドに次のように入力します。
 - **サーバー・ホスト名を入力**：外部ネットワークによって参照される、CAS サーバーのホスト名または IP アドレスを入力します。CAS をクラスタ化する場合は、外部に公開されているロード・バランサのホスト名または IP アドレスを入力します。
 - **サーバー・ポート番号を入力**：外部ネットワークによって参照される、CAS サーバーのポート番号を入力します。CAS をクラスタ化する場合は、外部に公開されているロード・バランサのポート番号を入力します。
 - **内部的にアクセス可能な CAS のサーバー・ホスト名を入力**：内部ネットワークによって参照される、CAS サーバーのホスト名または IP アドレスを入力します。CAS をクラスタ化する場合は、内部ネットワークによって参照される、ロード・バランサのホスト名または IP アドレスを入力します。
 - **内部的にアクセス可能な CAS のサーバー・ポート番号を入力**：内部ネットワークによって参照される、CAS サーバーのポート番号を入力します。CAS をクラスタ化する場合は、内部ネットワークによって参照される、ロード・バランサのホスト名または IP アドレスを入力します。
 - **CAS が実際にデプロイされるサーバー・ホスト名を入力**：CAS がデプロイされるマシンのホスト名を入力します。
 - ファイアウォールを使用していないネットワークの場合は、フィールドに次のように入力します。
 - **サーバー・ホスト名を入力**：CAS サーバーのホスト名または IP アドレスを入力します。CAS をクラスタ化する場合は、ロード・バランサのホスト名または IP アドレスを入力します。

- **サーバー・ポート番号を入力:** CAS サーバーのポート番号を入力します。CAS をクラスタ化する場合は、ロード・バランサのポート番号を入力します。
- **内部的にアクセス可能な CAS のサーバー・ホスト名を入力:** CAS サーバーのホスト名または IP アドレスを入力します。CAS をクラスタ化する場合は、ロード・バランサのホスト名または IP アドレスを入力します。
- **内部的にアクセス可能な CAS のサーバー・ポート番号を入力:** CAS サーバーのポート番号を入力します。CAS をクラスタ化する場合は、ロード・バランサのポート番号を入力します。
- **CAS が実際にインストールされるサーバー・ホスト名を入力:** CAS がデプロイされるマシンのホスト名を入力します。

6. インストールの途中で、インストーラによってインストール・アクションウィンドウが表示され、インストールを完了するために実行する必要がある手順が示されます。次の手順を実行します。
 - a. WebCenter Sites アプリケーションと CAS アプリケーションをデプロイします。手順については、66 ページの「WebCenter Sites アプリケーションのデプロイ」を参照してください。
 - b. インストール手順を続行する前に、次を実行します。
 - 1) Ehcache が適切に機能するように、cas-cache.xml、cs-cache.xml、ss-cache.xml および linked-cache.xml ファイル (WEB-INF/classes フォルダの WebCenter Sites がデプロイされているディレクトリにある) を編集します。次のフィールドは、キャッシュ・タイプごとに一意にする必要があります。
 - multicastGroupAddress

- multicastGroupPort
- timeToLive

注意

クラスタをセットアップする場合、クラスタ・メンバー全体にわたって、対応する各ファイルの値が同一になっていることを確認します。timeToLive フィールドを編集し、マルチキャスト・パケットの伝播を制御します。設定可能なオプションのリストは次のとおりです。

- 1- (マルチキャスト・パケットは同じサブネットに制限されます)
- 32- (マルチキャスト・パケットは同じサイトに制限されます)
- 64- (マルチキャスト・パケットは同じリージョンに制限されます)
- 128- (マルチキャスト・パケットは同じ大陸に制限されます)
- 255- (マルチキャスト・パケットに制限はありません)

- 2) <cs_install>/bin ディレクトリの下にある jbossTicketCacheReplicationConfig.xml ファイルを編集します。次のフィールドが一意的な値になっていることを確認します。

- mcast addr
- mcast port

注意

CAS クラスタをセットアップする場合、各クラスタ・メンバーで、次のフィールドの値が同一になっていることを確認します。

- ClusterName
- mcast addr
- mcast port
- ip_ttl (この値は、使用しているネットワークに応じて 1 または 32 に設定します)

CAS クラスタのセットアップの詳細は、『Oracle WebCenter Sites サポート・ソフトウェアの構成』を参照してください。

- 3) Oracle データベースを使用していて、2000 文字を超えるテキスト属性を必要としている場合、cc.bigtext プロパティを CLOB に設定します。
- 1) 「プロパティ・エディタ」ボタンをクリックすることでプロパティ・エディタを開きます。
 - 2) プロパティ・エディタで futuretense.ini ファイルを開きます。
 - 3) 「データベース」タブをクリックします。

- 4) cc.bigtext プロパティを見つけ、その値を CLOB に設定します。
 - 5) 変更内容を保存し、プロパティ・エディタを閉じます。
7. インストールが正常に完了したら、105 ページの「インストール後の手順」に進みます。

サイレント・インストール

WebCenter Sites をサイレント・インストールするには：

1. 9 ページの「インストールのクイック・リファレンス」の手順 I-IV.1 を完了済であることを確認します。
2. WebCenter Sites インストーラ・アーカイブを一時ディレクトリに抽出します。
3. その一時ディレクトリの Misc/silentinstaller フォルダには、サイレント・インストールに使用できるサンプル omii.ini ファイルが含まれています。
 - コンテンツ管理システムまたは開発システムをインストールする場合は、generic_omii.ini ファイルを使用します。
 - 配信システムをインストールする場合は、delivery_omii.ini ファイルを使用します。
 - a. デフォルト値を検証し、必要に応じて追加の値を入力することで、インストール・タイプに合わせてファイルを編集します。その説明については、ファイル内のコメントを参照してください。
 - b. ファイルを保存し、それを <cs_install_dir> の外のフォルダにコピーします。
4. 配信システムをインストールする場合、fwadmin および ContentServer/SatelliteServer ユーザーに一意的パスワードを設定する必要があります。
 - a. 一時ディレクトリの ContentServer フォルダにある cscore.xml ファイルを開きます。
 - b. 次のセクションでパスワードを設定します。

```
<IF COND="Variables.bShowInstallTypeDialog=false">
  <THEN>
    <DIALOGACTION>
      <SETVARIABLE NAME="passwordVar" VALUE=" "/>
      <SETVARIABLE NAME="passwordAdminVar" VALUE=" "/>
    </DIALOGACTION>
  </THEN>
</IF>
```

 - 1) NAME="passwordVar" の後の VALUE フィールドに fwadmin ユーザーのパスワードを設定します。
 - 2) NAME="passwordAdminVar" の後の VALUE フィールドに ContentServer/SatelliteServer ユーザーのパスワードを設定します。
 - c. ファイルを保存して閉じます。

5. 一時ディレクトリのルート・フォルダにある `install.ini` ファイルを編集します。
 - a. `nodisplay` プロパティを `true` に設定します。
 - b. `loadfile` プロパティを非コメント化し、それを手順 3b の `omii.ini` ファイルのパスと名前に設定します。

注意

ファイル・システム・パスを正しく指定したことを検証します。たとえば、Windows の場合は次のようになります。

```
CSInstallDirectory=C¥:/csinstall
```

または

```
c¥:¥¥install
```

- c. ファイルを保存して閉じます。
6. インストーラ・ファイルを含む一時ディレクトリに移動します。
7. インストーラ・スクリプトを実行します。
 - Windows の場合 : `csInstall.bat -silent`
 - Unix の場合 : `csInstall.sh -silent`
8. インストールを完了するには、101 ページから始まる手順 5-7 を参照してください。
9. インストールが正常に完了したら、105 ページの「インストール後の手順」に進みます。

インストール後の手順

WebCenter Sites のインストールが正常に完了したら、次の手順を実行します。

- A. ファイルの権限の設定 (Unix のみ)
- B. XML パーサーのロード
- C. ライブラリ・パス変数への WebCenter Sites バイナリ・ディレクトリの追加
- D. インストールの検証
- E. Oracle Access Manager (OAM) と WebCenter Sites の統合 (オプション)
- F. LDAP との統合 (オプション)
- G. WebCenter Sites クラスタのセットアップ (オプション)
- H. CAS クラスタのセットアップ (オプション)
- I. CAS の再デプロイ (オプション)
- J. 業務目的に合わせた WebCenter Sites のセットアップ

A. ファイルの権限の設定 (Unix のみ)

Unix 上に WebCenter Sites をインストールした場合は、<cs_install_dir>/bin ディレクトリのすべてのファイルに「実行」権限を付与する必要があります。そのためには、次の手順を実行します。

1. <cs_install_dir>/bin ディレクトリに移動します。
2. 次のコマンドを実行します。 **chmod +x ***
3. WebCenter Sites アプリケーションを再起動します。

B. XML パーサーのロード

WebCenter Sites には、Microsoft XML Parser の変更されたバージョン (WEB-INF/lib ディレクトリにある MSXML.jar) が含まれています。これと異なるバージョンのパーサーが CLASSPATH 環境変数で参照されている場合は、WebCenter Sites で使用されるバージョンを参照するようにそのパスを変更する必要があります。そうしないと、XML を解析するときに WebCenter Sites が失敗します。

C. ライブラリ・パス変数への WebCenter Sites バイナリ・ディレクトリの追加

注意

クラスパスとライブラリ・パスが適切に設定されていない場合は、WebCenter Sites の Admin インタフェースの「管理」タブにある「システム・ツール」ノードの機能が制限され、CAS の起動が失敗します。

ContentServer コンポーネントが WebCenter Sites で機能するようにするには、WebCenter Sites バイナリ・ディレクトリ <cs_install_dir>/bin を次のようにライブラリ・パス変数に追加する必要があります。

- HP-UX の場合：
<cs_install_dir>/bin を SHLIB_PATH に追加します。
- Linux および Solaris の場合：
<cs_install_dir>/bin を LD_LIBRARY_PATH に追加します。
- AIX の場合：
<cs_install_dir>/bin を LIBPATH に追加します。
- Windows の場合：
<cs_install_dir>%bin をシステムの PATH 変数に追加します。

AIX および Solaris をベースとするシステムでは、Installer フォルダ (WebCenter Sites インストーラの抽出先) にある sigar/bin/<os_type> フォルダから適切なライブラリ・ファイルを、<cs_install_dir>/bin ディレクトリに手動でコピーする必要があります。その後で、<cs_install_dir>/bin ディレクトリから不適切なバージョンを削除します。

たとえば、AIX 64 ビットの場合、`libsigar-ppc64-aix-5.so` を `<Installer>/sigar/bin/AIX64/` から `<cs_install>/bin` ディレクトリにコピーし、`libsigar-ppc-aix-5.so` を `<cs_install>/bin` ディレクトリから削除します。

注意

WebCenter Sites ログ・ファイル内の次のメッセージは、正しいライブラリがライブラリ・パスに見つからないことを示します。

```
"UnsatisfiedLinkError caught: Content Server is unable to gather/display  
system information. Ensure that java.library.path (or  
LD_LIBRARY_PATH) is pointed to CSInstallDirectory/bin"
```

そのような場合は、アプリケーション・サーバーに対して -
`Djava.library.path=<cs_install_dir>/bin` を設定します。

デフォルトの WebCenter Sites ログ・ファイル (`sites.log`) は、インストール・プロセス中に、`<cs_install_dir>/logs` ディレクトリに作成されます。

D. インストールの検証

Oracle WebCenter Sites に総括管理者としてログインして WebCenter Sites の Admin、Contributor、および WEM の Admin インタフェースにアクセスすることでインストールを確認します。この手順において (WebCenter Sites からログアウトしてから再びログインすることなく異なるアプリケーションにアクセスすることで) シングル・サインオン機能を検証します。

WebCenter Sites のインタフェースにアクセスするには：

1. ブラウザで次の URL にアクセスします。

`http://<server>:<port>/<context>/login`

ここで <server> は WebCenter Sites を実行しているサーバーのホスト名または IP アドレス、<port> は WebCenter Sites アプリケーションのポート番号、<context> は、サーバー上にデプロイされた WebCenter Sites アプリケーションの名前です。

WebCenter Sites のログイン・フォームが表示されます。

2. 次の資格証明を入力します。
 - ユーザー名 : **fwadmin**
 - パスワード : **xceladmin**
3. 「ログイン」をクリックします。
4. WEM の Admin インタフェースにアクセスします。「サイト」ドロップダウンで「AdminSite」を選択し、WEM の Admin インタフェースのアイコンを選択します。

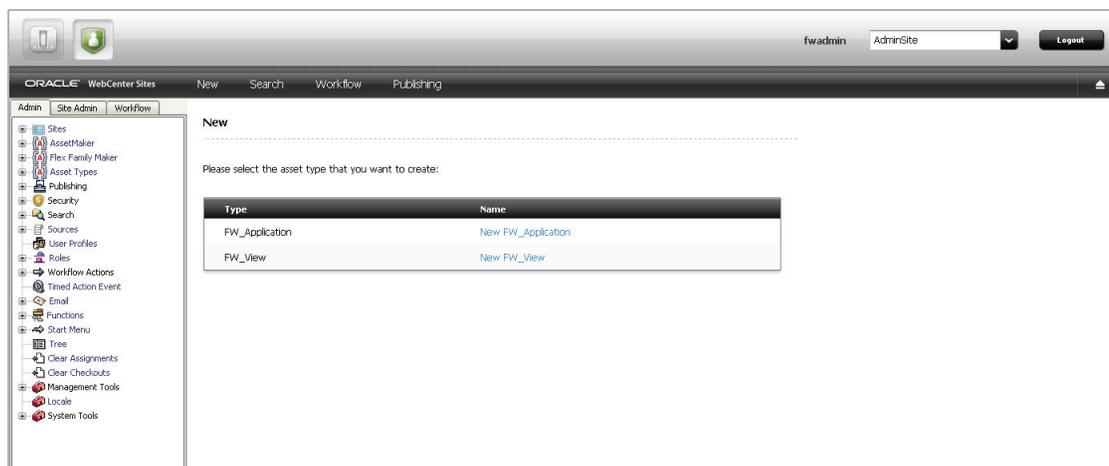
WEM の Admin インタフェース (AdminSite 上) が表示されます。



5. アプリケーション・バーに移動し、WebCenter Sites の Admin インタフェースのアイコンを選択することで WebCenter Sites の Admin インタフェースに切り替えます。



WebCenter Sites の Admin インタフェース (AdminSite 上) が表示されます。使用可能なものはシステム管理機能のみです。



6. 次のように WebCenter Sites の Contributor インタフェースに切り替えます。

注意

WebCenter Sites の Contributor インタフェースは AdminSite と関連していません。avisports と FirstSite II のサンプル・サイトがインストールされている場合、これらのサンプル・サイトの 1 つに切り替えて Contributor インタフェースにアクセスできます。サンプル・サイトがインストールされていない場合、WEM の Admin インタフェースにアクセスし (108 ページの手順 4 を参照)、サイトを作成し、ユーザーを作成してそれらのユーザーをサイトに割り当てる必要があります。Contributor インタフェースが自動的にサイトに割り当てられます (手順は、『Oracle WebCenter Sites Web エクスペリエンス管理フレームワーク管理者ガイド』を参照してください)。その後、この手順を続行します。

- a. アプリケーション・バーに移動します。サイト選択ドロップダウン・メニューで、AdminSite 以外のサイトを選択します。

サイト選択ドロップダウン・メニュー

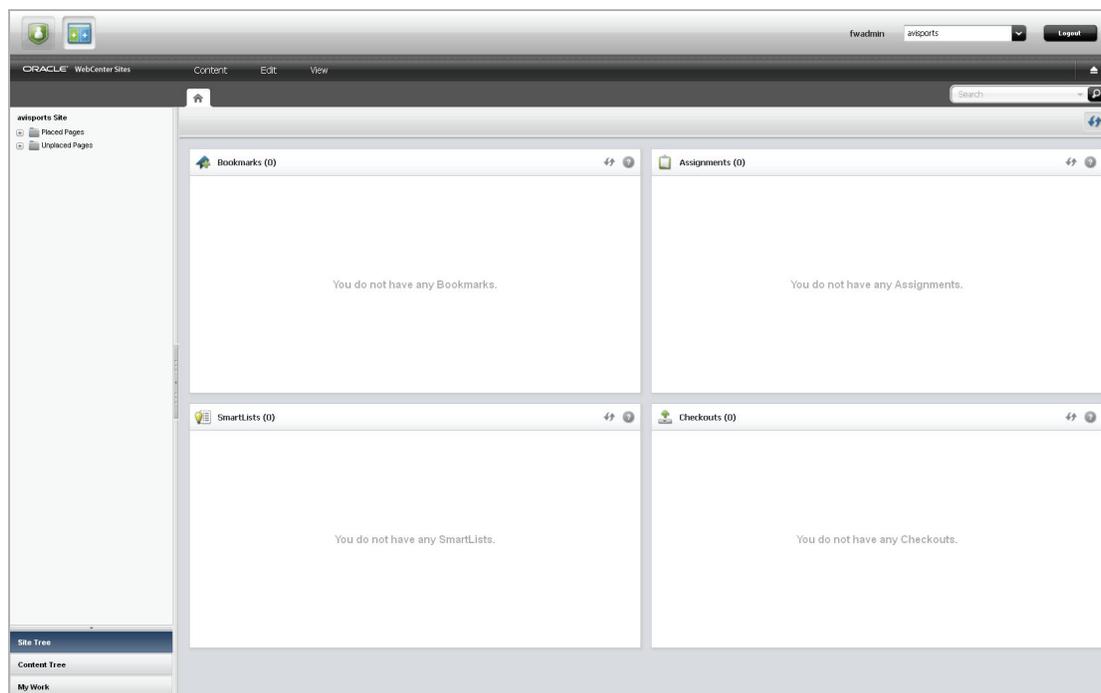


- b. 選択したサイトにアクセスするのはこれが初めてなので、次の画面が表示されます。**Contributor** インタフェースのアイコンを選択します。



(以後のアクセスでは、選択したサイトの最後にアクセスしたアプリケーションが開きます。)

ログインしているサイトの **Contributor** インタフェースが次のように表示されます。



これで WebCenter Sites を構成する準備が整いました。この章の残りの手順に従ってください。

E. Oracle Access Manager (OAM) と WebCenter Sites の統合 (オプション)

CAS を Oracle Access Manager (OAM) に置き換える場合は、『Oracle WebCenter Sites サポート・ソフトウェアの構成』に記載の手順を参照してください。

F. LDAP との統合 (オプション)

LDAP との統合を実行する場合は、次の手順を実行します。

1. 選択したサポートされている LDAP サーバーをセットアップします。手順については、『Oracle WebCenter Sites サポート・ソフトウェアの構成』を参照してください。
2. WebCenter Sites CD に含まれている LDAP 統合プログラムを実行します。詳細は、『Oracle WebCenter Sites LDAP との統合』を参照してください。

注意

プライマリ・クラスタ・メンバー用に LDAP を構成済である場合、必ずすべてのセカンダリ・クラスタ・メンバーに対して `configuredLDAP.sh` を実行してください。

G. WebCenter Sites クラスタのセットアップ (オプション)

この項の手順を開始する前に、次の事項を確認します。

- 垂直クラスタをインストールしていること (WAS インスタンスが同じマシンにインストールされていること)。
- WAS のインスタンスがインストールおよび構成済で、そのインスタンスが検証された WebCenter Sites システムを実行していること。
- すべてのクラスタ・メンバーが読取りおよび書込みできる共有ファイル・システム・ディレクトリ (このガイドでは `<cs_shared_dir>` と呼びます) を作成済であること。このディレクトリ名およびパスに空白を含めることはできません。
- 共有ファイル・システム・ディレクトリ内に `sync` ディレクトリを作成済であること。
- すべての WebCenter Sites クラスタ・メンバーが使用するデータベースに対するログイン情報を含む J2C 認証を作成済であること。手順については、50 ページの「J2C 認証の作成」を参照してください。

WebCenter Sites クラスタを設定するには：

各クラスタ・メンバーに対して、次の手順を実行します。

1. 新しい WAS インスタンスを作成します。手順については、43 ページの「コマンドラインを使用した WAS インスタンスの作成」を参照してください。
2. WebCenter Sites インストール・ディレクトリを作成します。このディレクトリ名およびパスに空白を入れることはできません。また、アプリケーション・サーバーはこのディレクトリへの読取りおよび書込みを行える必要があります。
3. WebCenter Sites データベースに対して作成した J2C 認証に基づいて、一意の JDBC プロバイダを作成します。手順については、52 ページの「JDBC プロバイダの作成」を参照してください。

4. WebCenter Sites データベースに対して作成した J2C 認証およびこの手順の [手順 3](#) で作成した JDBC プロバイダに基づいて、一意の JDBC データ・ソースを作成します。手順については、[57 ページの「JDBC データ・ソースの作成」](#)を参照してください。
5. 新しく作成した WAS インスタンス上に WebCenter Sites クラスタ・メンバーをインストールします。[101 ページの「GUI インストーラの実行」](#)または [104 ページの「サイレント・インストール」](#)の手順に従いますが、次の例外に注意してください。
 - GUI インストーラを実行する場合：
 - 「インストール・ディレクトリ」画面で、この項の[手順 2](#)で作成したインストール・ディレクトリを選択します。
 - 「クラスタリング」画面でクラスタ・メンバーを選択します。
 - WebCenter Sites 共有ファイル・システム画面で、プライマリ・クラスタ・メンバーの共有ファイル・システムのパスを入力します。
 - WebCenter Sites アプリケーション・デプロイメント画面で、この項の[手順 1](#)で作成した WAS インスタンスのパスを入力します。
 - サイレント・インストール用の omii.ini ファイルを構成する場合：
 - CSInstallDirectory をこの項の[手順 2](#)で作成したインストール・ディレクトリに設定します。
 - CSInstallType を cluster に設定します。
 - CSInstallSharedDirectory をプライマリ・クラスタ・メンバーの共有ファイル・システムに設定します。
 - CSInstallAppServerPath をこの項の[手順 1](#)で作成した WAS インスタンスに設定します。
 - CSInstallAppServerPath を、この項の[手順 1](#)で作成した Tomcat インスタンスの CATALINA_HOME に設定します。
 - CASHostName を CAS の外部ロード・バランサの解決可能なホスト名または IP アドレスに設定します。
 - CASPortNumber を CAS の外部ロード・バランサのポート番号に設定します。
 - CASHostNameLocal を CAS の内部ロード・バランサの解決可能なホスト名または IP アドレスに設定します。
 - CASPortNumberLocal を CAS の内部ロード・バランサのポート番号に設定します。
 - CASHostNameActual を CAS が実際にデプロイされるサーバーの解決可能なホスト名または IP アドレスに設定します。
6. 次の変更を加えることにより、<cs_install_dir>/futuretense.ini ファイルを編集します。
 - a. ft.sync をすべてのクラスタ・メンバーに対して同じ値に設定します。
 - b. ft.usedisksync を <cs_shared_dir>/sync に設定します。
7. WebCenter Sites アプリケーションを再起動して、変更内容を有効にします。手順については、[77 ページの「WebCenter Sites アプリケーションの再起動」](#)を参照してください。

H. CAS クラスタのセットアップ (オプション)

インストーラは、プライマリ WebCenter Sites クラスタ・メンバー上にのみ CAS をデプロイするように構成されています。別のサーバーに CAS をデプロイする場合は、手動で CAS をデプロイすることが必要になります。さらに、セカンダリ CAS クラスタ・メンバーを手動で構成およびデプロイする必要があります。手順については、『Oracle WebCenter Sites サポート・ソフトウェアの構成』を参照してください。

I. CAS の再デプロイ (オプション)

別のサーバーに CAS を手動で再デプロイすることが必要になることもあります。CAS の再デプロイの詳細は、『Oracle WebCenter Sites サポート・ソフトウェアの構成』を参照してください。

J. 業務目的に合わせた WebCenter Sites のセットアップ

WebCenter Sites のインストールを完了すると、業務で使用するためにそれを構成する準備が整います。手順については、『Oracle WebCenter Sites 管理者ガイド』および『Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド』を参照してください。これらのガイドでは、データ・モデル、コンテンツ管理サイト、サイト・ユーザー、パブリッシュ関数、およびクライアント・インタフェースなどのコンテンツ管理環境を作成および有効化する方法について説明しています。